

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	PCグラフィック応用実習						
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	F71190
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	パソコングラフィックによるヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン						
授業の概要	PCグラフィック基礎実習に続き、Illustrator、Photoshopの機能・操作法と共に、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザインの基礎的な知識と技術を学ぶ。実際の用途、伝達対象、使用環境などを想定した大判ポスター、パンフレットなどのデザインを通じて、人に視覚情報を効果的に伝えるための基本的技能を養成します。見た目に簡潔で意図がわかりやすく、かつバランスのとれたヴィジュアル媒体をデザインできることを目標とします。						
到達目標	タイポグラフィ、レイアウトデザインの要点を理解し、簡単なエディトリアル作品を制作できる。						
授業計画	1) 09/26 オリエンテーション -基礎実習の振り返り- 2) 10/03 曲線イラストモチーフを利用したポスター 3) 10/10 グラデーション機能を利用したポスター 4) 10/17 文字ツールを活用したロゴ・デザイン 5) 10/24 文字・段落スタイルによるレイアウト・デザイン 6) 10/31 プリント機能とプリンター詳細決定 7) 11/07 Photoshopの基本機能操作 写真と画像、選択方法 8) 11/14 基本的補正、色調補正 9) 11/21 レタッチ・ツールを利用した補正・合成 10) 11/28 Photoshop機能を活用したロゴ・デザイン 11) 12/05 雑誌スタイルのレイアウト・パターン 12) 12/12 エディトリアル制作のための情報収集 ファッションブランドの情報収集 13) 12/19 リーフレット・デザイン -1- 画像とテキストの整理 14) 01/09 リーフレット・デザイン -2- シーズントレンド紹介のレイアウト 15) 01/16 作品講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常的に目にするリーフレット、パンフレットなどのエディトリアルデザインに関心を持つ。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（40%）は各回の課題提出状況、スキルの理解度、最終課題（リーフレット）の完成度（60%）を併せて評価します。						
履修上の注意	制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるため、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。 教科書を必ず購入し、毎回の授業に持参すること。 A4サイズのクリアファイル（授業で指定）を購入し、制作課題を保存すること。						
教科書	「きちんと身につくIllustratorの教本」、初版、ヤマダ他共著、MdN、ISBN978-4-8443-6675-1 *前期使用 「きちんと身につくPhotoshopの教本」、初版、高橋他共著、MdN、ISBN978-4-8443-6678-2						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	PCグラフィック基礎実習						
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	F71180
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「パソコン・グラフィック・アートの制作」						
授業の概要	パソコンのグラフィックソフト(illustrator)の入門として、基本図形や文字、画像などのオブジェクト入力、移動・回転・拡大縮小などの操作、図形作成・変換、カラー操作などの基本操作を習得するとともに、素材集を活用したデザイン方法を習得する。グラフィックソフトの基本操作を習得した上で、簡単なグラフィックアート作品および文章組版作品の制作を目標とする。						
到達目標	グラフィックソフトの基本操作 1) オブジェクトの作成と変形 2) カラー設定の操作 3) 文章のレイアウト などを習得し、簡単なグラフィックアート作品を制作できる。						
授業計画	1) 04/11 オリエンテーション - 教室、システムの使い方、教科書について 2) 04/18 グラフィックアート制作においてillustratorでできること、画面構成 3) 04/25 オブジェクトとパス - 1 - 基本図形とツール、選択と変形 4) 05/02 " - 2 - ペンツール、パスファインダー 5) 05/09 " - 3 - 曲線の描き方、フリーハンドのイラスト 6) 05/16 カラーの操作 - 1 - カラーパネル、スウォッチパネル、グラデーション 7) 05/23 " - 2 - 塗りと輪郭 8) 05/30 文字とタイポグラフィ - 1 - 文字操作ツールとパネル 9) 06/06 " - 2 - パンフレットの組版 10) 06/13 " - 3 - 表組みとメニュー表 11) 06/20 タイポグラフィによるポスター 12) 06/27 画像を効果的に構成したポスター 13) 07/04 リーフレット・デザイン - 1 - テーマ設定、写真・テキストの収集 14) 07/11 " - 2 - 各ページのレイアウト構成 15) 07/18 " - 3 - 完成と作品講評						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	日常的に関心を持ってグラフィックアート作品のデザインについて、統一と変化、形や色のバランスなどを見る習慣を心がける。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	最終課題作品60%、平常点40%で評価します。 平常点は毎回の課題の提出状況、スキルの上達度を評価します。						
履修上の注意	制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるため、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。 教科書を必ず購入し、毎回の授業に持参すること。 A4サイズのクリアファイル(授業で指定)を購入し、制作課題を保存すること。						
教科書	「きちんと身につくillustratorの教本」、初版、ヤマダ他共著、MdN、ISBN978-4-8443-6675-1						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	アパレル科学I (被服構成)						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	F72200
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	・快適な衣生活をめざして、人体の形態、運動機能性と衣服の関わりについて考え、衣服を造形するうえで必要な知識を習得する。						
授業の概要	私たちの最も身近な環境である衣服について、衣服を着る人体と衣服の構造や形との関連性を学び、生まれてから高齢となるまでの体型や機能の変化から、ライフスタイルと衣服について検討する。これらの知識を定着させるため、視聴覚教材や学習内容の実践を交えて理解を確実なものとする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体と衣服の関係性を科学的視点から捉え、考察することができる。</li> <li>・「衣服を着る」ことから生じる着心地の良さや、美しさを実現するために必要な知識を習得し、理解できる。</li> <li>・学習内容を実践し、討議、発表することができる。</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ペーパードレスの制作 グループワーク 新聞紙を使ったドレスを製作</li> <li>3. 発表</li> <li>4. 衣服の形式と形態 構造上から衣服の形を分類 民族服</li> <li>5. 和服の歴史と構造 和服の歴史的変遷、素材と構成</li> <li>6. 人体の構造 着衣する人体の構造</li> <li>7. 人体の形の把握法 直接計測法と間接計測法</li> <li>8. 人体形態の年齢的变化</li> <li>9. 副素材の種類と構造</li> <li>10. 衣服の素材と造形性能、動作適合性</li> <li>11. 衣服の選択と購入 既成衣服の生産と流通、表示</li> <li>12. 衣服の設計1 胸部原型の作成 前身頃</li> <li>13. 衣服の設計2 胸部原型の作成 後身頃</li> <li>14. 衣服の設計3 原型の作成 袖</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：各回、授業で行う当該箇所の予習(詳細は授業内で指示)(学習時間：90分) 授業後学習：授業で取り上げた内容を整理、復習(学習時間：90分)						
授業方法	講義とグループ・ワーク。視聴覚教材(パワーポイントやDVD)を活用する。						
評価基準と評価方法	課題40%、発表20%、レポート20%、授業への参加度(積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか)20%						
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席を必要とする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	『新版 アパレル構成学』(朝倉書店、編著 富田明美) 必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	アパレル科学II (材料)						
担当教員	古濱 裕樹					科目ナンバ-	F72210
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	衣生活を支える被服材料の性能について理解を深める						
授業の概要	繊維の性質と布の性質が被服材料としての要求性能に大きく影響を与えていることを理解する知識を学習する。具体的には、現代の衣生活を支える被服材料の歴史、多種多様な材料と性能、被服の目的・用途に応じた最適材料の選択、繊維製品の組織等について学ぶ。生活者として被服の選択基準、使用、管理の場でこうした知識を生かした豊かな衣生活を営むこと、またファッション業界で役立つ知識の修得を目指す。						
到達目標	(1) 被服材料(素材)の種類・その性能について興味・関心をより具体的のもととして意識することができる。 (2) 人間の生理機能から求められる被服材料について他者に説明できる。 (3) 豊かな衣生活を営むための被服材料についての知識を身につける。 (4) ファッション業界で役立つ被服材料の知識を修得できる。						
授業計画	第1回：被服材料とは 第2回：被服材料の性能と特徴 1 天然繊維；綿繊維について 第3回：被服材料の性能と特徴 2 天然繊維；麻繊維について 第4回：被服材料の性能と特徴 3 天然繊維；毛繊維について 第5回：被服材料の性能と特徴 4 天然繊維；絹繊維について 第6回：被服材料の性能と特徴 5 化学繊維について 第7回：被服材料の性能と特徴 7 再生繊維；レーヨンについて 第8回：被服材料の性能と特徴 8 再生繊維；キュプラ・ポリノジックについて 第9回：被服材料の性能と特徴 9 半合成繊維；アセテートについて 第10回：被服材料の性能と特徴 10 合成繊維；ナイロンについて 第11回：被服材料の性能と特徴 11 合成繊維；ポリエステルについて 第12回：被服材料の性能と特徴 12 合成繊維；アクリルについて 第13回：被服材料に要求される性能 人間の生理機能から考える 第14回：被服材料の性能改善と新素材 第15回：授業内容のまとめ・総復習と期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：配布資料を読み、理解が難しい箇所について授業内で質問できるようにしておくこと。 (学習時間：30分～90分) 授業後学習：「被服材料の性能と特徴1～12」については、確認テストを実施するため復習を行うこと。 (学習時間：30分～90分)						
授業方法	講義(講義内容の興味・関心を図るため簡易な実験や各種試料布を使用しながら被服材料の理解を深める)						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 (1) 授業中課題および確認テスト(40%)到達目標(2)(3)(4)に関する到達度の確認。 (2) 期末試験(60%)到達目標(1)～(4)に関する到達度ならびに応用力の確認。 確認テストに対するフィードバックの方法 間違った箇所を訂正し返却する。再度、配布資料を見直しその箇所を確認すること。						
履修上の注意	1. 授業回数の3分の2以上の出席に満たない者は定期試験の受験資格を失うものとする。 2. 質問は授業の前後で受け付ける。						
教科書	榎本雅穂ら(編)：新版 生活材料学 アイ・ケイコーポレーション						
参考書	日下部信幸著；生活のための被服材料学 家政教育社						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	アパレル科学III (管理・衛生)						
担当教員	古濱 裕樹					科目ナンバ-	F73220
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の生理機能と外環境からの被服材料の汚れ除去について被服の衛生と管理から理解する						
授業の概要	人の皮膚や体温の生理的機能や外的な温度・湿度から快適で衛生的な衣生活のための被服衛生と被服管理について学習する。具体的には、普段の生活で行う洗濯について'なぜ、洗濯が必要か'という視点から被服の汚れや洗浄、それに用いる洗剤や洗濯機の機能について科学的に学ぶ。被服の衛生的条件、被服による気候調節を理解し被服の管理・衛生の知識を深める。						
到達目標	(1) 人の皮膚や体温の生理的機能を理解し、被服を衛生的に保つ大切さが理解できる。 (2) 普段の衣生活の管理と衛生に役立つ知識を身に付けることができる。 (3) ファッション業界で役立つ被服の取り扱いについての知識を得ることができる。						
授業計画	第1回 被服管理・衛生について：洗濯は、なぜ必要か 第2回 被服の汚れ 汚れの種類・性質・付着機構 第3回 汚れの除去1 汚れを除去する材料（洗濯用水）について 第4回 汚れの除去2 汚れを除去する材料（洗剤）について 第5回 汚れの除去3 各種界面活性剤について 第6回 汚れの除去4 汚れを除去する材料（洗濯方式）について 第7回 洗浄機構 1 洗剤による汚れ除去機構（水系①） 第8回 洗浄機構 2 洗剤による汚れ除去機構（水系②） 第9回 洗浄機構 3 洗剤による汚れ除去機構（非水系） 第10回 洗浄力試験法洗浄力試験と評価 第11回 漂白と増白 漂白剤の種類とその作用 第12回 しみ抜き しみ抜きの原理と除去方法について 第13回 被服の保管 1 保管中の損傷の種類とその原因 第14回 被服の保管 2 保管中の損傷防止のための手入れ 第15回 授業内容のまとめ・総復習と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：配布資料を読み、理解が難しい事柄について授業内で質問できる準備をしておくこと。 （学習時間：30分～90分） 授業後学習：授業内容を確認するため課題レポートを課す。その際には、授業で学んだ知識や配布資料等を参考に考察すること。（学習時間30分～90分）						
授業方法	講義と簡易な実験から授業内容をより理解することを図る。						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 (1) 課題レポート（40%）到達目標（2）および（3）に関する到達度の確認。 (2) 期末試験（60%）授業で行った被服管理・衛生についての知識が身についているか総体的に確認する。 課題に対するフィードバックの方法 課題の目的や解答について解説し、それに関する質問等についても受ける。						
履修上の注意	1. 授業回数の3分の2以上の出席に満たない者は定期試験の受験資格を失うものとする。 2. 質問は授業の前後で受け付ける。						
教科書	毎回の講義で資料を配布する。						
参考書	吉永フミ, 多田千代, 西出伸子 共著：新版 被服整理学 その実践：光生館 中西茂子, 岩崎芳枝, 斉藤昌子, 他2名：被服整理学：朝倉書店						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリサーチ演習						
担当教員	中林 浩					科目ナンバ-	F32110
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>戸外に出て調査をし、どんな風物・景観があるのかを図示する授業です。「デザインサーベイ」といってもいいかな。この授業が対象とする地域という対象は、多面的で豊かな内容をもちます。山があり川があり、お店や工場があり住宅があり、鉄道があり道路があります。自然物がそれぞれの法則で存在しているなかで、人間が生活をしています。まず、そういう基本的なことを体感することが大切ですね。それを図として表現する基礎を学びます。基本的な態度や技術を学ぶといってもひとつの授業ですのでたくさんのはできません。</p> <p>ちょっとしたマッピングの練習といったところでしょうか。でも、みんなマップを書くのが苦手ですね。とくに簡略化することが。写真を撮ったり記述したり絵やマップにしあげます。これらを経て、都市やまちづくりへの興味を深めてもらいます。自分が体感したことを表現するには訓練がいるというのがわかるでしょう。</p> <p>あっ、そして調査中のハプニングにも期待します。だれかに話しかけられたとか、道に迷ってしまったとか。つまりそのときにしか起こらなかった記録が重要なのです。</p>						
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。						
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に応えることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 リサーチの準備—なにを調べるのか</li> <li>2 リサーチの準備—どこで調べるか</li> <li>3 リサーチの準備—どのように調べるか</li> <li>4 リサーチ1—踏査・メモ</li> <li>5 リサーチ1—スケッチ・写真・マップ</li> <li>6 かんたんまとめ</li> <li>7 リサーチ2—踏査・メモ</li> <li>8 リサーチ2—スケッチ・写真・マップ</li> <li>9 かんたんまとめ</li> <li>10 リサーチ3—踏査・メモ</li> <li>11 リサーチ3—スケッチ・写真・マップ</li> </ol> <p>●写真から起こした景観の絵を5枚以上手書きで描いてスキャナーでとる。それをパワーポイント5ページにして提出。●解説を付ける、どう良いかどう悪いか。●地図も付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>12 まとめ作業—ややかんたんに</li> <li>13 まとめ作業—くわしく</li> <li>14 まとめ作業—完成1</li> <li>15 まとめ作業—完成2</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。「やってみなければ分からない」という言葉は保守的な慣習を他人に強制する時に使用する（「マーフィの法則」より）。						
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの演習です。						
評価基準と評価方法	おおむね提出物で採点し、授業への参加の積極性を加味することもあります。						
履修上の注意	<p>学外に出ることもあります。調査は土曜日や日曜日に振り替えられることも多い。</p> <p>履修ガイドにあるEメールで連絡いただくのが望ましいのですが、facebook や LINE でもかまいません。</p> <p>オフィスアワーは金曜日12:10-13:10に641で。金曜日は午前中3年生のゼミ、午後4年生のゼミなのでその間、またその前後も641あたりにいることが多い。</p>						
教科書							

参考書	
-----	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーI (生活アート実習)						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバー	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	イメージに基づいた平面から立体への造形						
授業の概要	<p>本科目では、デザインイメージの発想法とそのイメージを形にする手法をファッション領域の実習形式で学ぶ。イメージを基に衣服をデザインし、目的に応じた手法で制作することを目的とする。</p> <p>ファッションデザインとは、環境や時代性といった様々な事柄からインスピレーションを受け、それらをイメージ化し、衣服という立体造形として表現するものである。ここでは、個々に設定したテーマを基に、調査・分析し、そこで得られた結果に基づきデザインを発想する。最終的にスカート、Tシャツの組み合わせとしてイメージの立体化をおこなう。</p> <p>また一連の工程の中で、デザインテーマ、デザイン画、試作品、実物作品を資料としてファイリングし、成果物としてまとめる。</p>						
到達目標	<p>1. 認知的領域：知識・理解  (1) 個々に設定したテーマについて調査・分析し、デザインを発想することができる。  (2) 衣服制作に必要な基本的な技法、道具の使い方を理解できる。</p> <p>2. 情意的領域：関心・意欲  (1) 自分の好みを知り、そのイメージを衣装で表現することができる。</p>						
授業計画	<p>1. オリエンテーション：授業内容の説明とテーマ探し。</p> <p>2. 調査・分析：個々に設定したテーマについて調査をおこなう。その内容をテイスト分類、色彩、素材、シルエットなどについて分析し、まとめる。</p> <p>3. デザイン：デザイン手法の説明。デザインの考案。</p> <p>4. デザイン、試作①：デザインの決定。トワルによるスカートの試作。</p> <p>5. 試作②：トワルによるスカートの試作</p> <p>6. スカート①：本布裁断。印つけ。</p> <p>7. スカート②：脇線、ウエスト部分の縫製。</p> <p>8. スカート③：裾の縫製、ウエストゴム通し。</p> <p>9. スカート④：装飾。仕上げ。</p> <p>10. Tシャツ①：デザインの決定。</p> <p>11. Tシャツ②：装飾品等の準備。</p> <p>12. Tシャツ③：各自のデザインに応じ制作。</p> <p>13. Tシャツ④：仕上げ。コーディネート計画。</p> <p>14. 写真撮影：着用写真を撮影。プレゼンテーション用のボード作成。</p> <p>15. プレゼンテーション：作品発表・講評会を行う。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業後学習：授業内で制作課題が終わらない学生は、次回の授業までに終わらせる。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	実物作品(70%)、資料ファイル(30%)で評価する。						
履修上の注意	<p>1. 実習のため、原則、欠席・遅刻を認めない(やむをえない場合は、10回以上の出席とする)。</p> <p>2. 材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。</p> <p>オフィスアワー：本館6階 火曜10:40~12:10</p>						

教科書	必要に応じて、プリントを配布する。
参考書	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーI (生活アート実習)						
担当教員	川嶋 守彦					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	アートから学ぶ、イメージング方法の研究とその実践						
授業の概要	<p>アートやデザインは言葉や言語を介さずにイメージの持つ力で他者とのコミュニケーションの可能性を示すものであり、日々の会話やジェスチャーと同じ表現の一形態であり、極私的表現が普遍性や社会性を持ち、我々に対する強いメッセージにも成りうるものでもある。とりわけ、モダンアートや現代美術と呼ばれるものはその名のとおり、現代社会に対してイメージーションによる変化を促すものである。</p> <p>では、それら現代のアートやデザインはどのような思考によって表現されているのか。その表現の核となる概念を見出すこと。それは決して難解なものではなく、具体的な表現方法を実制作を通して学びます。簡単なデッサンから始め、基礎的な絵画技法を各テーマの中で習得してゆき、最終課題の自由制作へ向けて授業は進んでいきます。</p> <p>当授業は主に絵画制作基本としているが、着想の仕方や構想の展開は絵画だけで成されるものではなく、履修者それぞれに合った素材や表現形態の可能性を模索します。各回に設定されたテーマはそのための補助線となります。なにより、実際に楽しみながら手をうごかし、素材の中で思考することが重要である。</p>						
到達目標	<p>基礎的なデッサンや着彩技法を習得することが出来る。</p> <p>また、実制作を通じた独自の発想力や着想の視点確立はそれぞれの履修者にとって、今後の多彩な表現におけるヒントとなり、イメージングの基礎力を育成することが出来る。</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス (授業内容の説明)</p> <p>第2回 石膏デッサン (簡単な幾何模型がモチーフの鉛筆デッサン)</p> <p>第3回 石膏デッサン</p> <p>第4回 石膏をモチーフとした着彩 (アクリル絵の具による着彩)</p> <p>第5回 静物をモチーフとした着彩 (身の回りの物をモチーフとした絵画制作)</p> <p>第6回 タッチと色彩によるイメージの変化 (色彩とタッチによる絵画制作)</p> <p>第7回 10のイメージカード制作 (一つのモチーフで10パターン異なるイメージを)</p> <p>第8回 アートを観賞する (学外美術施設へのアート見学)</p> <p>第9回 ことばから (4つの名詞をイメージの核にしたスケッチ制作)</p> <p>第10回 身体性の表現、くりかえす行為 (身体を意識した表現を試みる)</p> <p>第11回 カメラによるイメージハンティング (カメラを使用しテーマに沿った被写体の撮影と構成)</p> <p>第12回 空想家具 (テーマに基づいたデザイン画制作)</p> <p>第13回 自由制作の構想 (各自がテーマを見つけ出し具体化の構想スケッチ制作)</p> <p>第14回 自由制作 (自らが構想したテーマと素材で制作)</p> <p>第15回 自由制作 (自らが構想したテーマと素材で制作とその講評)</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	<p>実習科目であるため、各テーマに基づく作品を授業時間内に完成すること。</p> <p>もし、未完の場合は次回授業までには提出すること。</p>						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	<p>出題テーマに対する理解、応用、技術、発想力、熱心さ(受講姿勢)、出席日数(10回以上の出席)をトータルで判断。</p>						
履修上の注意	<p>画材や材料 (絵の具やスケッチブック他) は各自で用意すること (詳しい用具は第一回のガイダンスで説明)</p> <p>第8回 アートを観賞する (美術施設へのアート見学) については美術展の営業時間内に見学できない場合や雨天 (野外展)、県外への美術展には授業日以外の日や授業テーマの入れ替えを行う場合があります (施設観賞料金、交通費は各自の負担となる)</p>						
教科書							

参考書	
-----	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーI (生活アート実習)						
担当教員	小池 朱里					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	コンセプトメイキングから始まる空間やモノのデザインを体感し、コミュニケーションを生み出すクリエイティブな感性を育てる						
授業の概要	デザインスキル能力向上の一部として、ごく身近なファッションやインテリア関連小物から、空間を演出するアイテム制作を行なう。イメージやコンセプトを具体的なものとして実現するプロセスを習熟すると同時に、実際に制作することを通して“もの”あるいは“素材”に対する想いを育むことを目的とする						
到達目標	(1) イメージを形にするプロセスを楽しむ感性を身につけることができる (2) 伝えたいメッセージを明確にし、空間を創り上げる楽しさを体験することができる (3) 想いを込めて制作することで、人が幸せに笑顔になる喜びを体感することができる						
授業計画	<p>第1回 コミュニケーションデザインとは ペーパークラフト制作①</p> <p>第2回 コンセプトメイキング・プランニングの仕方 ファッションショーテーマ告知・空間演出プランニング課題 (第4回にて発表) ペーパークラフト制作②</p> <p>第3回 ショーウィンドウプランニング ドキュメンタリー映画『ニューヨーク・バーグドルフ 魔法のデパート』94分 ※レポート課題</p> <p>第4回 ファッションショー空間演出プラン発表・投票</p> <p>第5回 ファッションショー空間演出プラン決定 空間デコレーション制作アイテムミーティング</p> <p>第6回 空間デコレーション制作アイテム・材料決定ミーティング</p> <p>第7回 制作アイテム材料調達 ※課外授業：三宮に集合 (現地への往復交通費は各自負担)</p> <p>第8回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第9回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第10回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第11回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第12回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第13回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第14回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第15回 発表：ファッションショー</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前学習：自分自身が興味のあるもの、好きなモノ・コトに常にアンテナを張り、情報収集しておくこと 授業後学習：各課題や実際の空間プロデュース実現に向けてイメージを膨らまし、固めていくこと						
授業方法	講義と制作、空間プロデュースの実際						
評価基準と評価方法	平常点 50% (授業内での制作意欲や、取り組む姿勢、成果物、および到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認により評価する) レポート課題 10% 発表 40%						
履修上の注意	原則として授業回数の3分の2以上の出席に満たない者は単位取得できないものとする 材料調達のための課外授業に関する交通費 (三宮) は学生各自が負担するものとする 空間デコレーションアイテム制作にあたり、学生がこだわりの材料を使用したい場合は、学生各自が費用を負担し用意するものとする						

教科書	プリント、レジュメを配布
参考書	参考書は必要に応じて授業中に紹介します

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーI (生活アート実習)						
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「パソコン・グラフィック・アートの制作」						
授業の概要	パソコンのグラフィックソフト(illustrator)の入門として、基本図形や文字、画像などのオブジェクト入力、移動・回転・拡大縮小などの操作、図形作成・変換、カラー操作などの基本操作を習得するとともに、素材集を活用したデザイン方法を習得する。グラフィックソフトの基本操作を習得した上で、簡単なグラフィックアート作品および文章組版作品の制作を目標とする。						
到達目標	グラフィックソフトの基本操作 1) オブジェクトの作成と変形 2) カラー設定の操作 3) 文章のレイアウト などを習得し、簡単なグラフィックアート作品を制作できる。						
授業計画	1) 04/11 オリエンテーション - 教室、システムの使い方、教科書について 2) 04/18 グラフィックアート制作においてillustratorでできること、画面構成 3) 04/25 オブジェクトとパス - 1 - 基本図形とツール、選択と変形 4) 05/02 " - 2 - ペンツール、パスファインダー 5) 05/09 " - 3 - 曲線の描き方、フリーハンドのイラスト 6) 05/16 カラーの操作 - 1 - カラーパネル、スウォッチパネル、グラデーション 7) 05/23 " - 2 - 塗りと輪郭 8) 05/30 文字とタイポグラフィ - 1 - 文字操作ツールとパネル 9) 06/06 " - 2 - パンフレットの組版 10) 06/13 " - 3 - 表組みとメニュー表 11) 06/20 タイポグラフィによるポスター 12) 06/27 画像を効果的に構成したポスター 13) 07/04 リーフレット・デザイン - 1 - テーマ設定、写真・テキストの収集 14) 07/11 " - 2 - 各ページのレイアウト構成 15) 07/18 " - 3 - 完成と作品講評						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	日常的に関心を持ってグラフィックアート作品のデザインについて、統一と変化、形や色のバランスなどを見る習慣を心がける。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	最終課題作品60%、平常点40%で評価します。 平常点は毎回の課題の提出状況、スキルの上達度を評価します。						
履修上の注意	制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるため、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。 教科書を必ず購入し、毎回の授業に持参すること。 A4サイズのクリアファイル(授業で指定)を購入し、制作課題を保存すること。						
教科書	「きちんと身につくillustratorの教本」、初版、ヤマダ他共著、MdN、ISBN978-4-8443-6675-1						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	人体と素材の関係を理解し、立体的なファッションデザインとして表現する手法を学ぶ						
授業の概要	本科目では、形態と素材という点に着目し立体での表現をおこなうことで、ファッション構想実習Aとは違った視点からの構想方法を学ぶ。具体的にはAで修得したリサーチ、リサーチブック作成の手法を用い、衣服デザインとしてデザインを考案し、実際に衣服制作までをおこなう。ファッションデザインにおける様々な素材や形態に関する知識を習得し、ファッションを、身体を中心とした空間デザインとして表現する自由な発想を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッションデザインにおける素材と形態の関係性を理解する。</li> <li>・与えられる課題に対して、適切なりサーチ、リサーチブック作成を経てデザインを考案できる。</li> <li>・衣服制作に必要な基礎的な技術、手法を修得する。</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 布と人体① ダーツの役割：人体に布を沿わす</li> <li>3. 布と人体② 様々なボリュームで人体を包む</li> <li>4. 分割線のデザイン① 人体と分割線</li> <li>5. 分割線のデザイン② 分割線のデザインと平面化</li> <li>6. 図形によるデザイン① 人体と平面図形</li> <li>7. 図形によるデザイン② リサーチブック作成、デザイン考案</li> <li>8. 図形によるデザイン③ 1/2サイズで作品制作</li> <li>9. 異素材のデザイン① ファッションデザインにおける異素材</li> <li>10. 異素材のデザイン② プチプチ衣服制作</li> <li>11. オリジナルデザイン① テーマ設定、リサーチブック作成</li> <li>12. オリジナルデザイン② デザイン考案、作品制作</li> <li>13. オリジナルデザイン③ 作品制作</li> <li>14. オリジナルデザイン④ 作品制作、写真撮影計画</li> <li>15. オリジナルデザイン⑤ 写真撮影</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	身の周りにあるものをよく観察し、ファッションデザインのインスピレーションとして捉えるよう努める。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品提出(最終作品50%、その他50%)						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習のため、欠席・遅刻に気をつける。</li> <li>2. 材料費等は自己負担とする。</li> </ol>						
教科書	必要に応じて資料を配布						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	蔵田 優美					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	材料から立体的な造形(模型)を生み出す 模型制作を通して木造の建物を具体的に学ぶ 建築空間の創造と模型制作						
授業の概要	模型は、インテリアや建築分野において、実際の空間で表現したいものを考察・プレゼンテーションするために、未だ必須の表現媒体です。模型とは、「実物の形に似せて作ったもの(大辞泉)」ですが、模型が芸術的価値を持つこともしばしばあります。そして、模型制作には様々な方法があり、材料や作り方に制約はありません。本実習では、建築模型でよく使われる材料と方法を学びながら、模型というものがどのようなものなのか、何を表現するために必要なのかを体験します。課題制作を通して、建築、家具、人物などの独自の表現方法も考えてみましょう。						
到達目標	模型制作の基礎を習得し、模型を制作することができる 実物と模型の相互関係がわかる 模型で考えを表現することができる						
授業計画	第1回 ガイダンス 模型や模型制作道具について 第2回 実習課題1 「箱」の制作、建築模型制作の基礎 第3回 実習課題2 「茶室の起し絵模型の制作」(1) 課題説明 第4回 実習課題2 「茶室の起し絵模型の制作」(2) 第5回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(1) 課題説明 第6回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(2) 第7回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(3) 中間講評 第8回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(4) 第9回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(5) 第10回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(6) 第11回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(7) 提出、講評 第12回 実習課題4 「パピリオンの模型制作」(1) 課題説明 第13回 実習課題4 「パピリオンの模型制作」(2) 第14回 実習課題4 「パピリオンの模型制作」(3) 第15回 実習課題4 「パピリオンの模型制作」(4) 発表、講評						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	準備学習は特に必要ありません。日常的な宿題は課しませんが、課題の提出前に各自の進捗状況によって、授業外における課題制作をして頂く必要があります。課題の提出前に多くの作業を残さないよう授業内でできるだけ作業を進めましょう。カッターやボンドを使う作業となり、詳細は授業内で説明します。必要時間は、作業の丁寧さ、こだわり、速度によって異なります。実習課題4で、0時間~6時間必要です。特に、自分で案を考える課題4では、いくらでも時間をかけることができるので学修時間を短くするよう心がけて下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点(レポート、質疑応答など) 50% 課題 50%						
履修上の注意	授業内で簡単なレポート課題を出します。 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 質問は授業の前後で受け付けます。  授業に必要な道具、材料には以下のようなものがあります。 詳細については授業中に説明します。 30°カッターナイフ(OLFA)、 ステレンのり、木工ボンド、マスキングテープ18mm幅、エスキス用グリッド用紙、 ステレンボード2mm厚、3mm厚、5mm厚(サイズB4、各2枚) KMKケント(イラストレーションボード サイズB4 両面白 1mm厚)2枚、 虫ピン針、裁縫用指ぬき、ピンセット等						
教科書	[模型で学ぶ] 建築構法入門 在来木造編 改訂版 井上書院 ISBN978-4-7530-1618-1						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	パソコングラフィックによるヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン						
授業の概要	PCグラフィック基礎実習に続き、Illustrator、Photoshopの機能・操作法と共に、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザインの基礎的な知識と技術を学ぶ。実際の用途、伝達対象、使用環境などを想定した大判ポスター、パンフレットなどのデザインを通じて、人に視覚情報を効果的に伝えるための基本的技能を養成します。見た目に簡潔で意図がわかりやすく、かつバランスのとれたヴィジュアル媒体をデザインできることを目標とします。						
到達目標	タイポグラフィ、レイアウトデザインの要点を理解し、簡単なエディトリアル作品を制作できる。						
授業計画	1) 09/26 オリエンテーション -基礎実習の振り返り- 2) 10/03 曲線イラストモチーフを利用したポスター 3) 10/10 グラデーション機能を利用したポスター 4) 10/17 文字ツールを活用したロゴ・デザイン 5) 10/24 文字・段落スタイルによるレイアウト・デザイン 6) 10/31 プリント機能とプリンター詳細決定 7) 11/07 Photoshopの基本機能操作 写真と画像、選択方法 8) 11/14 基本的補正、色調補正 9) 11/21 レタッチ・ツールを利用した補正・合成 10) 11/28 Photoshop機能を活用したロゴ・デザイン 11) 12/05 雑誌スタイルのレイアウト・パターン 12) 12/12 エディトリアル制作のための情報収集 ファッションブランドの情報収集 13) 12/19 リーフレット・デザイン -1- 画像とテキストの整理 14) 01/09 リーフレット・デザイン -2- シーズントレンド紹介のレイアウト 15) 01/16 作品講評						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	日常的に目にするリーフレット、パンフレットなどのエディトリアルデザインに関心を持つ。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点(40%)は各回の課題提出状況、スキルの理解度、最終課題(リーフレット)の完成度(60%)を併せて評価します。						
履修上の注意	制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるため、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。 教科書を必ず購入し、毎回の授業に持参すること。 A4サイズのクリアファイル(授業で指定)を購入し、制作課題を保存すること。						
教科書	「きちんと身につくIllustratorの教本」、初版、ヤマダ他共著、MdN、ISBN978-4-8443-6675-1 *前期使用 「きちんと身につくPhotoshopの教本」、初版、高橋他共著、MdN、ISBN978-4-8443-6678-2						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバー	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	インテリアデザインの基礎的な表現図法とインテリアコーディネートの初歩的な考え方を学ぶ。						
授業の概要	インテリア空間をデザインするための基本的な考え方と基礎表現としての各種図法を学ぶ。練習課題を通して平面図・展開図といった二次元の図法や、アイソメトリック、アクソメトリック、1消点パースなどのドローイングのスキルを身につける。そして最終的に、実践的なインテリアコーディネートの課題制作に取り組み、各自のイメージした空間を図面表現し、プレゼンテーションボードにまとめる。発表、講評する形式で授業をすすめる。 キーワード：インテリアデザイン、表現図法、作品制作						
到達目標	(1) 目的に応じたインテリアエレメントを選び、適切なレイアウトをすることができる。 (2) 手描きでインテリアの基礎的な図面（平面図、展開図、パース）を描くことができる。 (3) プレゼンテーションボードにまとめ、トータルに空間表現ができるようになる。						
授業計画	<p>第1回 ガイダンスおよび「インテリアの表現」スライド解説。 製図道具の使い方説明、図法を用いた家具の表現（練習課題）</p> <p>第2回 デザイナーズチェアを描く練習課題。現物や模型を実測しながら、三面図と三次元の図法（アクソメ、アイソメ、キャビネット等）を用いて描く。</p> <p>第3回 家具レイアウトの考え方、描き方解説 インテリア平面図のトレース課題（着色）</p> <p>第4回 展開図の描き方解説、トレース課題（着色）</p> <p>第5回 1消点パースの描き方解説、トレース課題</p> <p>第6回 手描きパースの魅力と着色テクニック（ゲストスピーカーの宮後先生による指導）</p> <p>第7回 最終課題「マンション住戸のインテリアコーディネート」説明、エスキース</p> <p>第8回 エスキースとインテリアエレメントの資料収集、リスト作成</p> <p>第9回 インテリア平面図作成、着色</p> <p>第10回 展開図作成、着色</p> <p>第11回 アクソメの描き方練習課題、アクソメ作成</p> <p>第12回 1消点パース作成、着色 各ドローイングのチェックと修正、補足。</p> <p>第13回 各ドローイングの補足、修正の後、スキャナーで画像データ化 パソコンでレイアウト（Illustratorを使用）。</p> <p>第14回 プレゼンテーションボードの作成（説明文、インテリアエレメントの画像などを加え、全体のレイアウトを整えて仕上げる）</p> <p>第15回 プレゼンテーションボードのプリントアウト 発表と講評および提出</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の進度に遅れないよう、各課題を進め、授業中に完成しなかった場合は、次回までに完成させておくこと。 特に欠席した場合は、早めに遅れを取り戻すように、時間外に進めること。 家具、建材のショールームなどの課題に関連する見学および専門誌やインターネットの検索等、資料収集を各自積極的に行なうこと。						
授業方法	実習（スライドを用いた解説、手描き図面およびパソコンを用いた作品制作）						

評価基準と評価方法	平常の練習課題と最終課題作品の成績に出席状況・受講態度等の平常点を加味し、総合的に評価する。 (評価比率：練習課題30%、最終課題作品40%、平常点30%)
履修上の注意	ワークブックとして使用する専用のノートとファイル、製図用シャープペンシル、三角スケール、コンベックスを各自用意すること。サイズ等は授業中に指示する。 また各自の課題内容に応じたデザイン・リサーチのための見学を行うよう、授業中に指示する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	「スケッチパース着色編」 著者／編集： 宮後浩, 山本勇氣 出版社： 秀和システム ISBNコード： 9784798040530 その他推薦する本を授業中に紹介するので、各自参考にする本、住宅雑誌等を購入すること。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーIII (イメージリサーチ演習)						
担当教員	中林 浩					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>戸外に出て調査をし、どんな風物・景観があるのかを図示する授業です。「デザインサーベイ」といってもいいかな。この授業が対象とする地域という対象は、多面的で豊かな内容をもちます。山があり川があり、お店や工場があり住宅があり、鉄道があり道路があります。自然物がそれぞれの法則で存在しているなかで、人間が生活をしています。まず、そういう基本的なことを体感することが大切ですね。それを図として表現する基礎を学びます。基本的な態度や技術を学ぶといってもひとつの授業ですのでたくさんのごことはできません。ちょっとしたマッピングの練習といったところでしょうか。でも、みんなマップを書くのが苦手ですね。とくに簡略化することが。写真を撮ったり記述したり絵やマップにしあげます。これらを経て、都市やまちづくりへの興味を深めてもらいます。自分が体感したことを表現するには訓練がいるというのがわかるでしょう。あつ、そして調査中のハプニングにも期待します。だれかに話しかけられたとか、道に迷ってしまったとか。つまりそのときにしか起こらなかった記録が重要なのです。</p>						
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。						
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に応えることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 リサーチの準備—なにを調べるのか</li> <li>2 リサーチの準備—どこで調べるか</li> <li>3 リサーチの準備—どのように調べるか</li> <li>4 リサーチ1—踏査・メモ</li> <li>5 リサーチ1—スケッチ・写真・マップ</li> <li>6 かんたんまとめ</li> <li>7 リサーチ2—踏査・メモ</li> <li>8 リサーチ2—スケッチ・写真・マップ</li> <li>9 かんたんまとめ</li> <li>10 リサーチ3—踏査・メモ</li> <li>11 リサーチ3—スケッチ・写真・マップ</li> </ol> <p>●写真から起こした景観の絵を5枚以上手書きで描いてスキャナーでとる。それをパワーポイント5ページにして提出。●解説を付ける、どう良いかどう悪いか。●地図も付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>12 まとめの作業—ややかんたんに</li> <li>13 まとめの作業—くわしく</li> <li>14 まとめの作業—完成1</li> <li>15 まとめの作業—完成2</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。「やってみなければ分からない」という言葉は保守的な慣習を他人に強制する時に使用する(「マーフィの法則」より)。						
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの演習です。						
評価基準と評価方法	おおむね提出物で採点し、授業への参加の積極性を加味することもあります。						
履修上の注意	<p>学外に出ることもあります。調査は土曜日や日曜日に振り替えられることも多い。</p> <p>履修ガイドにあるEメールで連絡いただくのが望ましいのですが、facebook や LINE でもかまいません。</p> <p>オフィスアワーは金曜日12:10-13:10に641で。金曜日は午前中3年生のゼミ、午後4年生のゼミなのでその間、またその前後も641あたりにいることが多い。</p>						
教科書							

参考書	
-----	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーIII (イメージリサーチ演習)						
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションブランドのコミュニケーション・デザインについて						
授業の概要	ファッション企業は様々なメディアを通じて情報を発信し、消費者に対してブランドイメージを伝えようと努力している。この授業では従来の紙媒体であるファッション雑誌、それに変わろうとする勢いのネットメディア、そして実店舗のVMD (ビジュアルマーチャンダイジング) の3つの側面から、ファッションにおけるコミュニケーション・デザインの実態をリサーチする。						
到達目標	1) ファッション雑誌の現状とブランド広告の位置付けに関して分析できる。 2) ネットメディアで進行しているブランドの情報発信の変化に関心を持てる。 3) 店舗空間のメディア性をVMDの観点から理解できる。						
授業計画	1) 09/27 オリエンテーションーファッション雑誌、ネット環境、実店舗ー 2) 10/04 ファッション雑誌の現状 3) 10/11 " イメージと特徴 4) 10/18 " ブランド広告 5) 10/25 " タイアップ特集 6) 11/01 ネット環境とファッション 7) 11/08 ブランドとECサイト 8) 11/15 " SNS 9) 11/22 " インスタグラム、Wear 10) 11/29 " の実店舗とネット環境 11) 12/06 VMDとは 12) 12/13 " の構成・仕組み 13) 12/20 " とブランドの特徴 14) 01/10 " 業態による差異 15) 01/17 まとめとテスト						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	日常的に体験している雑誌、ネット、店舗などでの体験について改めて客観的に観察する努力が求められる。必要に応じて学外において店舗のリサーチなどを授業前に行う (詳細は授業時に指示) (60分程度)。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点 (40%) : 授業への積極的な参加とレポートの内容で評価する。 期末テスト (60%) : 演習で学習した内容に対する理解度について評価する。						
履修上の注意	演習形式の授業であり、積極的な発言や議論への参加が必須となる。 また、人数に応じてグループ作業も取り入れる予定。役割を自覚して協調的にチームワークを発揮して欲しい。 店舗へのリサーチはクラス全体では実施できないので、授業外で個人またはグループで行う。その際の交通費は各自の負担となる。						
教科書	特に無し。						
参考書	授業内で指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーV (プレゼンテーション演習)						
担当教員	中林 浩					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	都市計画・まちづくり・地域計画に関するゼミです。都市計画の歴史や都市のあり方の新しい理論を学習しつつ、具体的な地域の調査を行います。オリジナリティのある研究・制作ができるような準備をすることがいちばん重要なことです。文献購読、話しあい、調査、調査のまとめをします。「各ゼミ員がレジュメを用意し、それを題材に討議するのを基本とします。各ゼミ員のテーマにかかわる見学、あるいは共通するイベントなどによっては学外に出ることもあります。						
授業の概要	「授業のテーマ」で述べたとおりです。次のようなことも考えてみよう。「昼・夜は気分がそれなりに高揚しているのに、あすからがんばろうと思うけれど、つぎの朝になるとその気分がしぼんでいる。その朝に奮起できるかどうか。大きな課題は分けて、小さい課題はまとめていっきにこなす。いやな課題は好きにするか、どうしてもいやなら捨てる」。						
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願います。						
授業計画	<p>討論によって変わりますし、ある意味では成り行きに任せるのも重要なことです。学問において「成り行き」は美しいこともあります。一回一回の計画を具体的に書くなどというのは、けっして美しくないので、以下のようにシンプルにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 はなしあい1回め</li> <li>2 はなしあい2回め</li> <li>3 はなしあい3回め</li> <li>4 はなしあい4回め</li> <li>5 はなしあい5回め</li> <li>6 はなしあい6回め</li> <li>7 はなしあい7回め</li> <li>8 はなしあい8回め</li> <li>9 はなしあい9回め</li> <li>10 はなしあい10回め</li> <li>11 はなしあい11回め</li> <li>12 はなしあい12回め</li> <li>13 はなしあい13回め</li> <li>14 はなしあい14回め</li> <li>15 はなしあい15回め</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。						
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの演習です。						
評価基準と評価方法	提出物で採点し、授業への参加の積極性を加味することもあります。						
履修上の注意	学外に出ることもあります。調査は土曜日や日曜日に振り替えられることも多い。履修ガイドにあるEメールで連絡いただくのが望ましいのですが、facebook や LINE でもかまいません。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアエレメント論						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバ-	F72410
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	インテリアを構成するモノたちのデザイン						
授業の概要	家具や照明、グラフィックなど、インテリアデザインにおけるエッセンシャルなエレメントに着目し、モダンデザインの黎明期から現代までの、主要な空間とデザインの変遷をたどる。産業革命によって生み出されたモダンデザインの源泉をたどり、アール・ヌーヴォー、アール・デコの造形運動、1920～30年代のムーブメントを経て戦後、アメリカ、イタリア、スκανジナビアや日本で生み出された優れたデザインのインテリアエレメントとそのデザイナー達について学ぶ。 キーワード：家具・照明、建築空間、デザイン史						
到達目標	西洋と日本の近現代のデザイン史上、主要なデザイン様式の違いを見分けることができる。 著名ないくつかのインテリアエレメント（特に椅子とあかり）について、デザインの特徴や背景、デザイナーを説明できる。 各自の特に好きなデザイン作品とデザイナー名をいくつか挙げるができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス（授業の概要、進め方と学習目標）、インテリアエレメントの楽しみ方 第2回 モダンデザインVSクラシック／西洋古典の空間とインテリアエレメント 第3回 モダンデザインVS和のデザイン／日本の伝統空間とインテリアエレメント 第4回 デザインの美学 身近に楽しむクラシックと和のデザイン 第5回 モダンデザインの黎明ージャポニズム／万国博覧会とアーツ・アンド・クラフツ 第6回 アール・ヌーヴォーのデザイン 第7回 初期近代建築とアール・デコのデザイン 第8回 1920年代ー第1次世界大戦後のデザイン・ムーブメント 第9回 巨匠達の時代とデザイン 第10回 ミッド・センチュリーのアメリカ・イタリア・日本 第11回 北欧のデザイナー達 第12回 ポスト・モダンの時代 第13回 全体のまとめ、期末レポート中間報告、質疑応答 第14回 現代のデザイナー達ー ゲストスピーカーによる自作の紹介とミラノ・サローネ報告 第15回 期末レポートの発表と提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回参考資料を紹介するので、興味のあるテーマについて、各自で学習を深めること。 テーマ関連の建築やショールーム見学を積極的に行うのが望ましい。						
授業方法	講義（スライドレクチャー）						
評価基準と評価方法	毎回のミニレポート（出席点と平常点含む）および期末レポートの成績 （評価比率：毎回のミニレポート60%、期末レポート40%）						
履修上の注意	配布資料をまとめる専用のファイルを各自購入のこと。 詳細は授業中に説明する。						
教科書	「カラー版 世界デザイン史」 監修：阿部公正 出版社：美術出版社 ISBN：4-568-50174-1						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアデザイン基礎演習						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバ-	F71310
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	インテリアデザイン入門（インテリア分野の魅力と学びを知る）						
授業の概要	インテリアデザイン分野の導入科目として、この分野を学ぶ意義や4年間のカリキュラムと学び方について概説する。まず、住まい・インテリア、ライフスタイル関連の文献検索や資料収集の方法を学びながら、多くの魅力的な事例に触れて見識を広める。そして空間を評価し、写真や図、文章で表現する課題に取り組む。次に、インテリア分野の社会的役割や、様々な仕事について紹介し、卒業後の進路や資格取得といった将来目標、学習目標を考える手掛りとする。またインテリアコーディネーター試験の出題範囲のうち、このような内容に対応した過去問題にも取り組む。さらにインテリアショップなどを実際に見学し、エレメントについてリサーチし、コーディネートを考える課題にも取り組み、実践的、体験的に学ぶ方法を身につける。						
到達目標	(1) インテリアを学ぶ意義を説明できる。 (2) インテリア分野に関する4年間の学びの目標がイメージできる。 (3) インテリアの様々な事例について、情報を収集し、写真や図、文章で説明できる。						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、「インテリアデザイン分野の学び」、第1課題「魅力ある住宅のデザイン」説明</p> <p>第2回 「ライフスタイルと住空間」スライドレクチャー、雑誌検索によるリサーチ、レポート作成</p> <p>第3回 「インテリアデザインの考え方」スライドレクチャー、リサーチ、レポート作成</p> <p>第4回 第1課題の発表と講評、第2課題の予告</p> <p>第5回 「インテリアコーディネーターの誕生とその背景」解説とIC資格試験過去問題</p> <p>第6回 「インテリアコーディネーターの仕事」解説と過去問題（前半）</p> <p>第7回 「インテリアコーディネーターの仕事」解説と過去問題（後半）</p> <p>第8回 まとめと小テスト</p> <p>第9回 第2課題「インテリア空間の体験とインテリアエレメントのリサーチ」の説明、課題内容：様々なインテリアについて調べ、実際に見学し、レポートをまとめる。第2課題の資料収集</p> <p>第10回 第2課題の資料収集、見学の計画（グループごとに見学を行う）</p> <p>第11回 インテリアの見学（インテリアショップに時間振替えて引率++グループごとに選んだ場所1ヶ所以上）</p> <p>第12回 第2課題 中間発表、追加・手直しの指示</p> <p>第13回 第2課題のレポート表紙-インテリアコーディネートのイメージをコラージュでまとめる</p> <p>第14回 表紙のイメージコラージュの作成とまとめ</p> <p>第15回 第2課題の発表、講評</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各自の課題制作を進めるための文献・WEBによるリサーチ、インテリアショップ等の事例見学は、授業外に自主的にも進めること。						
授業方法	スライドレクチャーによる解説と関連テーマについての文献・WEB検索、見学によるリサーチを行い、実践的、体験的に学ぶ。レポートを作成し、発表、意見交換するといった双方向で学んでいく。中半では、インテリアコーディネーター試験の過去問第にも取り組み、小テストを行う。						
評価基準と評価方法	2つのレポート課題と小テストの成績に受講態度など平常点を加味し、総合的に評価する。 (評価比率：レポート第1課題25%、第2課題25%、小テスト20%、平常点30%)						
履修上の注意	学外見学・調査を行うが、その交通費などは学生の負担とする。 配布資料をまとめる専用のファイルを各自購入のこと。 詳細は授業中に説明する。						

履修上の注意	
教科書	「インテリアコーディネーターハンドブック統合版上巻」 (他のインテリア科目とも共用する) 発行：公益社団法人 インテリア産業協会 発売：一般財団法人 経済調査会 ISBN978-4-86374-142-3
参考書	「超図解で全部わかるインテリアデザイン入門」 著者：Aiprah (アイブラフ) 監修：河村容治 発行所：株式会社エクснаレッジ ISBN978-4-7678-1876-4

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリア基礎実習I/インテリア基礎実習						
担当教員	小池 朱里					科目ナンバ-	F71320
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	コンセプトメイキングから始まる空間やモノのデザインを体感し、コミュニケーションを生み出すクリエイティブな感性を育てる						
授業の概要	デザインスキル能力向上の一部として、ごく身近なファッションやインテリア関連小物から、空間を演出するアイテム制作を行なう。イメージやコンセプトを具体的なものとして実現するプロセスを習熟すると同時に、実際に制作することを通して“もの”あるいは“素材”に対する想いを育むことを目的とする						
到達目標	(1) イメージを形にするプロセスを楽しむ感性を身につけることができる (2) 伝えたいメッセージを明確にし、空間を創り上げる楽しさを体験することができる (3) 想いを込めて制作することで、人が幸せに笑顔になる喜びを体感することができる						
授業計画	<p>第1回 コミュニケーションデザインとは ペーパークラフト制作①</p> <p>第2回 コンセプトメイキング・プランニングの仕方 ファッションショーテーマ告知・空間演出プランニング課題（第4回にて発表） ペーパークラフト制作②</p> <p>第3回 ショーウィンドウプランニング ドキュメンタリー映画『ニューヨーク・バーグドルフ 魔法のデパート』94分 ※レポート課題</p> <p>第4回 ファッションショー空間演出プラン発表・投票</p> <p>第5回 ファッションショー空間演出プラン決定 空間デコレーション制作アイテムミーティング</p> <p>第6回 空間デコレーション制作アイテム・材料決定ミーティング</p> <p>第7回 制作アイテム材料調達 ※課外授業：三宮に集合（現地への往復交通費は各自負担）</p> <p>第8回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第9回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第10回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第11回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第12回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第13回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第14回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第15回 発表：ファッションショー空間演出</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：自分自身が興味のあるもの、好きなモノ・コトに常にアンテナを張り、情報収集しておくこと 授業後学習：各課題や実際の空間プロデュース実現に向けてイメージを膨らまし、固めていくこと						
授業方法	講義と制作、空間プロデュースの実際						
評価基準と評価方法	平常点 50%（授業内での制作意欲や、取り組む姿勢、成果物、および到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認により評価する） レポート課題 10% 発表 40%						
履修上の注意	原則として授業回数の3分の2以上の出席に満たない者は単位取得できないものとする 材料調達のための課外授業に関する交通費（三宮）は学生各自が負担するものとする 空間デコレーションアイテム制作にあたり、学生がこだわりの材料を使用したい場合は、学生各自が費用を負担し用意するものとする						

教科書	プリント、レジュメを配布
参考書	参考書は必要に応じて授業中に紹介します

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリア基礎実習II/インテリアドローイング実習						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバー	F71330
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	インテリアデザインの基礎的な表現図法とインテリアコーディネートの初歩的な考え方を学ぶ。						
授業の概要	インテリア空間をデザインするための基本的な考え方と基礎表現としての各種図法を学ぶ。練習課題を通して平面図・展開図といった二次元の図法や、アイソメトリック、アクソメトリック、1消点パースなどのドローイングのスキルを身につける。そして最終的に、実践的なインテリアコーディネートの課題制作に取り組み、各自のイメージした空間を図面表現し、プレゼンテーションボードにまとめる。発表、講評する形式で授業をすすめる。 キーワード：インテリアデザイン、表現図法、作品制作						
到達目標	(1) 目的に応じたインテリアエレメントを選び、適切なレイアウトをすることができる。 (2) 手描きでインテリアの基礎的な図面（平面図、展開図、パース）を描くことができる。 (3) プレゼンテーションボードにまとめ、トータルに空間表現ができるようになる。						
授業計画	<p>第1回 ガイダンスおよび「インテリアの表現」スライド解説。製図道具の使い方説明、図法を用いた家具の表現（練習課題）</p> <p>第2回 デザイナーズチェアを描く練習課題。現物や模型を実測しながら、三面図と三次元の図法（アクソメ、アイソメ、キャビネット等）を用いて描く。</p> <p>第3回 家具レイアウトの考え方、描き方解説 インテリア平面図のトレース課題（着色）</p> <p>第4回 展開図の描き方解説、トレース課題（着色）</p> <p>第5回 1消点パースの描き方解説、トレース課題</p> <p>第6回 手描きパースの魅力と着色テクニック（ゲストスピーカーの宮後先生による指導）</p> <p>第7回 最終課題「マンション住戸のインテリアコーディネート」説明、エスキース</p> <p>第8回 エスキースとインテリアエレメントの資料収集、リスト作成</p> <p>第9回 インテリア平面図作成、着色</p> <p>第10回 展開図作成、着色</p> <p>第11回 アクソメの描き方練習課題、アクソメ作成</p> <p>第12回 1消点パース作成、着色 各ドローイングのチェックと修正、補足。</p> <p>第13回 各ドローイングの補足、修正の後、スキャナーで画像データ化 パソコンでレイアウト（Illustratorを使用）。</p> <p>第14回 プレゼンテーションボードの作成（説明文、インテリアエレメントの画像などを加え、全体のレイアウトを整えて仕上げる）</p> <p>第15回 プレゼンテーションボードのプリントアウト 発表と講評および提出</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の進度に遅れないよう、各課題を進め、授業中に完成しなかった場合は、次回までに完成させておくこと。 特に欠席した場合は、早めに遅れを取り戻すように、時間外に進めること。 家具、建材のショールームなどの課題に関連する見学および専門誌やインターネットの検索等、資料収集を各自積極的に行なうこと。						
授業方法	実習（スライドを用いた解説、手描き図面およびパソコンを用いた作品制作）						

評価基準と評価方法	平常の練習課題と最終課題作品の成績に出席状況・受講態度等の平常点を加味し、総合的に評価する。 (評価比率：練習課題30%、最終課題作品40%、平常点30%)
履修上の注意	ワークブックとして使用する専用のノートとファイル、製図用シャープペンシル、三角スケール、コンベックスを各自用意すること。サイズ等は授業中に指示する。 また各自の課題内容に応じたデザイン・リサーチのための見学を行うよう、授業中に指示する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	「スケッチパース着色編」 著者／編集： 宮後浩, 山本勇氣 出版社： 秀和システム ISBNコード： 9784798040530 その他推薦する本を授業中に紹介するので、各自参考にする本、住宅雑誌等を購入すること。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアコーディネート演習						
担当教員	小山 明子					科目ナンバ-	F74450
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	サニタリー、キッチン・ダイニングの詳細デザインを考える						
授業の概要	住空間のインテリアについて、各部の様々なエレメントを具体的に選択し、コーディネートする方法を学び、課題作品を制作する。 様々な材料や工法、寸法や納まりについての理解を深めるため、建材・住宅設備関係のショールーム見学を行い、ドローイング（平面図、展開図、照明計画図、パースなど）およびサンプルボードを作成、プレゼンテーションボードにまとめる。						
到達目標	2年時に学んだインテリアの材料や工法、納まり等についての知識をさらに深めながら応用し、インテリアデザインをトータルに構成し、表現する力を養う。 サニタリー、キッチンに関する具体的な素材を選択し、プレゼンテーションができるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス、課題「サニタリーの設計」ポイント解説、参考作品事例の紹介 第2回 ヒアリングレポート（クライアントプロフィール）の作成 第3回 サニタリー関係ショールーム見学 第4回 住設建材のリサーチ、デザイン提案の作成 第5回 「サニタリーの設計」ドローイングの作成 第6回 「サニタリーの設計」サンプルボードの作成 第7回 課題「キッチン・ダイニングの設計」ポイント解説、参考作品事例の紹介 第8回 キッチン関係・照明関係ショールーム見学 第9回 住設建材のリサーチ、デザイン提案の作成 第10回 「キッチン・ダイニングの設計」ドローイングの作成 第11回 「キッチン・ダイニングの設計」サンプルボードの作成 第12回 照明計画のポイント解説、参考事例の紹介、デザイン提案の作成 第13回 照明計画図の作成、プレゼンテーションボードのまとめ 第14回 課題の発表・講評 第15回 課題の手直し・追加、最終チェック・提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実在する身近な人をクライアントに設定して課題を進めます。 サニタリー、キッチン、照明、建材等のショールームの見学に行ってみましょう。 身近なサニタリーやキッチンについて、具体的な寸法や使用勝手を把握してみる。 （自宅の洗面の寸法を測る、キッチンにある物についてまとめるなど）						
授業方法	演習、講義						
評価基準と評価方法	プレゼンテーションボード＋発表50%、平常点＋演習プリント50% 課題図面を用意しますが、自宅など既存図から作成する場合は加点あり。						
履修上の注意	1. 履修の対象者 ハウジングデザイン実習1A、1Bを履修済みのこと。 2. 学外見学について ショールーム見学を2回予定しています。（現地集合・解散） 火曜日の午前、夕方などの時間に変更する可能性があります。最初の授業で連絡をします。 3. 履修上の注意 各回出席者にはプリントを配布する。欠席者は次週授業時に取りに来ること。						
教科書	プリントを配布						
参考書	最高の水廻りをデザインする方法 著者：連合設計社市谷建築事務所 発行所：株式会社エクスナレッジ ISBN978-4-7678-1203-8						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリア史						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバ-	F71340
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	インテリアデザインの歴史						
授業の概要	古代から近現代にいたる主要なインテリアデザインの歴史を、西洋と日本を対比しながら学ぶ。西洋古典と日本伝統の建築様式の変遷や、モダンデザインの黎明期からアール・ヌーヴォー、アール・デコの造形運動、1920～30年代のムーブメントを経て戦後から近年に至るまでに、欧米や日本で生み出された優れたデザインの事例とその背景についての理解を深める。ヴィジュアルな資料を多用し、幅広いデザインの教養を身につけると共に、インテリアコーディネーター資格試験対策としての問題解説も行う。 キーワード：インテリア、デザイン史、デザイナー						
到達目標	(1) インテリア史上、主要なデザイン様式の違いを見分けることができる。 (2) 著名ないくつかのインテリアエレメントについて、デザインの特徴や背景、デザイナーを説明できる。 (3) 各自の特に好きなデザイン作品とデザイナー名をいくつか挙げるができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス（授業の概要、進め方と学習目標など） 第2回 西洋古典の空間とインテリアエレメントー古代と中世のデザイン 第3回 西洋古典の空間とインテリアエレメントー近世のデザイン 第4回 小テスト、日本伝統の空間とインテリアエレメントー古代から中世へ 第5回 日本伝統の空間とインテリアエレメントー中世から近世へ 第6回 デザインの源泉ー西洋古典と日本伝統の美学の比較 第7回 小テスト、モダンデザインの黎明ージャポニズム/万国博覧会 第8回 アーツ・アンド・クラフツ、アール・ヌーヴォー、初期近代建築 第9回 アール・デコと1920年代のデザイン・ムーブメント、日本の近代化 第10回 巨匠達の時代とデザイン 第11回 小テスト、ミッド・センチュリーの北欧・アメリカ・イタリア 第12回 日本のモダンデザイン 第13回 ポスト・モダニズムの時代から現代へ 第14回 小テスト、全体のまとめと補足 第15回 ミニレポートのまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回参考資料を紹介するので、興味のあるテーマについて、各自で学習を深めること。テーマ関連の建築やショールーム見学を積極的に行うのが望ましい。						
授業方法	講義（スライドレクチャー）、ミニレポート、小テストを組み合わせで行う。						
評価基準と評価方法	毎回のミニレポート（出席点と平常点含む）および小テスト（4回）、期末試験の成績を総合的に評価する （評価比率：毎回のミニレポート30%、小テスト20%、期末試験50%）						
履修上の注意	配布資料をまとめる専用のファイルを各自購入のこと。 詳細は授業中に説明する。						

教科書	「インテリアコーディネーターハンドブック統合版上巻」 (他のインテリア科目と共用あり) 発行：公益社団法人 インテリア産業協会 発売：一般財団法人 経済調査会 ISBN978-4-86374-142-3
参考書	「インテリアコーディネーター1次試験 過去問題徹底研究 2017上巻」 発行：ハウジングエージェンシー ISBN978-4-89990-331-4  「カラー版 世界デザイン史」 監修：阿部公正 出版社：美術出版社 ISBN：4-568-50174-1  その他、授業中に紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアスペース論						
担当教員	矢代 恵					科目ナンバ-	F72420
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	インテリア空間の基礎知識を修得する						
授業の概要	人々は日常生活において私的な空間から公的な空間に至るまで、インテリア空間で活動している。本講義では、インテリア空間の様々な構成要素や、機能性、安全性、快適性などを踏まえたインテリア空間のデザインやコーディネートの基礎的な概念を学ぶ。						
到達目標	目的と条件に見合ったインテリアを創造する為に必要な基礎知識を学習できる。インテリア空間をつくる、下地となる見えない部分・可視的な構成要素やデザインを知ると共に、インテリア空間が人にもたらす心理的・身体的効果も学習できる。						
授業計画	第1回 ガイダンス、インテリアと人間1 (ライフスタイルとインテリア) 第2回 インテリアと人間2 (人間工学とモジュール) 第3回 住宅の構造・木造 (躯体の構成・各部材名称) 第4回 住宅の構造・その他の構造 (各種構造と構法) 第5回 インテリアの構法 (床・壁・天井の名称) ・ミニテスト1 第6回 インテリアエレメント1 (造作と造作材) 第7回 インテリアエレメント2 (仕上げと仕上げ材) 第8回 インテリアエレメント3 (住宅設備機器) ・ミニテスト2 第9回 光とあかりのデザイン (自然光と照明) 第10回 空間と色 (色とイメージ・色彩心理・色彩調和) 第11回 カラーコーディネート・ウインドウトリートメント・ミニテスト3 第12回 暮らし (生活場面) から考えるインテリア計画 第13回 リフォームの計画 第14回 まとめと試験 第15回 インテリアの表現手法・試験解説と質疑応答						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	今後の参考資料となるよう、毎回の授業内容をまとめて整理しておく。実際に様々なインテリア空間やショールームに行き、空間を体感し、材料や商品を見て授業で学んだことを再確認してください。						
授業方法	講義と小演習 *講義はPPT (パワーポイント) ・ビデオをプロジェクターを使用して行う						
評価基準と評価方法	平常点、レポート、試験の総合評価とする。(平常点 (ミニテスト含む) 60% レポート10% 試験30%) 提出期限を厳守すること (遅れた場合は減点) 欠席の場合は減点 総合点が59点以下の場合は単位を取得できない。						
履修上の注意	教科書必携の事。 出席が9回以下の者には、原則として単位を認めない。2回遅刻で1回欠席、30分以上遅刻の場合欠席とする。 欠席の場合、次回までに自己学習し遅れを取り戻し支障がないようにし、指示されている持参物を忘れないようにする。  教員の連絡先 : meg@meg-architects.com						
教科書	インテリアコーディネーターハンドブック統合版下巻 著:インテリア産業協会 配布プリント						
参考書	インテリアコーディネーターハンドブック統合版上巻 著:インテリア産業協会 店舗を加えて大改訂! 住宅インテリア究極ガイド 出版:エクスナレッジ						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアモデリング実習						
担当教員	蔵田 優美					科目ナンバ-	F31090
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	材料から立体的な造形（模型）を生み出す 模型制作を通して木造の建物を具体的に学ぶ 建築空間の創造と模型制作						
授業の概要	模型は、インテリアや建築分野において、実際の空間で表現したいものを考察・プレゼンテーションするために、未だ必須の表現媒体です。模型とは、「実物の形に似せて作ったもの（大辞泉）」ですが、模型が芸術的価値を持つこともしばしばあります。そして、模型制作には様々な方法があり、材料や作り方に制約はありません。本実習では、建築模型でよく使われる材料と方法を学びながら、模型というものがどのようなものなのか、何を表現するために必要なのかを体験します。課題制作を通して、建築、家具、人物などの独自の表現方法も考えてみましょう。						
到達目標	模型制作の基礎を習得し、模型を制作することができる 実物と模型の相互関係がわかる 模型で考えを表現することができる						
授業計画	第1回 ガイダンス 模型や模型制作道具について 第2回 実習課題1 「箱」の制作、建築模型制作の基礎 第3回 実習課題2 「茶室の起し絵模型の制作」(1) 課題説明 第4回 実習課題2 「茶室の起し絵模型の制作」(2) 第5回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(1) 課題説明 第6回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(2) 第7回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(3) 中間講評 第8回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(4) 第9回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(5) 第10回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(6) 第11回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(7) 提出、講評 第12回 実習課題4 「パビリオンの模型制作」(1) 課題説明 第13回 実習課題4 「パビリオンの模型制作」(2) 第14回 実習課題4 「パビリオンの模型制作」(3) 第15回 実習課題4 「パビリオンの模型制作」(4) 発表、講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	準備学習は特に必要ありません。日常的な宿題は課しませんが、課題の提出前に各自の進捗状況によって、授業外における課題制作をして頂く必要があります。課題の提出前に多くの作業を残さないよう授業内でできるだけ作業を進めましょう。カッターやボンドを使う作業となり、詳細は授業内で説明します。必要時間は、作業の丁寧さ、こだわり、速度によって異なります。実習課題4で、0時間～6時間必要です。特に、自分で案を考える課題4では、いくらでも時間をかけることができるので学修時間を短くするよう心がけて下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（レポート、質疑応答など） 50% 課題 50%						
履修上の注意	授業内で簡単なレポート課題を出します。 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 質問は授業の前後で受け付けます。  授業に必要な道具、材料には以下のようなものがあります。 詳細については授業中に説明します。 30° カッターナイフ（OLFA）、 ステレンのり、木工ボンド、マスキングテープ18mm幅、エスキス用グリッド用紙、 ステレンボード2mm厚、3mm厚、5mm厚（サイズB4、各2枚） KMKケント（イラストレーションボード サイズB4 両面白 1mm厚）2枚、 虫ピン針、裁縫用指ぬき、ピンセット等						
教科書	[模型で学ぶ] 建築構法入門 在来木造編 改訂版 井上書院 ISBN978-4-7530-1618-1						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	家族社会学						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	F72040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	家族について社会的な視点から考察する						
授業の概要	家族について、その成り立ちや時代とともに移り変わってきた価値観や形態の変化について知る。また、現代の家族観や生活様式がどのように形成されてきたかを知る。一人の人間が誕生し、生涯を終えるまでの過程を学び、家族を総合的に捉える視点を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の成り立ちや現状について理解している</li> <li>・個人のライフコースや家族を取り巻く諸課題が説明できる</li> <li>・家族が抱える諸課題に対して、自分なりの解決策を考え提示することができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンス (シラバス確認 導入課題) 第2回 家族の出発 第3回 家族の定義 第4回 家族の歴史 第5回 子どもと家族 第6回 パートナー選択と価値観 第7回 結婚と離婚の現状 第8回 結婚と生活経営 第9回 生活時間とライフコース 第10回 ジェンダーと家族 第11回 芸術作品に描かれる家族 第12回 子どもと女性の貧困 第13回 高齢期の生活と家族 第14回 いのちと家族 第15回 試験と質疑応答						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	予習と復習を行うこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験(40%)、ワークシート記入状況、受講態度などの平常点(60%)により総合的に評価する。						
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	授業毎に資料を配布する。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	カラーデザイン論 / (色彩検定3級対応)						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F11050
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	カラーの基礎を学びデザインに活用できる応用力を学ぶ。						
授業の概要	ウェブページを始め、人が得る情報のほとんどは視覚を入口として得られる。効果的で説得力のあるウェブページを作成するため、カラーの本質を理解するとともに、積極的にカラーをコーディネート、コントロールできるよう基礎的な知識を学ぶ。主な内容は、色とは何か、色の見え方、眼のしくみ、色の測定方法、照明、色の混合、色の表示、色彩心理、色彩調和、色彩計画などについて理解を深め、ウェブをデザインする上の基礎的知識を習得する。						
到達目標	1) 色彩検定3級の過去問がとける。 2) 眼のしくみが説明できる。 3) ウェブ上において色の見え方の違いが説明できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (課題テーマ、方針・進め方の説明) : 色とは</li> <li>2. 色はなぜ見えるのか。</li> <li>3. 眼のしくみ</li> <li>4. 色の測定方法や照明と色の見え方</li> <li>5. 色の混色</li> <li>6. 色の表示 (日本色研配色体系 (P.C.C.S.)、マンセルシステム)</li> <li>7. 色の心理的効果</li> <li>8. 色の視覚効果</li> <li>9. 色の知覚的効果</li> <li>10. 色彩調和1: 色相を手がかりにして配色を考える</li> <li>11. 色彩調和2: トーンを手がかりにして配色を考える</li> <li>12. 色彩調和3: 配色の基本的な技法</li> <li>13. 色のイメージと連想</li> <li>14. 色彩効果: 色彩と構成</li> <li>15. 色彩計画、最後に試験</li> </ol>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 授業内で説明する。(学習時間60分) 授業後学習: 学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。(学習時間60分)						
授業方法	①教科書を中心に進める。 ②各回授業の内容に沿った練習問題や課題をする。 ③色彩検定3級の過去問を練習する。						
評価基準と評価方法	試験80%: 色彩検定3級のレベルの理解度を評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 提出物20%: 色のイメージデザインやウェブデザインの課題を評価する。到達目標(3)に関する到達度の確認。 課題(練習問題)に対するフィードバックの方法: 採点して返却する。満点になるまでやり直し提出する。						
履修上の注意	① 10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ② 遅刻は欠席扱いとする ③ 指定する課題は、締切までに必ず提出する。 ④ 購入した教科書は、「ライフカラーコーディネート演習」「イメージリテラシーⅣ(カラー・コーディネート演習)」にも使用する。 ⑤ ファッションデザイン概論で『新配色カード199b』を購入した学生は、同じものを使用する。 ⑥ 6月の色彩検定試験3級の受験を目指して学ぶ。						
教科書	『文部科学省後援 色彩検定 公式テキスト3級』、監修全国服飾教育者連合会 (A・F・T) 『新配色カード199b』(日本色研事業株式会社) 尚、『新配色カード199b』を他の授業で購入した学生は、購入しなくてよい。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ガーデニング論						
担当教員	清水 光次					科目ナンバ-	F73540
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	庭づくり・ガーデニングは暮らしを彩り、楽しむためのもの。庭を楽しむための基礎的知識の習得とデザイン実習。						
授業の概要	質という面で住まいを考えると、建物としての「家」と「屋外環境」そして「インテリア」の3つは相互に関係している。単なる「外構(がいこう)」ではなく、楽しむための「庭あるいはガーデンを語ること」が住まいのデザインの幅を大きく広げることに繋がると考えている。この講義では、「屋外環境をいかにして形にしていけるか」を、機能面だけではなく、デザインやテクニカルな要素だけでもなく、庭やバルコニーの「楽しみとは何か」といったことにも踏み込んで考えていきたい。						
到達目標	1、将来、趣味としてのガーデニングに興味を持ったときに、それを楽しめるための素養を身につける。 2、住宅産業や造園業の現場での実践的な基礎的スキルと、樹木や草花の知識を習得する。 3、イメージする庭のデザインをプレゼンテーションシートにまとめることができる。						
授業計画	次のトピックを扱う予定である。ただし、順序は必ずしもこの限りではない。 1、スタイル別に庭のデザインを整理する(日本) 2、スタイル別に庭のデザインを整理する(外国) 3、住まいの庭の居心地の良さや楽しみとはなにかを考える 4、住まいの庭の実例研究(失敗例に学ぶ) 5、街並みのデザインについて考える 6、外構・庭・エクステリアの構成要素を整理する 7、植栽デザインの基礎 8、ガーデニングにしたい植物(樹木) 9、ガーデニングにしたい植物(灌木) 10、ガーデニングにしたい植物(花やグランドカバー) 11、庭のデザイン手法(アプローチ編) 12、庭のデザイン手法(主庭編) 13、バルコニーガーデンを学ぶ 14、植栽の管理とメンテナンス 15、庭づくりに関する業種と現場のアラカルト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	下記をプレゼンシートとして提出を求める。 ・中間演習: キャンパス内の「庭」を考察し、デザインする。 ・通学路の街並みデザインを考察する。 ・期末演習: ハウジングにおけるガーデニングデザイン。						
授業方法	・講義の前半は主として、モニター(実際の庭やそれらの図面などの実例及び植物の写真等)を見ながらの講義とする。 ・講義の後半は、実践としての簡単な庭のデザイン演習を取り入れた講義とする。(プチ演習5~6回程度を予定) ・教科書を元に、庭づくり・ガーデニングのノウハウやポイントを解説する。 ・宿題を出すことがある。						
評価基準と評価方法	主として中間デザイン演習・期末デザイン演習をもとに評価するが、授業内の演習や授業態度も成績に加味する。 配分は以下のとおり。 中間デザイン演習20%、期末デザイン演習50%、授業内デザインおよび平常点30%。 中間デザイン演習及び期末デザイン演習の提出は必須である。						
履修上の注意	覚えるためだけでなく、デザインを考えるためのポイントをメモに取ってください。 教室外(大学構内)での講義も予定している。 場合によっては、教室外(学外)での講義を行うことがある。(大学周辺の街並み等の視察など)						
教科書	自分流に楽しむ「気まま」な庭づくり 第二版 著者: 清水光次 出版社: メタ・プレーン ISBN4-944098-36-7						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A/FHD基礎演習A						
担当教員	中林 浩					科目ナンバ-	F0101A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ハウジング領域（インテリア、住居、まちづくり）に関わる専門科目入門についての基礎的な知識を習得する演習である。						
授業の概要	4年間のハウジング領域で学ぶ専門科目のなかで最も基礎の導入を行なう演習科目で、その重要性からして必修科目として位置づけている。授業概要については、まず前期の基礎演習Aでは、ガイダンス、領域での学習内容やキャリアについて概説し学生からの発表・意見交換を行なう、ついで住空間のデザインについて調査の方法と現地調査を含めた発表、そしてグループでのまちづくりゲームや簡単な図形を書くなどである。後期の基礎演習Bについては、インテリアデザインの考え方や見学と調査発表、そしてまちづくりの風景を描き美しいまちとは何かを考えるなどある。						
到達目標	学ぶ専門教育の内容を知り、その基礎的キーワードや概念を掴む。それと自分の進む道とを結びつけて考えるきっかけをつかめる。						
授業計画	第1回 ガイダンス（ハウジングデザインの学びについて）、 レポート課題「魅力ある住宅のデザイン」の説明、図書の探し方 第2回 住空間の魅力（スライドレクチャー） 第3回 第1課題のレポート作成 第4回 第1課題の発表と講評、第2課題の説明「様々な住空間の空間体験」見学レポート 第5回 第2課題の見学先に関する資料収集（文献、WEB）、レポート作成 第6回 第2課題のレポート作成、ハウジングデザイン分野の仕事について（スライドレクチャー） 第7回 第2課題の発表と講評 第8回 課題の説明 第9回 クイズ・世界の都市・美術史4区分 第10回 話しあいによる「迷宮の建設」 第11回 アイスブレイク各種・印象派とはなにか 第12回 正三角形で立体を描く 第13回 模写A・風景画の楽しみ 第14回 模写B 第15回 レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回違った分野の教員の講義であるが、まずは出席し自分の将来や専門分野の基礎の基礎であり、課題を真面目に取り組むことが大事である。また、関連の分野について、ウェブなどで調べ、積極的に質問すると、いっそう理解が進む。						
授業方法	演習であり、現地や図書館、ウェブなどで調査し発表し意見交換するといった双方向で学んでいく。						
評価基準と評価方法	各教員ごとに評価（レポートや調査発表など（半分くらい）と参加の積極性（半分くらい）を総合して個々人の評価にする。						
履修上の注意	学外での、施設や現場の見学・調査などを実施する場合があります、その交通費などは学生の負担とする。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A/FHD基礎演習A						
担当教員	中林 浩・米原 慶子・中村 茂					科目ナンバ-	F0101A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	コミュニケーション・リテラシー入門						
授業の概要	基礎演習Aでは3クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの入門編について学ぶ。前期は3人の担当教員によるオムニバス形式で5回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、身近な生活空間である本学キャンパスの観察を通じた資料収集とグループによるまとめ、チームで話し合うことによる多様な意見、考え方の共有、デザインやプロジェクトの発想源となるイメージの表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。						
到達目標	1. キャンパスを歩き回り、テーマに沿って資料収集や空間評価を行い、話し合っまとめられる。2. 話しあいによって結論を得る練習。あわせて美術史を大きくとらえる第一歩。3. マインド・マップを利用してアイデア探索、デザイン発想、プロジェクト計画などができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. キャンパス・ウォッチング課題説明、コメントの記入、発表【米原 慶子】</li> <li>2. 前回のコメントからテーマ抽出、グループ分け、グループディスカッション【米原 慶子】</li> <li>3. グループごとにキャンパス調査、写真撮影など資料収集【米原 慶子】</li> <li>4. 調査結果のまとめ(グループ別)【米原 慶子】</li> <li>5. 発表およびディスカッション、ミニレポート作成、提出(個別)【米原 慶子】</li> <li>6. アイスブレイクをいくつか【中林 浩】</li> <li>7. チームで考える——どこのくにでしょう + 美術史4区分【中林 浩】</li> <li>8. チームで考える——迷宮のどこに宝物があるか【中林 浩】</li> <li>9. チームで考える——どんな立体になるのだろう【中林 浩】</li> <li>10. 4年間の目標をみんなで考える【中林 浩】</li> <li>11. マインドマップとは、作成ルール、応用例【中村 茂】</li> <li>12. 「今日の私のファッション」 色彩やイラストの活用法【中村 茂】</li> <li>13. 「文章・映像の要約」 文章・映像内容の構造をMMで表現し、要約文を作成【中村 茂】</li> <li>14. 「ファッション・イメージ」 トレンド・コーディネートとMMと説明【中村 茂】</li> <li>15. 「旅行計画」 MMの再編成とソフトの利用【中村 茂】</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業後学習: 次の授業までに課題を提出すること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点(50%)、各5回の担当教員による主要課題の平均(50%)を合わせて評価する。						
履修上の注意	単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A/FHD基礎演習A						
担当教員	中林 浩・米原 慶子・中村 茂					科目ナンバ-	F0101A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	コミュニケーション・リテラシー入門						
授業の概要	基礎演習Aでは3クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの入門編について学ぶ。前期は3人の担当教員によるオムニバス形式で5回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、身近な生活空間である本学キャンパスの観察を通じた資料収集とグループによるまとめ、チームで話し合うことによる多様な意見、考え方の共有、デザインやプロジェクトの発想源となるイメージの表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。						
到達目標	1. マインド・マップを利用してアイデア探索、デザイン発想、プロジェクト計画などができる。2. キャンパスを歩き回り、テーマに沿って資料収集や空間評価を行い、話し合ってもらえる。3. 話し合いによって結論を得る練習。あわせて美術史を大きくとらえる第一歩。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マインドマップとは、作成ルール、応用例【中村 茂】</li> <li>2. 「今日の私のファッション」 色彩やイラストの活用法【中村 茂】</li> <li>3. 「文章・映像の要約」 文章・映像内容の構造をMMで表現し、要約文を作成【中村 茂】</li> <li>4. 「ファッション・イメージ」 トレンド・コーディネートのMMと説明【中村 茂】</li> <li>5. 「旅行計画」 MMの再編成とソフトの利用【中村 茂】</li> <li>6. キャンパス・ウォッチング課題説明、コメントの記入、発表【米原 慶子】</li> <li>7. 前回のコメントからテーマ抽出、グループ分け、グループディスカッション【米原 慶子】</li> <li>8. グループごとにキャンパス調査、写真撮影など資料収集【米原 慶子】</li> <li>9. 調査結果のまとめ(グループ別)【米原 慶子】</li> <li>10. 発表およびディスカッション、ミニレポート作成、提出(個別)【米原 慶子】</li> <li>11. アイスブレイクをいくつか【中林 浩】</li> <li>12. チームで考える——どこのくいでしょう + 美術史4区分【中林 浩】</li> <li>13. チームで考える——迷宮のどこに宝物があるか【中林 浩】</li> <li>14. チームで考える——どんな立体になるのだろう【中林 浩】</li> <li>15. 4年間の目標をみんなで考える【中林 浩】</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点(50%)、各5回の担当教員による主要課題の平均(50%)を合わせて評価する。						
履修上の注意	単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A/FHD基礎演習A						
担当教員	中林 浩・米原 慶子・中村 茂					科目ナンバ-	F0101A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	コミュニケーション・リテラシー入門						
授業の概要	基礎演習Aでは3クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの入門編について学ぶ。前期は3人の担当教員によるオムニバス形式で5回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、身近な生活空間である本学キャンパスの観察を通じた資料収集とグループによるまとめ、チームで話し合うことによる多様な意見、考え方の共有、デザインやプロジェクトの発想源となるイメージの表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。						
到達目標	1. 話しあいによって結論を得る練習。あわせて美術史を大きくとらえる第一歩。2. マインド・マップを利用してアイデア探索、デザイン発想、プロジェクト計画などができる。3. キャンパスを歩き回り、テーマに沿って資料収集や空間評価を行い、話し合ってまとめられる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アイスブレイクをいくつか【中林 浩】</li> <li>2. チームで考える——どこのくにでしょう + 美術史4区分【中林 浩】</li> <li>3. チームで考える——迷宮のどこに宝物があるか【中林 浩】</li> <li>4. チームで考える——どんな立体になるのだろう【中林 浩】</li> <li>5. 4年間の目標をみんなで考える【中林 浩】</li> <li>6. マインドマップとは、作成ルール、応用例【中村 茂】</li> <li>7. 「今日の私のファッション」 色彩やイラストの活用法【中村 茂】</li> <li>8. 「文章・映像の要約」 文章・映像内容の構造をMMで表現し、要約文を作成【中村 茂】</li> <li>9. 「ファッション・イメージ」 トレンド・コーディネートとMMと説明【中村 茂】</li> <li>10. 「旅行計画」 MMの再編成とソフトの利用【中村 茂】</li> <li>11. キャンパス・ウォッチング課題説明、コメントの記入、発表【米原 慶子】</li> <li>12. 前回のコメントからテーマ抽出、グループ分け、グループディスカッション【米原 慶子】</li> <li>13. グループごとにキャンパス調査、写真撮影など資料収集【米原 慶子】</li> <li>14. 調査結果のまとめ(グループ別)【米原 慶子】</li> <li>15. 発表およびディスカッション、ミニレポート作成、提出(個別)【米原 慶子】</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点(50%)、各5回の担当教員による主要課題の平均(50%)を合わせて評価する。						
履修上の注意	単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B/FHD基礎演習B						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F0101B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション・デザインの基礎知識を学ぶ。						
授業の概要	ファッションにおける学びの意義・基礎的方法を身につけることを目的に、4つの視点からファッションの作品を読み取る能力を養う。一般的デザインプロセスにおける情報生成の重要性を理解し、必要とされるコミュニケーション・スキルを習得する。消費者の立場から、自分のワードローブ、パーソナルカラーの分析を行い、アパレルデザインを成立させている基礎概念を理解する。生産企業の立場から、ファッション市場の要因となるファッションイメージや好み（テイスト）を分類・操作するスキルを習得する。ファッションの作品からデザインやカラーなどを分析し、デザイナーの思いを読み取る。						
到達目標	消費者側や企業側のプロセスを理解し、分析力、表現力、デザイン力、文章力のスキルが身に付いた。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）ファッションとは何か</li> <li>2. “My Fashion History EPISODES”</li> <li>3. 「神戸コレクション」参加ブランドの比較</li> <li>4. 「ファスト・ファッションブランド」の比較</li> <li>5. 「私のファッション・リーダー（アイコン）」</li> <li>6. 「おしゃPとは？」</li> <li>7. ファッション情報収集</li> <li>8. 自己表現：自分らしさとは</li> <li>9. 購買行動</li> <li>10. パーソナル・カラー</li> <li>11. マイブランド&amp;マイブーム</li> <li>12. ファッション感性用語とイメージ</li> <li>13. 布の種類と機能</li> <li>14. 男のファッション</li> <li>15. 神戸のイメージ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間60分）</p> <p>授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。（学習時間60分）</p>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>①プリントを配布する。そのプリントに添って進める。</li> <li>②各回授業のテーマに沿った課題をする。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<p>提出物100%</p> <p>各回設定のテーマの課題を評価する。到達目標に関する到達度の確認。</p>						
履修上の注意	指定する課題を締切までに必ず提出する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B/FHD基礎演習B						
担当教員	徳山 孝子・中林 浩・井上 裕之					科目ナンバ-	F0101B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	コミュニケーション・リテラシー基礎						
授業の概要	基礎演習Bでは3クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの基礎編について学ぶ。後期も3人の担当教員によるオムニバス形式で5回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、前期の入門編を踏まえ、本学キャンパスから身近な地域社会に広げた観察結果の写真や絵による活用法、話し合いから双方向のコミュニケーションを可能にする情報編集とプレゼンテーション、文章によるコミュニケーションの基礎となる表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。						
到達目標	1. 聞く、読む、書く、伝えるなどの力が身に付き、レポートが書ける。2. 町で見えてきたものを図示する練習。3. 情報を他者に伝わりやすいよう編集し、プレゼンテーションすることができる。						
授業計画	1. 読む・まとめる：要約して書こう【徳山 孝子】 2. 表現する：五感を使って書こう【徳山 孝子】 3. 整理する：考えるシート（マインド・マップ）を使って書こう【徳山 孝子】 4. 調べる：図表や文献を使って書こう【徳山 孝子】 5. 考え、伝える：レポートを書こう【徳山 孝子】 6. 模写1【中林 浩】 7. 模写2【中林 浩】 8. 自分で撮った写真を絵にする【中林 浩】 9. 絵に説明を入れる【中林 浩】 10. コラージュを作る【中林 浩】 11. 情報を伝えるということ。テーマの考案【井上 裕之】 12. リサーチ：情報収集の方法【井上 裕之】 13. 編集と構成：情報を編集し、プレゼンテーションの構成を考える【井上 裕之】 14. 資料作成：パワーポイント、原稿を作成する【井上 裕之】 15. プレゼンテーション：発表会形式でプレゼンテーションをおこなう【井上 裕之】						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点（50%）、各5回の担当教員による主要課題の平均（50%）を合わせて評価する。						
履修上の注意	単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B/FHD基礎演習B						
担当教員	徳山 孝子・中林 浩・井上 裕之					科目ナンバ-	F0101B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	コミュニケーション・リテラシー基礎						
授業の概要	基礎演習Bでは3クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの基礎編について学ぶ。後期も3人の担当教員によるオムニバス形式で5回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、前期の入門編を踏まえ、本学キャンパスから身近な地域社会に拡げた観察結果の写真や絵による活用法、話し合いから双方向のコミュニケーションを可能にする情報編集とプレゼンテーション、文章によるコミュニケーションの基礎となる表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。						
到達目標	1. 町で見てきたものを図示する練習。2. 情報を他者に伝わりやすいよう編集し、プレゼンテーションすることができる。3. 聞く、読む、書く、伝えるなどの力が身に付き、レポートが書ける。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模写1【中林 浩】</li> <li>2. 模写2【中林 浩】</li> <li>3. 自分で撮った写真を絵にする【中林 浩】</li> <li>4. 絵に説明を入れる【中林 浩】</li> <li>5. コラージュを作る【中林 浩】</li> <li>6. 情報を伝えるということ。テーマの考案【井上 裕之】</li> <li>7. リサーチ：情報収集の方法【井上 裕之】</li> <li>8. 編集と構成：情報を編集し、プレゼンテーションの構成を考える【井上 裕之】</li> <li>9. 資料作成：パワーポイント、原稿を作成する【井上 裕之】</li> <li>10. プレゼンテーション：発表会形式でプレゼンテーションをおこなう【井上 裕之】</li> <li>11. 読む・まとめる：要約して書こう【徳山 孝子】</li> <li>12. 表現する：五感を使って書こう【徳山 孝子】</li> <li>13. 整理する：考えるシート（マインド・マップ）を使って書こう【徳山 孝子】</li> <li>14. 調べる：図表や文献を使って書こう【徳山 孝子】</li> <li>15. 考え、伝える：レポートを書こう【徳山 孝子】</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点（50%）、各5回の担当教員による主要課題の平均（50%）を合わせて評価する。						
履修上の注意	単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B/FHD基礎演習B						
担当教員	徳山 孝子・中林 浩・井上 裕之					科目ナンバ-	F0101B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	コミュニケーション・リテラシー基礎						
授業の概要	基礎演習Bでは3クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの基礎編について学ぶ。後期も3人の担当教員によるオムニバス形式で5回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、前期の入門編を踏まえ、本学キャンパスから身近な地域社会に広げた観察結果の写真や絵による活用法、話し合いから双方向のコミュニケーションを可能にする情報編集とプレゼンテーション、文章によるコミュニケーションの基礎となる表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。						
到達目標	1. 情報を他者に伝わりやすいよう編集し、プレゼンテーションすることができる。2. 聞く、読む、書く、伝えるなどの力が身に付き、レポートが書ける。3. 町で見てきたものを図示する練習。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報を伝えるということ。テーマの考案【井上 裕之】</li> <li>2. リサーチ：情報収集の方法【井上 裕之】</li> <li>3. 編集と構成：情報を編集し、プレゼンテーションの構成を考える【井上 裕之】</li> <li>4. 資料作成：パワーポイント、原稿を作成する【井上 裕之】</li> <li>5. プレゼンテーション：発表会形式でプレゼンテーションをおこなう【井上 裕之】</li> <li>6. 読む・まとめる：要約して書こう【徳山 孝子】</li> <li>7. 表現する：五感を使って書こう【徳山 孝子】</li> <li>8. 整理する：考えるシート（マインド・マップ）を使って書こう【徳山 孝子】</li> <li>9. 調べる：図表や文献を使って書こう【徳山 孝子】</li> <li>10. 考え、伝える：レポートを書こう【徳山 孝子】</li> <li>11. 模写1【中林 浩】</li> <li>12. 模写2【中林 浩】</li> <li>13. 自分で撮った写真を絵にする【中林 浩】</li> <li>14. 絵に説明を入れる【中林 浩】</li> <li>15. コラージュを作る【中林 浩】</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点（50%）、各5回の担当教員による主要課題の平均（50%）を合わせて評価する。						
履修上の注意	単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B/FHD基礎演習B						
担当教員	中林 浩					科目ナンバ-	F0101B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ハウジング領域（インテリア、住居、まちづくり）に関わる専門科目入門についての基礎的な知識を習得する演習である。						
授業の概要	ハウジング領域で学ぶ専門科目のなかで最も基礎の導入を行なう演習科目で、その重要性からして必修科目として位置づけている。授業概要については、まず前期の基礎演習Aでは、ガイダンス、領域での学習内容やキャリアについて概説し学生からの発表・意見交換を行なう、ついで住空間のデザインについて調査の方法と現地調査を含めた発表、そしてグループでのまちづくりゲームや簡単な図形を書くなどである。後期の基礎演習Bについては、インテリアデザインの考え方や見学と調査発表、そしてまちづくりの風景を描き美しいまちとは何かを考えるなどある。						
到達目標	学ぶ専門教育の内容を知り、その基礎的キーワードや概念を掴む。それと自分の進む道とを結びつけて考えるきっかけをつかめる。						
授業計画	第1回 ガイダンス、インテリアデザインの考え方、第1課題「インテリアエレメントのリサーチ」の説明 第2回 文献およびWEBによるリサーチ、レポート作成 第3回 インテリアショップの見学（時間振替えて引率） 第4回 第1課題レポートの作成 第5回 第1課題レポート課題の中間発表と講評、手直し・追加調査の指示 第6回 第2課題「インテリアコーディネートイメージコラージュ」作成 第7回 第1課題、第2課題の仕上げ、発表と講評 第8回 課題の説明 第9回 正八面体の地球儀・世界の大都市 第10回 19世紀の社会・北斎はすごい 第11回 町並みを描いてみよう 第12回 木を描いてみよう 第13回 理想のまちの姿 第14回 レポート作成前半 第15回 レポート作成後半						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回違った分野の教員の講義であるが、まずは出席し自分の将来や専門分野の基礎の基礎であり、課題を真面目に取り組むことが大事である。また、関連の分野について、ウェブなどで調べ、積極的に質問すると、いっそう理解が進む。						
授業方法	演習であり、現地や図書館、ウェブなどで調査し発表し意見交換するといった双方向で学んでいく。						
評価基準と評価方法	レポートや調査発表など（半分くらい）と参加の積極性（半分くらい）を総合して個々人の評価にする。						
履修上の注意	学外での、施設や現場の見学・調査などを実施する場合があります、その交通費などは学生の負担とする。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目																														
科目名	景観論																														
担当教員	中林 浩					科目ナンバ-	F22020																								
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0																								
授業のテーマ	<p>世界と日本には多様な景観が存在することを画像を見てもらいます。農村・中小都市・大都市、そして途上国と先進国、いろいろですね。ただ、先進国の大都市の景観が中心の紹介になります。景観の保全をめぐる、各地でさまざまな形の努力がはらわれていることがわかります。それとかかわって景観法はじめ景観行政や文化財保護制度が発達してきた歴史を学びます。世界遺産についてもくわしく話します。</p> <p>むずかしそうな話もありますが、観光案内を見るように講義を受けてもらうのもこちらの意図するところですよ。どのような観点をもてば、より楽しい観光ができるのかを知ってもらいたいと考えます。またこうした態度をもつ観光客がより豊かな地域を育てることになります。</p> <p>とくに京都・大阪・神戸という関西の大都市とその周囲の都市景観について具体的な検討を行います。とりわけわたしがかわった高層ビル建設反対運動などの紹介をします。</p> <p>映像をたくさん使う講義で、話の途中で画像をたくさん見せます。最後の30分は動画をほぼ毎回見せます。さいきんではテレビでも紀行というか地域を紹介した番組が増えましたね。動画がより景観を理解するのを助けます。たくさんストックがあるので、珠玉の景観動画をお楽しみください。</p>																														
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。																														
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか3歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に応えることができる。																														
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 景観・風景とは</li> <li>2 いろいろな景観・農村編</li> <li>3 いろいろな景観・中小都市編</li> <li>4 いろいろな景観・大都市編</li> <li>5 景観保全・町並み保存運動の歴史</li> <li>6 景観法のしくみ+テスト1</li> <li>7 文化財行政の発展</li> <li>8 世界遺産制度のしくみ</li> <li>9 都市の世界遺産</li> <li>10各地の景観まとめ</li> <li>11観光・レクリエーションのあり方</li> <li>12京都の景観破壊——せつかくの文化財・自然環境がここまで壊されるとは</li> <li>13大阪の景観破壊——かつては「水の都」と称されていたのに</li> <li>14神戸の景観破壊——高架道路と高層ビルはひどいですね、デザイン都市？</li> <li>15景観問題のまとめ+テスト2</li> </ol> <p>15回でない構成にすると</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 5%;">A</td> <td style="width: 85%;">A1 景観・風景とは</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 5%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>A2 いろいろな景観</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>世界遺産制度のしくみ</td> <td>テスト1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>景観保全・文化財行政の発展</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>景観法のしくみ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>景観問題</td> <td>テスト2</td> <td></td> </tr> </table>							A	A1 景観・風景とは				A2 いろいろな景観			B	世界遺産制度のしくみ	テスト1		C	景観保全・文化財行政の発展			D	景観法のしくみ			E	景観問題	テスト2	
A	A1 景観・風景とは																														
	A2 いろいろな景観																														
B	世界遺産制度のしくみ	テスト1																													
C	景観保全・文化財行政の発展																														
D	景観法のしくみ																														
E	景観問題	テスト2																													
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。																														
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの講義です。																														
評価基準と評価方法	おおむね提出物で採点し、授業への参加の積極性を加味することもあります。おおむねというのは、そうですね、70%から95%でしょうか。シラバス内クイズ、「2回国境を越えないと海に出られない国はどこでしょう」。なぜこんなところでクイズをしているのかな。																														
履修上の注意	<p>まち歩きや旅行が好きなこと。</p> <p>学外に出ることもあります。調査は土曜日や日曜日に振り替えられることも多い。</p> <p>履修ガイドにあるEメールで連絡いただくのが望ましいのですが、facebook や LINE でもかまいません。オフィスアワーは金曜日12:10-13:10に641で。金曜日は午前中3年生のゼミ、午後4年生のゼミなのでその間、またその前後も641あたりにいることが多い。</p>																														

教科書	
参考書	授業中に紹介します。新書などですよく勧めるものがあります。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築一般構造						
担当教員	蔵田 優美					科目ナンバ-	F72510
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	建築構造の基礎、美しいデザインの構造						
授業の概要	構造とは、「一つのものを作り上げている部分部分の材料の組み合わせ方。また、そのようにして組み合わせられてきたもの。仕組み。(広辞苑)」であり、本講義では、建築物の構造について学びます。「構造=苦手なもの」ではなく、「構造=美しいもの、楽しいもの」であることを知って頂きたい。美しいデザインの構造により記念碑的建築となった事例や歴史的建築の構造も紹介します。また、普段使用している学舎や住宅などが何で出来ているのか、理論と実生活を重ねて学習します。						
到達目標	建築構造の基礎概念、用語を知る。美しいデザインの構造事例を知る。 建物を見て構造種別(木造、RC造など)がわかる 図面を見て構造種別(木造、RC造など)がわかる インテリアコーディネーター試験、二級建築士試験問題が解ける						
授業計画	<p>第1回:構造は美しい。これは何造? 他の授業(構造力学、建築施工学)との関係性</p> <p>第2回:構造の歴史(1) 組積造と歴史的建築。ウィトルウィウス「用・強・美」</p> <p>第3回:インテリアコーディネーター試験(以下、ICと略)試験科目「住宅構造」、 二級建築士試験試験科目「構造」の説明。構造材料について。</p> <p>第4回:木造(1) 伝統建築、現代の住宅デザイン</p> <p>第5回:木造(2) IC「木造構造総合」問題演習</p> <p>第6回:木造(3) IC「木造構造総合」「木材・木質材料総合」問題演習</p> <p>第7回:IC「住宅構造(工法)総合」関連用語、問題演習</p> <p>第8回:構造の歴史(2) 近代。工法の発展</p> <p>第9回:鉄筋コンクリート造(1) 仕組み。 IC「コンクリート総合」問題演習</p> <p>第10回:鉄筋コンクリート造(2) IC「鉄筋コンクリート構造総合」問題演習</p> <p>第11回:鉄筋コンクリート造(3) IC「鉄筋コンクリート構造総合」問題演習 コラム:構造設計は誰の仕事?</p> <p>第12回:コラム:構造と法律、地震と火災 鉄骨造(1)</p> <p>第13回:鉄骨造(2) IC問題演習 コラム:ヴィオレ＝ル＝デュクの「構造」と「装飾」論</p> <p>第14回:構造詳細図を見てみよう。その他の構造(テンセグリティ、膜構造など)</p> <p>第15回:復習、まとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	簡単なレポート課題を出します。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点(質疑応答など) 50% 小テスト、レポート 50%						
履修上の注意	10回以上の出席がないと、受講資格を失います。						
教科書	なし						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築関連法規						
担当教員	長瀬 りか					科目ナンバ-	F73570
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	住宅に関わる建築基準法および関連法規の基礎知識の習得						
授業の概要	住宅の企画・設計・販売およびインテリア関連の仕事に就くために最低限必要な建築基準法の基礎知識と建築関連法規の概要を、参考事例などを見ながら学ぶ。将来の実務で不可欠な基礎的内容および2級建築士やインテリアコーディネーターなどの資格試験の学習にも役立つ内容を中心に解説する。 キーワード：建築基準法、建築関連法規、住宅、インテリア						
到達目標	建築基準法の基本的な事項の習得と現代の住宅に関する関連法規の概略が把握できる。						
授業計画	第1回 ガイダンス、「法の目的、用語の定義」 第2回 建築基準法の基礎1「面積、高さ」＋小テスト 第3回 建築基準法の基礎2「採光、換気、階段」 第4回 建築基準法の基礎3「建築設備と構造」＋小テスト 第5回 建築基準法の基礎4「防火、耐火1」 第6回 建築基準法の基礎5「防火、耐火2、内装制限」＋小テスト 第7回 建築基準法の基礎6「避難設備1」 第8回 建築基準法の基礎7「避難設備2」＋小テスト 第9回 建築基準法の基礎8「道路、用途地域」 第10回 建築基準法の基礎9「容積率と建ぺい率」＋小テスト 第11回 建築基準法の基礎10「高さ制限、日影規制」 第12回 建築基準法の基礎11「地区計画、建築協定」＋小テスト 第13回 関連法規1「建築士法、消防法」 第14回 関連法規2「宅建業法、バリアフリー法ほか」＋小テスト 第15回 講義のまとめ＋レポート						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後にノート、プリントなどを整理し、疑問点があれば次回授業時に質問して、各自理解を深めてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点30%、小テスト＋レポート70%とする。欠席した場合は減点対象。						
履修上の注意	履修対象者は、専門的な内容となるため、住宅およびインテリアの分野において専門的な仕事をを目指す人の受講が望ましい。 内容に関連する見学を指示する場合がある。 10回以上の出席がない場合は、原則として期末レポートの提出資格を失います。						

教科書	基礎教材『建築法規』 発行年月 2007年09月 ISBN:978-4-7530-1745-4 出版社：井上書院 その他、プリントを配布。
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築計画学						
担当教員	中林 浩					科目ナンバ-	F72490
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>建築の平面計画、つまり間取りの話です。設計のための基礎理論といってもいいでしょう。実際ににラフな設計をする作業のある講義となります。</p> <p>前半は住宅の計画を扱います。それに先立ち住宅の歴史を概観します。庶民の住宅を中心にお話ししますが、その過程で桂離宮についてはすこしくわしく話をします。これは天皇の別荘で、庶民とはかけ離れているようですが、日本の住宅市のなかでは重要なものです。みなさん桂離宮を知らないでしょう。しかし、日本の建築のなかでは世界の人びとに一番有名なのです。</p> <p>そして現代住宅の平面の発展を学びます。現代日本にかなり根付いているといつてよい「2DK」といういい方には深い歴史があります。西山卯三という研究者が第二次大戦中の研究により食寝分離論といつ理論をうみだしました。その説明は欠かせません。かんたんな住宅の設計・集合住宅の配置計画の演習をします。</p> <p>後半では商業施設・図書館・集会所・小学校など各種建築の平面計画のあり方を学びます。たとえば郵便局などは窓口以外はどうなっているのか知らないでしょう。ホテルとか劇場も客としての空間しか知りません。たくさんすることはできないので、課題のひとつはみなさんのなじみのある、というかかならず利用した経験をもつ小学校です。あともうひとつは各自で選んでもらいましょうか。</p>						
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。						
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に応えることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本住宅の系譜</li> <li>2 農家・町家・長屋、庶民の住宅の歴史を話しているんだけど、天皇の別荘である桂離宮の話も及ぶのだけど、この桂離宮を知らないひとが多いのがショック、日本の建築でもっとも有名なものなのに、前は20歳にならないと入れなかったのだが、18歳になった、ここで桂離宮へ行くことをすすめる</li> <li>3 現代住宅の分類</li> <li>4 小住宅における秩序</li> <li>5 2DKや3LDK</li> <li>6 住宅平面のいろいろ</li> <li>7 建築平面演習1</li> <li>8 集合住宅の展開</li> <li>9 住宅の系譜まとめ</li> <li>10 建築平面のいろいろ (図書館)</li> <li>11 建築平面のいろいろ (商業施設)</li> <li>12 建築平面のいろいろ (集会所)</li> <li>13 建築平面のいろいろ (小学校)</li> <li>14 建築平面演習2</li> <li>15 建築平面演習3 (2が図書館だとすると3は小学校かな)</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。						
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの講義です。						
評価基準と評価方法	おおむね9割を提出物で採点する。授業への参加の積極性を加味することもある。積極性の加点0点なら提出物100点満点で、積極性の加点5点なら提出物95点満点で、積極性の加点10点なら提出物90点満点で、積極性の加点15点なら提出物85点満点で、積極性の加点20点なら提出物80点満点で採点するということです。						
履修上の注意	<p>【「授業のテーマ」参照】</p> <p>学外に出ることもあります。調査は土曜日や日曜日に振り替えられることも多い。</p> <p>履修ガイドにあるEメールで連絡いただくのが望ましいのですが、facebook や LINE でもかまいません。オフィスアワーは、金曜日の昼休み、641で。</p>						
教科書							

参考書	授業中に紹介する。
-----	-----------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築材料学						
担当教員	清水 光次					科目ナンバ-	F72500
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	建築・住宅・内装を構成する材料（建築材料＝コンクリート・木材・鋼材・ガラス・各種内装材など）に関する基礎知識を習得する。						
授業の概要	<p>・建築物は、骨組みである構造体と、内外壁、屋根、内部の間仕切りなどの造作や、建具、電気や衛生といった設備類から成り立ち、各々が多様な材料から作られている。</p> <p>住居やインテリアのデザインに際してのみならず、それらを考え、論じるときに、建築やインテリアを構成するものがどのような材料から作られており、それぞれどのような性質を持ち、どのような使い方をすればよいかを知っていることが大切である。それを知らなければ、建築や空間デザインはできないといっても過言ではない。この講義では、建築の構造体となる木材・コンクリート・鋼材を中心に、内部造作材や内装仕上げ材にいたるまで、建築材料全般について学習する。</p> <p>・仕事でなくとも、生活者の常識として知っておきたい建築材料の基礎を習得する。（マンション購入時や一戸建て住宅新築時に役立つように）</p> <p>《●将来、建築士資格取得を予定している者は必須》</p>						
到達目標	<p>・ハウジング関係の仕事（デザイン・設計・施工・監理など）に就く上で必要となる、基礎的な建築材料の分類や性質を理解できるようになる。</p> <p>・インテリアデザイン、家具デザインなどに有益な、各種材料の使用部位や性質などを理解できるようになる。</p>						
授業計画	<p>次のトピックを扱う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、建築材料の概要（歴史・分類・性能）</li> <li>2、木材（1）日本建築と木材、種類と特徴</li> <li>3、木材（2）強度、構造、規格、等級</li> <li>4、木材（3）その他使用方法など</li> <li>5、コンクリート（1）コンクリートの性質・調合</li> <li>6、コンクリート（2）種類、強度</li> <li>7、コンクリート（3）破壊実験</li> <li>8、鋼材（1）鉄の歴史、性質、腐食、規格</li> <li>9、鋼材（2）その他</li> <li>10、焼成品（タイル、レンガ、瓦、衛生陶器など）</li> <li>11、ガラス・石</li> <li>12、地盤について</li> <li>13、左官材料・ボード類・塗料</li> <li>14、内装仕上げ材（クロス、カーペットなど）</li> <li>15、機能性材料（断熱材や防水材ほか）</li> </ol> <p>※ただし、順序、ボリュームは必ずしも上記の限りではない。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>教科書の予習と復習。</p> <p>常に身の回りの建築空間やインテリアを見て、部位別に使われている材料が何か、を興味を持って確認する。</p>						
授業方法	<p>主として、教科書を中心とした講義形式。</p> <p>できるだけ実物（材料サンプル）に触れて、理解を深める。</p> <p>※教室外授業：キャンパス内の建物を実例に、どんな材料が使われているかを見る。</p> <p>※実験：コンクリートの破壊実験及び外部講師による授業（1回）を実施する予定である。</p>						
評価基準と評価方法	<p>主要な单元ごとに小テストを実施し（4回を予定）、期末テストは実施しない。</p> <p>期末にレポートの提出を求める。※提出必須</p> <p>評価の配分は以下の通り。</p> <p>小テスト60%（15%×4）、レポート25%、平常点15%。</p>						
履修上の注意	<p>ひとつずつ、「知識として覚える」ことを意識して、受講してください。</p> <p>教科書に触れられていないことは、メモしてください。</p> <p>※場合によっては教室外授業（学外）を行うことがある。（他の研究施設などの見学）</p>						
教科書	<p>やさしい建築材料 第二版 著者：松本進 出版社：学芸出版社 ISBN978-4-7615-2417-3</p>						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築施工学						
担当教員	植田 道則					科目ナンバー	F73560
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	デザインに必要な建築生産の基礎知識習得						
授業の概要	建築デザインを具現化する建築生産の過程では、多くの人々の役割分担と協力、効率的に生産するための技術、多くの建築材料を供給するための社会的なシステム等が必要となります。教科書や実務上の資料及び建築現場の見学等を通して、建築物の生産手順や関連技術等を学びます。						
到達目標	基礎工事、躯体工事、仕上げ工事等の建築物生産各工程の仕組みや留意点等を学び、さらには設計や維持管理を含めた建築生産全体における施工の位置付け等を学ぶことにより、将来の建築士として必要な知識を取得する。						
授業計画	第1回目 建築生産とは何か 第2回目 着工準備～施工計画の立案 第3回目 工程計画～工程管理 第4回目 仮設工事・準備工事 第5回目 【学外研修】建築生産の体験型実習 ※竹中技術実務研修センター「想」（兵庫県川西市）にて、建築生産の体験型実習を行います。 第6回目 土工事、地業・基礎工事 第7回目 鉄筋工事 第8回目 型枠工事 第9回目 コンクリート工事、中間試験 第10回目 鉄骨工事(工場製作) 第11回目 鉄骨工事(溶接) 第12回目 鉄骨工事(現場施工) 第13回目 屋根・防水工事 第14回目 仕上げ工事 第15回目 設備工事、期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回の授業のノートをしっかりとりとることと、そのノートの復習。そして各回の宿題とする演習課題を確実にこなすこと。演習課題は、基礎的な問題5問以内で構成する。授業をしっかり聞いておけば自然と身に付くものである。						
授業方法	各回の授業は、講義と講義に基づく課題演習で進めます。各回の授業の最後には、演習課題を配布して、次の授業の最初に提出してもらい、答え合わせをします。						
評価基準と評価方法	試験50%、各回の演習課題提出50%						
履修上の注意	1) 履修の対象者 建築の設計及び施工に興味を持つ人で、将来二級建築士資格の取得を目指す人を対象とします。 2) 課題の提出 授業で配布した課題（演習）に対する各自の解答を、次回の講義のときに提出のこと。解答の内容は評価の対象とします。 3) 出席 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 4) 学外見学 第5回に建築生産の体験型実習を実施します。但し研修施設の都合等により日程等を変更することがあります。なお現地までの交通費等は各自が負担してください。 ※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	教科書はありません。都度、講義中にプリントを配ります。						
参考書	「初学者の建築講座 建築施工(改訂版)」大野隆司 監修 中澤明夫、角田誠 著 市ヶ谷出版社 ISBN 978-4-87071-121-1						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	構造力学						
担当教員	清水 光次					科目ナンバー	F73580
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	構造力学は、物体にかかる力を計算して安全な建築物・構造物を設計するための学問であるが、この授業では、その基礎的な約束事ともいえるいくつかの理論を取り上げる。						
授業の概要	安全な建築物を設計するためには、各種構造の基礎理論としての構造力学を理解することが不可欠である。そのために、建物に作用する様々な力を計算によって把握し、それに対し構造物がどのように抵抗し、挙動するかを考えながら、力の流れと変形の力学を学ぶ。 将来、建築士資格試験の勉強を始めるにあたって、構造分野の学習がスムーズに行えるための力学の基礎知識を習得する。 《●建築士資格の取得を目指す者は必須》						
到達目標	建築物に作用する荷重や風力などの力を合成・分解することによって整理し、計算式によって数値化できるようになる。 部材に働く力とその釣り合っている状態を理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基礎知識（力の単位など）</li> <li>2 基礎知識（建築構造のモデル化など）</li> <li>3 力とモーメント</li> <li>4 力の合成</li> <li>5 力の分解</li> <li>6 力学モデルと反力</li> <li>7 静定構造物・反力の計算（単純梁）</li> <li>8 制定構造物・反力の計算（片持ち梁）前半まとめと中間試験</li> <li>9 静定構造物・反力の計算（静定ラーメン）</li> <li>10 部材が受ける力（応力とは）</li> <li>11 応力の計算方法（片持ち梁と単純梁）</li> <li>12 応力の計算方法（静定ラーメン）</li> <li>13 応力の計算方法（トラス構造）</li> <li>14 応力度の理解</li> <li>15 後半まとめと期末試験</li> </ol> <p>※講義の順番及びボリュームは必ずしもこの限りではない</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習問題の宿題を出すので、自力で解く習慣を身につけること。 教科書を読んで理解しておき、次の講義に備えてください。						
授業方法	教科書に沿った講義＋演習。 授業中に数学的な計算問題を解く演習や図形を描く演習をほぼ毎回行い、宿題もある。						
評価基準と評価方法	中間試験・期末試験を実施する。 中間試験・期末試験の受験は必須である。 評価方法は以下の通り。 中間試験30% 期末試験40% 演習・宿題20% 平常点10%						
履修上の注意	用意するもの：三角定規、電卓（ルート計算機能付き程度のもの・携帯電話の電卓機能は認めない） ・授業は、Aの理解→A+Bの理解→A+B+Cの理解、というように段階的に積み上げて進んでいくため、連続して欠席すると、以降の講義内容が理解できなくなります。 欠席した場合は、必ず教科書を読むなど、授業内容について行く努力をしてください。 ・基礎的な数学の知識が必要です。 ※補講を行うことがあります。						
教科書	レジュメで行います。						
参考書	ゼロからわかる建築の「構造」入門 原口秀昭著 彰国社 ISBN 978-4-395-01041-7 (購入必須ではない)						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	室内環境論						
担当教員	池田 久司					科目ナンバ-	F73550
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	室内環境の成り立ちと環境調整のための技術						
授業の概要	美しいこと、構造的に強いことに加え、人が快適に過ごすことができるということは建物にとって大切な要素です。室内環境は光・熱・空気・音といった物理的要素から成り立っており、私たちは日々、これらからの影響を受け生活しています。これらの環境要素が室内においてどのような現象として現れ、それが人の身体や健康にどのように影響しているか、これらをどのようにコントロールすればより快適な環境を得られるか、また、環境調整の技術をどのように設計に組み込んでいくかを学びます。						
到達目標	採光や照明、熱と空気、湿気の振る舞い、騒音や遮音について、その仕組みを理解し、身近な生活環境での現状分析・改善策の検討を通して、環境設計の考え方を身につけることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総論 室内環境の要素とその単位</li> <li>2. 熱の性質</li> <li>3. 建物の熱性能</li> <li>4. 日照環境</li> <li>5. 湿気と結露</li> <li>6. 体感温度</li> <li>7. 外界気象</li> <li>8. 空気の質と流れ</li> <li>9. 換気と通風</li> <li>10. 音の性質</li> <li>11. 室内の音環境</li> <li>12. 光の性質</li> <li>13. 採光と照明計画</li> <li>14. 給水・給湯・排水</li> <li>15. 授業内容のまとめ・総復習</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 次回の授業内容に関して、身の回りの現状を観察する。 授業後学習： 講義内容を踏まえて、身の回りの環境を分析・評価し理解を深める。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業内で行う小テスト：30%、 課題レポート：70%						
履修上の注意	(1) 毎回、教科書を持参すること。 (2) ほぼ毎回、授業の最後に小テストを行う。						
教科書	『インテリアコーディネーターハンドブック 統合版 下』インテリア産業協会編、インテリア産業協会 ISBN 978-4-86374-143-0						
参考書	『設計のための建築環境学』日本建築学会編、彰国社 ISBN978-4-395-00894-0						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	身体論（健康）						
担当教員	上田 由美子					科目ナンバ-	F11040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大人の女性になるための健康知識を学ぶ。						
授業の概要	女性のからだについての理解を深め、健康な生活を送るためには、どのような食生活を送ればよいか、どのような病気に注意し、予防すればよいかを学んでもらう。また、いろいろな病気を理解し、関心をもってもらう。						
到達目標	(1) 自分のからだについて理解できる。 (2) 健康な生活を送るための知識を身につける。						
授業計画	第1回 授業の概要説明、健康な生活を送るために必要な知識について 【女性のからだ】 第2回 女性ホルモンと月経 第3回 女性の体と妊娠、出産 【知って予防できる病気】 第4回 女性の病気、乳がん、生殖器の病気 第5回 骨粗鬆症、性感染症 【健康寿命を延ばす知識と生活】 第6回 平均寿命と健康寿命 第7回 女性のライフスタイルの変化 第8回 喫煙の影響 【女性と栄養】 第9回 健康維持のための食 第10回 栄養素視点からの食 第11回 病気の予防のための食 【働く女性と健康】 第12回 働く女性の健康管理 第13回 夜間労働の健康への影響 第14回 仕事とストレス 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：前回授業で指示した内容について自己学習し、疑問点をあげる。 授業後学習：授業で学んだことの確認と理解。						
授業方法	講義（各回設定のテーマについて講義を行う）						
評価基準と評価方法	レポート80% 平常点20%（質疑応答など）						
履修上の注意	レポートは必ず提出のこと。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	身体論（美容）						
担当教員	小池 謙造					科目ナンバ-	F11030
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	美容の基礎を学ぶ。ここでいう美容とはヘアケア、スキンケア、メイクアップ、化粧品学である。						
授業の概要	美容（ヘアケア、スキンケア、メイクアップ等）について学び、基本的知識を学習する。自己の生活に応用する技術を身につける。						
到達目標	1.ヘアケアについて学び、理解する 2.スキンケアについて学び、理解する 3.メイクアップについて学び、理解する 4.化粧品全般について学び、理解する						
授業計画	第1回 授業全体のガイダンス。自己の振り返り。高校生までの意識・知識の確認。 第2回 ヘアケアの基礎1 ヘアケアの歴史、毛髪とは何か。 第3回 ヘアケアの基礎2 シャンプーについて 第4回 ヘアケアの基礎3 スタイリングについて 第5回 ヘアケアの基礎4 カラーリングについて 第6回 ヘアケアの基礎5 髪ダメージについて 第7回 振り返り 自分のヘアケア（ショートプレゼンを予定） 第8回 化粧品のマーケティング1 CM作成などのおはなし 第9回 化粧品の開発とは？ どのように化粧品は作られるか 第10回 スキンケアの基礎1 皮膚の話 第11回 スキンケアの基礎2 洗浄 第12回 スキンケアの基礎3 ケア 第13回 メイクアップの基礎1 メイクアップとは何か 第14回 メイクアップの基礎2 メイクアップ素材の話 第15回 振り返り 自分のスキンケア・メイクアップ（ショートプレゼンを予定）。最終レポート課題の発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ドラッグストアなどで、どのような化粧品が売られているのかをチェック。 インターネットでどのような情報が出回っているのかをチェック。 過去の自分の行動や意識を振り返る。						
授業方法	基本的には、講義主体で授業を行う。学生にとって身近な課題であるので、積極的に学生の意見を聞いたりする。 講義の理解度の確認と意識・行動を知るため、ショートプレゼンを予定している。						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 1.平常点（出席）30%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・提案）などによる評価。 2.ショートプレゼン2回の評価40%：授業の理解度、自己の気づき、提案など 3.レポート30%：授業の理解度						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上の欠席は、最終レポート提出不可とする。						
教科書	ヘアケアってなに？ 繊維応用技術研究会編 2014 （受講生に配布予定）						
参考書	化粧品を正しく使えばあなたはもっとキレイになれる 川島真 幻冬舎 2014 PHP新書 皮膚に聴くからだところ 川島真 PHP研究所 2013 ビューティアドバイザーのガイドブック 安田利顕ほか 中央書院 1981						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住居史						
担当教員	笠原 一人					科目ナンバ-	F73530
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	住居の歴史を学ぶ						
授業の概要	住居は人類の誕生とともに存在する。世界中各地で、その地域で手軽に入手でき、容易に建築できる素材・部材によって、住居は作られてきた。しかし近代になると、科学技術が飛躍的に発展し、新たな部材・部品、建設技術が発展し、施工の管理も行き届き、世界中で同じような住居が供給されるようになった。そんな中で、これまでの住居の歴史を振り返り、それらを通じて今後のあり方を考えることは重要である。本講義では、西欧にも触れるが主に日本の住居の様式史を中心に講義する。住宅がどのような社会的背景の中で、どのように造られ、変容してきたかを理解することを目的とする。						
到達目標	住居の歴史や背景、時代ごとの建物の仕組みや空間構成などを理解できるようになる。その理解は、現代の新しい住居を生み出すための糧になる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 原始時代の住宅 竪穴住居と高床住居</li> <li>3. 古代の住宅 寝殿造とその変容</li> <li>4. 中世・近世の住宅 1 書院造と数寄屋</li> <li>5. 中世・近世の住宅 2 民家と町屋</li> <li>6. 近代の住宅 1 洋風住宅</li> <li>7. 近代の住宅 2 住宅改良運動</li> <li>8. 近代の住宅 3 集合住宅と郊外住宅地</li> <li>9. 近代の住宅 4 モダニズムの住宅</li> <li>10. 近代の住宅 5 戦時下と戦後復興</li> <li>11. 近代の住宅 6 戦後モダニズムの住宅1 1950年代</li> <li>12. 近代の住宅 7 戦後モダニズムの住宅2 1960年代</li> <li>13. 現代の住宅 1 ポストモダンの住宅1 1970年代</li> <li>14. 現代の住宅 2 ポストモダンの住宅2 1980年代</li> <li>15. 現代の住宅 3 多様化する住宅 1990-2000年代</li> </ol> 期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	普段から雑誌や書籍などで、優れた住宅作品に親しむようにしてほしい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末テスト100%						
履修上の注意	履修の対象者 高い関心を持って授業に参加できる学生を対象とする。私語は厳禁。 質問は kasahara[at]kit.ac.jp まで。（[at]を@に置き換える）						
教科書	なし						
参考書	新版】図説・近代日本住宅史 内田青蔵・大川三雄・藤谷陽悦 編著 鹿島出版会 ISBN: 978-4-306-04493-7						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住宅再生論						
担当教員	池田 裕彦					科目ナンバ-	F74600
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	現代の住環境デザインの主要課題である「住宅再生」「住宅地再生」について学ぶ。						
授業の概要	日本古来の木造家屋である農家や町家等の多くは、忘れられ消滅しつつある。しかし近年、住文化の継承や環境共生の面から、できるだけ長く利活用することが望ましいという傾向にあり、一般家屋も含めて各地で住宅再生が展開しつつある。また、高度成長期には住宅を大量に生産・消費・廃棄してきた。大量に供給された公的賃貸集合住宅（団地）や分譲マンションについても建替えが進んでいる。このような背景下で、大量のストック住宅をどのように再生すべきか、ハード・ソフト・法整備等、課題は山積している。これらの問題を踏まえつつ、DVD鑑賞や現地見学を通じて、現代の住宅再生の実情を掴みながらその構造を理解し、今後のあり方を考えていく。						
到達目標	日本の伝統的家屋、一般家屋、公的賃貸集合住宅、分譲マンション等、現在実践されている「住宅再生」に関する基礎的知識を学んだ上で、学生が住んでいる住宅の再生について、学生自身が主体的に考察・提案できるようにすること。						
授業計画	第1回：「住宅再生」を学ぶ目的（「再生」の意味と現状）…DVD, スライド 第2回：民家（旧・農家住宅）の移築再生…DVD 第3回：公的賃貸集合住宅の現状と課題（UR千里青山台団地）…DVD, スライド 第4回：公的賃貸集合住宅の建替え再生（岡山県営中庄団地Ⅰ期、芦屋市営若宮町住宅） 第5回：芦屋市営若宮町住宅見学…後日、レポート提出 第6回：公的大規模賃貸集合住宅の建替え再生（UR浜甲子園団地）…後日、レポート提出 第7回：UR浜甲子園団地見学（さくら街+なぎさ街）…後日、レポート提出 第8回：公的賃貸集合住宅のリノベーション再生（住戸・共用部・住棟外装・屋外）…スライド 第9回：居住者参加による公的賃貸集合住宅団地の建替え再生（UR多摩平の森）…スライド 第10回：公的賃貸集合住宅団地におけるコミュニティ再生の試み（UR男山団地・UR南花台団地） 第11回：一般戸建住宅のリニューアル再生、別用途建物から住宅へのコンバージョン再生…DVD 第12回：分譲マンション（住戸）のリニューアル再生…DVD 第13回：分譲マンションの建替え実態と方法…DVD 第14回：自らの生活の問題として「住宅再生」を考える…レポート提出+発表 第15回：授業のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	自分の住んでいる住宅（実家）の物理的問題点を把握し、どこを改善して再生すればよいか具体的に考えた結果をレポートにまとめ、これを第14回の授業において各自発表する。						
授業方法	講義、見学、発表、討論						
評価基準と評価方法	・レポート40点、期末試験60点 ・各授業回のレポートの点数の内訳は、第5回と第7回は各10点、第14回は20点とする。						
履修上の注意	・第5回と第7回の見学については、実施曜日を土曜日の午後とするため、日程を調整して履修すること。 ・第5回と第7回の見学については、現地集合、現地解散とし、交通費は各自負担とする。 ・第5回と第7回の見学については、後日レポートを提出する。レポートの提出日（期日）は、授業時に指定する。						
教科書	プリント						
参考書	・団地再生-公団住宅に住み続ける（クリエイツかもがわ）、増永理彦、ISBN78-4-86342-009-0-C0036 ・UR団地の公的な再生と活用-高齢者と子育て居住支援をミッションに（クリエイツかもがわ）、増永理彦、ISBN978-4-86432-101-1 ・マンション再生-二つの古いへの挑戦（クリエイツかもがわ）、増永理彦、ISBN978-4-86342-117-2 ・場所の声を聞く-集まって住むカタチのデザイン（関西大学出版部）、江川直樹、ISBN978-4-87354-524-0 C30 52						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住文化論						
担当教員	加茂 みどり					科目ナンバ-	F73520
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の住文化・住まい方研究						
授業の概要	目的：住居・居住に関する文化・ニーズ、及びその実現に寄与する計画論的・技術論的発展の経緯を理解し、さらなる発展の方向性を考える能力を養成する。 概要：住居史をみると、家族などの生活者が住居のなかで安全・安心そして快適にいかに住みこなすか、時代の様々な制約のなかで格闘してきたことが良く判る。本論では、そのなかで住居内におけるより快適に住むための試みや住居設備に着目し、まずは、日本におけるその歴史をたどり生活者と住居の快適性追求を確認する。その上で、今日急速に進みつつある住宅・住宅設備等の進展あるいは更新について、現状を生活との関連で具体的に分析し、課題を整理し今後の方向を考えていく。						
到達目標	日本の住宅を議論検討する際の論点を学び、少なくとも複数の論点について説明できる。						
授業計画	第1回：現代住生活の源流 第2回：風土と住宅 第3回：海外の住宅 第4回：四季の暮らしと住まい 第5回：戦後の住宅計画・設備の変遷 第6回：ライフスタイルと住様式 第7回：次世代の暮らしを描く 第8回：次世代の住まいと居住実験 第9回：まち・コミュニティと住宅 第10回：環境保全と住宅・住宅設備 第11回：環境共生住宅の事例・・・見学 第12回：日本の住文化と中間領域 第13回：住宅設備とエネルギーシステム 第14回：授業内容のまとめ 第15回：授業内容の総復習と試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で学んだことを適宜復習してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末試験点数50%、平常点50%とする。平常点には、授業への参加態度、質疑応答内容を含める。						
履修上の注意	授業の一環として学外見学・講義を実施 見学先：大阪ガス実験集合住宅NEXT21 （大阪市天王寺区清水谷町6-16、 阪急六甲駅より約1時間、阪急電鉄と大阪市営地下鉄を利用した場合片道540円） ※質問は授業の前後で受け付けます。 授業の順番は変更になる場合があります。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	スタイリング演習						
担当教員	徳山 孝子・五十嵐 かほる					科目ナンバ-	F11010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ワンランク上のコミュニケーションと上質な感性の磨き方						
授業の概要	接客のための言語心理をはじめ、表現力も含めたコミュニケーション&プレゼンテーションスキルとコーディネート力の向上を図るプログラム。実践的なテキストを用い、論理的にコーディネートのメソッドを学ぶと共にファッションを通して教養を取得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①お客様との信頼関係を築くためのマナーを身につけ、使いこなすことができる</li> <li>②説得力を増すための知識や表現力を身につけ、使いこなすことができる</li> <li>③お客様の骨格や肌の色などの個性を把握し、魅力を引き立てるアイテムの提案ができる</li> <li>④お客様のニーズを引き出し、立場や社会情勢を捉えることができる</li> <li>⑤お客様の心を掴むための言語心理を用いたカウンセリング手法、パーソナルブランディング手法の知識を学ぶことで、ファッションの映える魅力的な人間力を磨くことができる</li> </ul>						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：五十嵐担当 年間の授業内容について・ファッションのコンセプト発表の仕方・自己紹介など</li> <li>②顔型・骨格の分析：徳山担当 デコルテラインの分類・体型の分類と分析</li> <li>③リベラルアーツ（色にまつわる知識と色彩心理）Ⅰ 問題集&amp;テキストを使って…：徳山担当 素材と輝度・カラー分析とカラーマネジメント</li> <li>④お客様・先輩や同僚と信頼関係を気付くための言語心理・心理テクニック：五十嵐担当 褒め上手・褒められ上手のコツ・クッション言葉 気を付けたい表現・好感度を上げる一言・音声心理・敬語</li> <li>⑤リベラルアーツ（教養・文化・ファッション）Ⅱ 問題集&amp;テキストを使って…：徳山担当 シルエット・スタイリングの判断基準</li> <li>⑥表現力の鍛え方①：五十嵐担当 良い声の出し方・ハキハキ話すための滑舌練習・わかりやすい話し方のコツ・文章の書き方 心を掴むプレゼンテーション方法 《行動心理》ファッションを生かすための立ち居振る舞い 姿勢・歩き方・おじぎ・しゃがみ方・座り方・物の受け渡し</li> <li>⑦リベラルアーツ（教養・文化・ファッション）Ⅲ 問題集を使って…：徳山担当 色のバランスと素材の組み合わせ方・ファッションマナー</li> <li>⑧《ホスピタリティ・おもてなしの心の育て方》：徳山担当 接客の基本 席次と上座…他</li> <li>⑨表現力の鍛え方②：五十嵐担当 表現力トレーニング・インタビュー技能、プレゼンテーション、キャプション訓練 ・伝える力、聴く力（伝えたい気持ちを正確に伝える・言葉にならない思いを聞き出す）</li> <li>⑩リベラルアーツ（教養・文化・ファッション）Ⅳ 問題集を使って…：徳山担当 「美容・心理・ファッションビジネス」問題集より</li> <li>⑪《スタイリング訓練》基本①コーディネートは全体のバランスを考える：徳山担当 アイテム同士のバランス・シルエットの作り方</li> <li>⑫表現力の鍛え方③：徳山担当 表現力トレーニング・インタビュー技能、プレゼンテーション、キャプション訓練 ・伝える力、聴く力（伝えたい気持ちを正確に伝える・言葉にならない思いを聞き出す）・報告書の書き方</li> <li>⑬《スタイリング訓練》基本②：徳山担当 コーディネートは素材感と色のバランスを考える</li> <li>⑭期末試験・《ブランディングコンセプトの作り方》：徳山担当 体型や似合う色を含めた自己分析&amp;コーディネート手法①</li> <li>⑮《ブランディングコンセプトの作り方》五十嵐担当 体型や似合う色を含めた自己分析&amp;コーディネート手法②</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：プレゼンテーションの訓練とスタイリングコンセプト作りの一貫で、毎回1人ずつスタイリングのコンセプトと時事に関する情報を1分半程度で発表する為、考えてくること。（学習時間60分）</p> <p>授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。（学習時間60分）</p>						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>①講義とグループワーク</li> <li>②実技（カウンセリングやコーディネート、話し方等）による演習</li> </ul>						

評価基準と評価方法	試験60%：パーソナルスタイリストの理解度を評価する。到達目標①および⑤に関する到達度の確認。 各回の積極的な授業参加40%：スタイリングのコンセプトと時事に関する情報を発表し、各回設定のテーマの課題を評価する。到達目標①および⑤に関する到達度の確認。
履修上の注意	①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は欠席扱いとする。 ③教科書は、必ず購入する。
教科書	●書名：『パーソナルスタイリスト検定R3級・2級筆記試験問題集』第3版 著者：五十嵐かほる 編集者：(社)パーソナルスタイリストR協会 出版(制作)：(株)スタイルファクトリー ●書名：『パーソナルスタイリスト検定R資格取得テキスト』 監修：(社)パーソナルスタイリストR協会 編集/出版(制作)：(株)スタイルファクトリー
参考書	授業内にて紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	スタイリング実習						
担当教員	徳山 孝子・五十嵐 かほる					科目ナンバ-	F11020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	ワンランク上のコミュニケーションと上質な感性の磨き方						
授業の概要	独りよがりのスタイリングや好みのコーディネート提案ばかりではなく、ファッションは誰のために存在するのか？を基準に捉えた「アパレル人として即戦力の人材」を目指す。現場でのリアルな事例をふんだんに取り入れながら自ら考えて答えを導き出し、前期で学んだ知識を実際にスタイリングの面でも接客の面からもアウトプット出来るようになること。また、自分自身を磨くためのコンセプト作りや見せ方などの基本を学ぶと同時に人の魅力の引き出し方と演出の仕方を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 接客をはじめ、提案力も含めたコミュニケーションスキルとコーディネート力の向上を図ることができる</li> <li>② グループワークや実技を中心に、即戦力の人材になるためにコーチングやカウンセリングの基礎ができる</li> <li>③ また、自ら考えて行動できるためのメソッドを身に付けることができる</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション（課題テーマ・方針・進め方の説明）発表の仕方など：五十嵐担当 《ブランディングコンセプトの作り方》体型や似合う色を含めた自己分析&amp;コーディネート手法① イメージボード制作準備/グループ分けや留意点など</li> <li>② 《ブランディングコンセプトの作り方》体型や似合う色を含めた自己分析&amp;コーディネート手法②：徳山担当 イメージボード制作準備表現力の鍛え方</li> <li>③ プレゼンテーション技法：徳山担当 イメージボード制作準備と人前で話すスキル（発表準備）</li> <li>④ 《ブランディングコンセプトの作り方》体型や似合う色を含めた自己分析&amp;コーディネート手法③：五十嵐担当 イメージボード製作発表/講評</li> <li>⑤ 《スタイリング訓練》実践①ショッピングツアー（ショッピング同行実践）：徳山担当</li> <li>⑥ 《スタイリング訓練》実践②ショッピングツアー（ショッピング同行実践）発表準備：徳山担当</li> <li>⑦ 《スタイリング訓練》発表③ショッピングツアー（ショッピング同行実践）発表：五十嵐担当 表現力の鍛え方Ⅰ 《カウンセリング技法》顧客の要望を聞き出す技術を身に付けるためにカウンセリング能力を学ぶ①</li> <li>⑧ 表現力の鍛え方Ⅱ：徳山担当 文章での表現力 題材の探し方と感性&amp;トレンドの磨き方</li> <li>⑨ 表現力の鍛え方Ⅲ：徳山担当 《カウンセリング技法》顧客の要望を聞き出す技術を身に付けるためにカウンセリング能力を学ぶ② 《行動心理》ファッションを生かすための立ち居振る舞いⅠ 姿勢・歩き方・おじぎ・しゃがみ方・座り方・物の受け渡し・コートの脱着・荷物の持ち方・手の表情（ファイルの持ち方・指さし）</li> <li>⑩ 《スタイリング訓練》応用①：徳山担当 ワードローブコーディネート（コーディネート撮影） 魅力を引き立てるタイプ別コーディネート法（いかにその人らしいコーディネートを見つけるか）</li> <li>⑪ 《スタイリング訓練》応用②五十嵐担当 ワードローブコーディネート（コーディネート撮影） 魅力を引き立てるタイプ別コーディネート法（いかにその人らしいコーディネートを見つけるか） 発表</li> <li>⑫ パーソナルスタイリスト検定受検対策講座：徳山担当</li> <li>⑬ 表現力の鍛え方《まとめ》：徳山担当 この一年間で学んだことのプレゼンテーションカウンセリング</li> <li>⑭ 期末試験・表現力の鍛え方《まとめ》：徳山担当 この一年間で学んだことのプレゼンテーション発表準備のためのワーク</li> <li>⑮ 表現力の鍛え方《まとめ》：五十嵐担当 この一年間で学んだことのプレゼンテーション発表</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：プレゼンテーションの訓練とスタイリングコンセプト作りの一貫で、毎回1人ずつスタイリングのコンセプトと時事に関する情報を1分半程度で発表する為、考えてくること。（学習時間60分） 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中内にてできなかった課題は完成させる。（学習時間60分）						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 講義とグループワーク</li> <li>② 実技（カウンセリングやコーディネート、話し方等）による演習</li> </ol>						
評価基準と評価方法	試験60%：パーソナルスタイリストの理解度を評価する。到達目標①および③に関する到達度の確認。 各回の積極的な授業参加40%：スタイリングのコンセプトと時事に関する情報を発表し、各回設定のテーマの課題を評価する。到達目標①および③に関する到達度の確認。						

履修上の注意	①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は欠席扱いとする。 ③教科書は、必ず購入する。
教科書	●書名：『パーソナルスタイリスト検定R3級・2級筆記試験問題集』第3版 著者：五十嵐かほる 編集者：(社)パーソナルスタイリストR協会 出版(制作)：(株)スタイルファクトリー ●書名：『パーソナルスタイリスト検定R資格取得テキスト』 監修：(社)パーソナルスタイリストR協会 編集/出版(制作)：(株)スタイルファクトリー
参考書	授業内にて紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	設計演習I						
担当教員	長瀬 りか					科目ナンバー	F74610
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業設計で様々な空間設計に取り組む準備として、住宅以外の建築空間を設計できる力を身につける。						
授業の概要	ハウジングデザイン実習I～IVを経て、住宅以外の建築の設計をも念頭に置き、4年次においてより高度な設計演習を行いながら、様々な空間設計に必要な知識・表現力を高める。 各自がテーマを設定し、必要な調査・研究を行いながら空間の計画および設計を行う。						
到達目標	各自のテーマに沿った設計課題の作品制作を通じて、製図・模型・パース等の表現手法、各種建築の設計の進め方、必要な知識の収集方法、プレゼンテーション技術を修得することができる。						
授業計画	第1回 : ガイダンスと各自制作テーマのレポート 第2回 : 敷地図作成、敷地環境分析 第3回 : 参考事例研究 第4回 : 敷地分析および事例研究に基づくコンセプト作成 第5回 : 研究成果発表用の図版作成 第6回 : 研究成果中間発表、基本構想作成 第7回 : 基本計画エスキス 第8回 : エスキスチェック、修正 第9回 : 基本計画図スタディチェック 第10回 : 基本計画図作成およびスタディ模型作成 第11回 : 基本計画図およびスタディ模型チェック、修正 第12回 : 基本計画図およびスタディ模型によるミニプレゼン 第13回 : プレゼンテーション図版作成 第14回 : プレゼンテーション図版チェック、修正 第15回 : 授業内プレゼン、講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各自の課題制作を進めるための資料収集、敷地調査、参考事例見学などを、自主的に行うことが必要。						
授業方法	作品制作を中心とした演習						
評価基準と評価方法	平常点30%、中間提出物20%、最終プレゼン提出物の評価50%とする。						
履修上の注意	10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 自己スケジュール管理を行い、授業時間外においても、自主的に調査・研究・作図等を進めること。						
教科書							
参考書	各自のテーマに応じて紹介。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	設計演習II						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバー	F74620
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	設計演習IIに引き続き、卒業研究で様々な空間設計に取り組むのに必要な設計力、特にパースや模型による立体表現などのプレゼンテーションスキルを高める。						
授業の概要	ハウジングデザイン実習I~IIIおよび設計演習Iを経て、住宅以外の建築の設計をも念頭に置き、4年次においてより高度な設計演習を行いながら、様々な空間設計に必要な知識・表現力を高める。各自がテーマを設定し、必要な調査・研究を行いながら空間の計画および設計を行う。 キーワード：空間設計、図面表現、プレゼンテーション						
到達目標	各自のテーマに沿った設計課題の作品制作を通じて、図面・模型・パース等、目的に応じたプレゼンテーション表現ができるようになる。						
授業計画	第1回 : ガイダンスと各自のテーマ、目標設定に関するレポート。 第2回 : 設計演習Iの計画内容のブラッシュアップ、コンセプトの整理。 第3回 : ダイアグラムの作成と基本設計図の修正。 第4回 : 3Dモデルの作成。 第5回 : 3Dモデルの作り込み。 第6回 : 3Dモデルからパース数面の取り出し。 第7回 : 3Dモデル、パースの追加、修正。 第8回 : Photoshopを用いてのパース、模型写真の画像補正(トリミング、明るさ・色調等)。 第9回 : Photoshopを用いてのパース、模型写真の画像補正(添景、背景等)。 第10回 : プレゼンテーションボードの作成。 第11回 : プレゼンテーションボード内容の追加、修正(説明文など書込み)。 第12回 : プレゼンテーションボード内容の追加、修正(レイアウト調整等)。 第13回 : プレゼンテーション用パワーポイントの作成。 第14回 : パワーポイントデータの追加、修正。 第15回 : プレゼンテーションボードとパワーポイントによる発表・講評。						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各自の課題制作を進めるための資料収集、参考事例見学などを、自主的に行うことが必要。						
授業方法	作品制作を中心とした演習						
評価基準と評価方法	平常点30%、中間提出物20%、最終プレゼン提出物の評価50%とする。						
履修上の注意	自己スケジュール管理を行い、授業時間外においても、自主的に調査・研究・作図等を進めること。各自のテーマ関連で、リサーチのための見学を指示する。 見学及び制作に要する費用は自己負担とする。						
教科書	プリントを配布する						

参考書	各自のテーマに応じて紹介する。
-----	-----------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活エコロジー論						
担当教員	永村 悦子					科目ナンバ-	F72020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	快適な生活とエコロジー						
授業の概要	<p>快適な暮らしを求めてきた結果、現在の地球環境にはさまざまなひずみが生じてきた。本講義では、次の世代へより良い地球環境を残すために、生活の中で、また生活とかがわる産業で何が行われているか、何ができるかを考える。具体的には、生活の基本である衣服や住まいにかかわるエネルギー消費、廃棄物など環境負荷について正しく理解し、快適性を犠牲にすることなく、環境負荷の少ない生活を目指すための環境技術について学ぶ。</p> <p>生態系の一部である私たちの生活が、環境とどのようにかかわっているかを知ること、つまりエコロジック的観点で暮らしを見つめることが授業の目的である。</p>						
到達目標	<p>エコロジーかつ快適な暮らしを実践するため、現状の問題点を指摘することができる。</p> <p>また、その問題を解決するための手法について、具体的に述べるができる。</p>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション  第2回：環境共生・エコロジー  第3回：地球環境問題(1)地球温暖化  第4回：地球環境問題(2)オゾン層破壊ほか  第5回：生活と環境負荷(1)エネルギー消費  第6回：生活と環境負荷(2)廃棄物  第7回：快適な衣環境  第8回：快適な住環境  第9回：環境負荷低減(1)省エネルギー  第10回：環境負荷低減(2)衣服の材料とリサイクル  第11回：環境負荷低減(3)住まいの材料とリサイクル  第12回：環境負荷低減(4)ライフスタイル  第13回：エコハウスの事例  第14回：エコプロダクツの事例  第15回：まとめと試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>予習として、授業計画にある各回のテーマに関連することから生活の中から見だし、問題意識を持って授業に臨むこと。</p> <p>また授業で扱った内容は、自らの暮らしや他の専門科目の取り組みに、積極的に反映させる。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト40%、授業内レポート30%、期末テスト30%						
履修上の注意	評価では授業への取り組みを重視する。やむをえない理由がない限り欠席しない、私語をしないなどの基本姿勢を自覚すること。						
教科書	プリント配布						
参考書	授業内に紹介する						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活福祉学						
担当教員	葛西 リサ					科目ナンバ-	F23050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	市民活動、NPO、身近な課題を社会問題として捉え、自ら福祉の担い手となる						
授業の概要	女性の社会進出による専業主婦の喪失は、家事労働の商品化の拡大を招き、それにより、福祉サービス化が急速に進んだ。無認可保育所の創設、更には、介護保険の導入などにより、サービスの対象は広く、一般に普遍化し続けている。本授業では、福祉サービスの受け手としてだけでなく、福祉サービスの担い手としての視点から、日々生じる生活課題を明確に捉え、それを解決するための知識とスキルの習得を目指す。						
到達目標	1) 福祉とは何か、生活とは何かについて学習し、生活福祉という概念が、時代の流れとともに必要とされてきた軌跡をたどることで、生活福祉の基礎知識を身につけることができる。 2) ライフスタイルや世帯の多様化に伴い、生活課題や住まいの課題も多様化している事実を確認し、同時に、この多様化に対応する一つ的手段として、行政と住民の協働の在り方、非営利組織の役割について学習することができる。 3) 1～2の学習をもとに、最終的には、受講者自身が日々感じている生活課題を抽出し、それへの具体策を提案する力を身につけることができる。						
授業計画	1 ガイダンス 生活福祉とは何か 2 コミュニティの変化と生活福祉の必要性 3 家族の変容と生活福祉 4 高齢社会と生活福祉 5 震災から学ぶ生活福祉 6 社会保障制度と生活福祉 7 生活福祉と住まい 新たな住生活ニーズとそれへの対応 8 市民活動の多様な事例から学ぶ 9 生活福祉の中の非営利組織の役割 10 市民の活動を支える非営利組織という存在 11 非営利活動を実践するための条件 12 生活者の視点から生きやすい社会をデザインする ワーク① 13 生活者の視点から生きやすい社会をデザインする ワーク② 14 生活者の視点から生きやすい社会をデザインする ワーク③ 15 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	講義と並行して、それぞれ気になる社会問題を題材として、市民活動の提案を行ってもらいます。日頃から、新聞等に目を通すなどして、社会の変化を読み取る訓練をしてください。						
授業方法	スライドによる講義に加え、関連するDVDの鑑賞等を組み込みます。また、授業の後半では、市民活動を企画するワークを行ってもらいます。						
評価基準と評価方法	試験60%、ワーク30%、レポート等10%						
履修上の注意	授業内レポート等は、用紙の3分の2を埋めるようにしてください。ボリュームの足りないレポートについては、採点の対象とはしません。						
教科書	指定なし						
参考書	一番ヶ瀬康子(1998)生活福祉の成立、生活学選書、一番ヶ瀬康子、尾崎新(1994)生活福祉論、光生館、雨森孝悦(2012)テキストブックNPO-非営利組織の制度、活動、マネジメント-東洋経済新報社、葛西リサ(2017)母子世帯の居住貧困						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活文化概論						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F03040
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化を基礎として身近な生活文化を学ぶ。						
授業の概要	本講は、生活の基礎を文化的側面から解明するものである。その学問的内容は、衣食住の生活をはじめ生活経営、生活経済、生活管理、自然環境など多様な専門分野から構成されている。これらは、人と人、人とモノ、モノとモノの関わりが強く、ライフデザインを形成している。時代とともに変わり行く生活を快適かつ円滑に運営するための知識を学び、これらを通じて日常生活のなかで「自分の身近な様子」「身近なモノや空間への興味」が持てるよう、日本文化を踏まえながら解説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日本人の国民性が説明できる。</li> <li>2) 日本独自の衣住文化の特徴を述べるもとができる。</li> <li>3) 靴を脱ぐ習慣について、考えられることを列挙することができる。</li> <li>4) 日本独自の間の文化を一つ例に挙げ説明することができる。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）</li> <li>2. 日本人と生活文化①：日本人とは、どのような国民性なのか？</li> <li>3. 日本人と生活文化②：春夏秋冬と日本人の秩序感覚</li> <li>4. 日本人と生活文化③：時代の移り変わりとともに変化してきた日本の色</li> <li>5. 日本人と食①：箸や茶碗の高級道具</li> <li>6. 日本人と食②：日本独自の食文化</li> <li>7. 日本人と食③：日本と欧米の違い—食の文化—</li> <li>8. インテリアの文化①：日本と欧米の違い</li> <li>9. インテリアの文化②：畳と絨毯の違い</li> <li>10. インテリアの文化③：靴の文化と裸足の文化</li> <li>11. 日本人の「間」①：「間」の文化とは</li> <li>12. 日本人の「間」②：「間」の文化—結界と気持ちのけじめ—</li> <li>13. 日本人の「間」③：「礼」の文化</li> <li>14. 日本人の「間」④：「着る」の文化</li> <li>15. 今までのレジュメのまとめ、試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間60分）</p> <p>授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。（学習時間60分）</p>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>①各回設定のテーマでレジュメを配布する。レジュメに沿って講義するため、授業前準備学習と授業後学習に使用する。</li> <li>②資料はプリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<p>試験70%：日本文化の理解度を評価する。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。</p> <p>提出物30%：レジュメを評価する。レジュメは、授業内容の確認と授業後学習を評価する。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。</p>						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>①10回以上の出席がないと、受講資格失う。</li> <li>②遅刻は、欠席扱いとする。</li> <li>③指定する課題を締切までに必ず提出する。</li> </ol>						
教科書	教科書としては、特に用いないが、レジュメ、プリントを配布する。						
参考書	参考書は、授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活防災学						
担当教員	石原 凌河					科目ナンバ-	F23060
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活や暮らしの観点から防災や災害過程における諸課題と対策に関する理解と、一人ひとりの命や暮らし守り、安心・安全な地域を実現するための手法の検討						
授業の概要	未曾有の大災害が全国各地を襲い、自然災害による被害が後をたたない。こうした災害からかけがえのない命や暮らしを守るためには、行政等によるハード的な整備だけではもはや限界があり、一人ひとりが適切な対策や行動を促すソフト的な対策が不可欠である。 本講義では、災害によって日常生活や暮らしに及ぼす影響について理解するとともに、安全なまちや暮らしを実現するための方策について講義する。						
到達目標	① 災害から命や暮らしを守るための基礎的な知識と実践力を習得することができる ② 災害と地域や暮らしとの関係を読み解き、より良い地域社会や生活のあり様について考えることができる ③ 災害と暮らしとの関係から、よりよい社会やまちのあり方について考えようとする態度を育成する						
授業計画	(1) 生活防災学の基本的視座 (2) 自然災害のメカニズム (3) 災害情報と避難行動 (4) 災害時の救援・医療支援と被災者の心のケア (5) 避難生活の様相 (6) 生活と住まいの再建 (7) 都市空間の復興 (8) 災害とジレンマ ―クロスロードの実践― (9) 木造密集市街地の整備 (10) コミュニティによる防災まちづくり (11) 災害ボランティアの役割 (12) 防災教育とリスクコミュニケーション (13) 災害の風化と記憶継承 (14) 授業内試験 (15) 授業内試験の返却、講義のまとめと振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・毎回の講義で配布するレジュメを見直すこと。 ・防災や災害に関する報道に日頃から注意を払うこと。 ・地域防災活動や災害ボランティア活動に参加することを推奨する。						
授業方法	資料やパワーポイントによる講義形式を基本とするが、受講生同士での意見交換する機会を適宜設ける。						
評価基準と評価方法	授業内試験 50%（到達目標の達成の有無を確認するための試験を出題する） 平常レポート 50%（毎回の授業中に提出する小課題を評価する） ※ 授業中の私語など明らかに他の受講生に迷惑をかける行為については、試験を受けさせないなどの措置をとる場合があります。 ※ 授業内試験は第14回目の授業内に実施します。第15回目の授業では試験を返却し、修正した答案を後日提出してもらいます。その結果を最大10点加点します。						
履修上の注意	・学外からの講師のため、やむを得ず休講を行い、土曜日や補講日等に補講を実施する場合があります。その際には、速やかに日程を受講生に伝えるようにする。 ・これからの人生において、何らかのかたちで災害と向き合う機会がくるはずですので、「生活防災学」で学んだことを自分の問題として捉え、積極的な姿勢で受講することを期待します。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	・矢守克也、宮本匠編『現場でつくる減災学』新曜社、2016 ・大矢根淳、浦野正樹、田中淳、吉井博明編『災害社会学入門』弘文堂、2007 ・矢守克也『増補版＜生活防災＞のすすめ』ナカニシヤ出版、2011 ・藤森立男、矢守克也編著『復興と支援の災害心理学』福村出版、2012 ・牛山素行『防災に役立つ地域の調べ方講座』古今書院、2012 ・瀧本浩一『地域防災とまちづくり』イマジン出版、2008 ・矢守克也編『被災地デイズ』弘文堂、2014 ・河田恵昭『これからの防災・減災がわかる本』岩波ジュニア新書、2008 ・片田敏孝『人が死なない防災』集英社新書、2012						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバ-	F04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	個々に設定したテーマに沿って衣装製作を行う。						
授業の概要	形態、素材、製作技術の追求や、舞台衣装、歴史、アートをベースとした発想、ユーザーを主体とした衣装設計など、さまざまな視点から独自のテーマを設定し、衣装製作をおこなう。 デザイン特別演習A、Bにおけるテーマ設定、資料・文献の調査、デザイン発想、デザイン画作成までの内容を基に、テーマにそった衣装設計・製作技術の向上、研究成果をまとめて発表するプレゼンテーション能力の向上を目的とし、4年間の学びを総括する。						
到達目標	1. 認知的領域:知識・理解 ①デザインに適した衣装製作の資材を選択できる。 ②デザイン画を基に、衣装の設計ができる。 ③研究目的からテーマ設定、衣装デザイン、設計、製作、ファッションショーまでの一連の流れを文章とポートフォリオにまとめ、パワーポイントで簡潔に発表できる。 2. 認知的領域:思考・判断 ①卒業研究の総括として、自ら導き出した結果と考察、結論を述べることができる。 3. 情意的領域:関心・意欲 ①作品をファッションショーやコンテストに意欲的に発表できる。 ②卒業研究での学びをふまえ、卒業後の進路を選択できる。						
授業計画	○前期 1. オリエンテーション（卒業制作の進め方、テーマ・進捗状況の確認、計画表作成） 2. 提出物について（実物製作、ポートフォリオ、レポート、ボード） 3. 作品製作指導「試作、デザインとパターンの決定」 4. 作品製作指導「本布製作1」 5. 作品製作指導「本布製作2」 6. 作品製作指導「本布製作3」 7. 作品製作指導「本布製作4」 8. 作品製作指導「本布製作5」 9. 作品製作指導「本布製作6」 10. 作品製作指導「本布製作7」 11. 作品製作指導「本布製作8」 12. 作品製作指導「本布製作9」 13. 中間発表に関する指導1 14. 中間発表に関する指導2 15. 中間発表に関する指導3/前期のまとめ ○後期 16. オリエンテーション（進捗状況の確認、ポートフォリオ作成法、レポート、ボードの形式） 17. ショーの構成・音楽・ヘアメイクに関する指導 18. ポートフォリオ作成1 19. ポートフォリオ作成2 20. ポートフォリオ作成3 21. レポート作成に関する指導1 22. レポート作成に関する指導2 23. レポート作成に関する指導3 24. レポート作成に関する指導4 25. ボード作成に関する指導1 26. ボード作成に関する指導2 27. 卒業研究要旨作成に関する指導 28. 卒業研究発表に関する指導1 29. 卒業研究発表に関する指導2 30. 卒業研究発表に関する指導3/まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：研究計画にそって、資料収集や衣装製作準備を行うこと。 授業後学習：次の授業までに課題を行うこと。 オフィスアワー：本館5階 火曜10:40～12:10						
授業方法	演習形式（個人指導を含む）						
評価基準と評価方法	発表（20%）、制作作品（50%）、ポートフォリオ・レポート・ボード（30%）で評価する。						

履修上の注意	1. 出席を重視する。(原則として、2/3以上の出席がないと受講資格を失う) 2. 作品、ポートフォリオ・レポート・ボードを必ず提出し、発表会にて発表すること。 3. 材料費(布、副資材、ファイル、ボード等)、調査や資料収集にかかる費用は自己負担とする オフィスアワー：前期、本館6階 火曜10:40～12:10 後期、本館5階 水曜10:40～12:10
教科書	なし
参考書	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F04070
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	ファッションに関わるテーマを一つ決め研究し、論文もしくは製作でまとめる方法を学ぶ。						
授業の概要	デザイン特別演習で学んだ知識をもとに、自らの研究を進めるための指導を行う。具体的には、研究計画、先行研究、資料・文献収集、実験する学生は実験方法、調査する学生は調査方法などを説明し、各自が研究を進める。進行状況に応じて個別指導をする。最後に論文もしくは製作（作品・ポートフォリオ）に仕上げ、パネルに要約したものを合わせて提出する。さらに、パネルの展示、発表プレゼンテーションする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究テーマに基づき論理的に説明できる。</li> <li>2) 研究方法や製作方法を列挙できる。</li> <li>3) 研究論文および作品を仕上げるができる。</li> <li>4) 研究論文および製作をパネルに要約できる。</li> <li>5) 研究内容もしくは製作内容を口頭発表できる。</li> </ol>						
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) オリエンテーション（研究方針・進め方の説明）</li> <li>2) テーマと研究方法の説明</li> <li>3) 各自の研究について発表Ⅰ</li> <li>4) 各自の研究について発表Ⅱ</li> <li>5) 各自の研究について発表Ⅲ</li> <li>6) 各自の研究および製作の方法について指導Ⅰ</li> <li>7) 各自の研究および製作の方法について指導Ⅱ</li> <li>8) 各自の研究および製作の方法について指導Ⅲ</li> <li>9) 各自の研究および製作の方法について指導Ⅳ</li> <li>10) 各自の中間発表について指導Ⅰ</li> <li>11) 各自の中間発表について指導Ⅱ</li> <li>12) 各自の中間発表について指導Ⅲ</li> <li>13) 各自の中間発表について指導Ⅳ</li> <li>14) 中間発表のプレゼンテーションⅠ</li> <li>15) 中間発表のプレゼンテーションⅡ</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16) オリエンテーション（研究方針・進め方の説明）</li> <li>17) 研究成果と図表やポートフォリオの作り方。</li> <li>18) 研究成果と卒論構成Ⅰ（製作の場合はレポートやポートフォリオⅠ）</li> <li>19) 研究成果と卒論構成Ⅱ（製作の場合はレポートやポートフォリオⅡ）</li> <li>20) 研究成果と考察・結論Ⅰ（製作の場合はレポートやポートフォリオⅠ）</li> <li>21) 研究成果と考察・結論Ⅱ（製作の場合はレポートやポートフォリオⅡ）</li> <li>22) 研究成果と考察・結論Ⅲ（製作の場合はレポートやポートフォリオⅢ）</li> <li>23) 研究成果と考察・結論Ⅳ（製作の場合はレポートやポートフォリオⅣ）</li> <li>24) 卒業論文や作品の最終チェック</li> <li>25) 卒業研究および作品の表題集の書き方</li> <li>26) 研究成果のパネル作成について指導Ⅰ</li> <li>27) 研究成果のパネル作成について指導Ⅱ</li> <li>28) 卒業研究発表について指導Ⅰ</li> <li>29) 卒業研究発表について指導Ⅱ</li> <li>30) 卒業研究発表（プレゼンテーション）</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間90分）</p> <p>授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中内にできなかった課題は完成させる。（学習時間90分）</p>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>①研究した内容を発表し、グループ討議への参加を求める。</li> <li>②研究内容によっては、個人指導する。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	提出物100%：プレゼンテーション、授業における貢献度、卒業論文作成過程における中間評価、卒業論文の内容など総合的に評価する。						
履修上の注意	授業の参加が重要なため出席を重視する。調査、文献資料などにかかる入場料、交通費などの実費負担がある。製作の場合は、材料費などは自己負担である。						

教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントを配布する。
参考書	そのつど紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	F04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	各自のテーマに沿って研究し、論文執筆あるいは作品製作を行う。						
授業の概要	デザイン特別演習での学びを基に、各自が研究・製作活動を行う。研究計画、先行研究、資料および文献収集、調査方法、テーマに沿った作品製作の指導を個別に行い、最終的には論文または作品（衣装・ポートフォリオ）を完成させ、研究成果をボードに要約し提出、4年間の学びをかたちあるものとして総括する。各自の進行状況に応じた個人指導を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究方法や製作方法を説明できる。</li> <li>・研究論文または作品を完成させることができる。</li> <li>・研究論文または作品をボードに要約することができる。</li> <li>・研究内容または作品内容を口頭発表することができる。</li> </ul>						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期</li> <li>1. オリエンテーション（研究または製作方針・進め方、進捗状況の確認）</li> <li>2. テーマの再検討と確立</li> <li>3. 研究発表1</li> <li>4. 研究発表2</li> <li>5. 研究または作品製作指導1</li> <li>6. 研究または作品製作指導2</li> <li>7. 研究または作品製作指導3</li> <li>8. 研究または作品製作指導4</li> <li>9. 研究または作品製作指導5</li> <li>10. 中間発表に関する指導1</li> <li>11. 中間発表に関する指導2</li> <li>12. 中間発表に関する指導3</li> <li>13. 中間発表に関する指導4</li> <li>14. 中間発表のプレゼンテーション1</li> <li>15. 中間発表のプレゼンテーション2</li> <li>・後期</li> <li>16. オリエンテーション（研究または製作方針・進め方、進捗状況の確認）</li> <li>17. 研究または製作成果とポートフォリオ作成指導</li> <li>18. 研究成果と論文構成1（製作：レポートやポートフォリオ作成1）</li> <li>19. 研究成果と論文構成2（製作：レポートやポートフォリオ作成2）</li> <li>20. 研究成果と考察・結論1（製作：レポートやポートフォリオ作成3）</li> <li>21. 研究成果と考察・結論2（製作：レポートやポートフォリオ作成4）</li> <li>22. 研究成果と考察・結論3（製作：レポートやポートフォリオ作成5）</li> <li>23. 研究成果と考察・結論4（製作：レポートやポートフォリオ作成6）</li> <li>24. 論文および作品の最終チェック</li> <li>25. 卒業研究または作品の表題集の書き方指導</li> <li>26. 研究または製作成果のボード作成指導1</li> <li>27. 研究または製作成果のボード作成指導2</li> <li>28. 卒業研究発表指導1</li> <li>29. 卒業研究発表指導2</li> <li>30. 卒業研究発表指導3</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：研究計画にしたがって、資料集や製作準備を行う（詳細は授業内で指示）（学習時間：90分）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容を整理、要点をまとめ次回までに課題に取り組む（学習時間：90分）</p>						
授業方法	演習形式（個人指導を含む）						
評価基準と評価方法	提出物（論文または制作物の内容、完成度）80%、授業への参加度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）20%						

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"><li>・出席を重視する。授業回数の2/3以上の出席を必要とする。</li><li>・調査、見学（交通費、入場料など）、文献収集や制作に要する費用は自己負担とする。</li><li>・研究・制作活動のスケジュールは、責任をもって管理すること。</li><li>・提出物（論文、作品、ポートフォリオ、レポート・ボードなど）は、期限内に必ず提出（発表会で発表）すること。</li></ul>
教科書	とくに定めない。
参考書	必要に応じて紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	中林 浩					科目ナンバ-	F04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	<p>本ゼミでの内容は都市計画・地域計画にかかわる研究・制作です。オリジナリティのある研究・制作であることがいちばん重要なことです。</p> <p>2011年度の卒業研究のテーマを掲げておきます。「日本におけるアウトレットの展開」「専用劇場をもつことによる劇団四季の魅力」「日本におけるグラフィティ・タギングの現況」「京都市域における洋風の風物」「ノスタルジックな町並み」(写真集)「都市における石畳道の意味——日本と他国の石畳の比較から」「なぜ動物園の入り口付近にフラミンゴがいるのか」「日本におけるマングローブという存在——マングローブの必要性」「アニメ・漫画による町おこし——聖地巡礼」「Anime Location Site」(パンフレット)「地域のまとまりの重要性——小学校と商店街を中心とする日常生活圏」「ライフスタイルの多様化による結婚昏に対する意識の変化——同棲は本当に結婚を遠ざけている?」。</p> <p>2012年度は研究写真帳というジャンルを開拓しようとして、自宅の改装の設計1点と、「おもしろい屋外広告と看板」「パン屋ののある風景」という作品を作ってもらいました。2013年度「ライトノベル「舞台探訪」」「アートのある町 研究写真帳」「舞台からジブリの魅力を考える 研究写真帳」「創造都市・東大阪 研究写真帳」「高架道路の撤去による都市再生 研究写真帳」「関西4水族館の比較 研究写真帳」「屋台いろいろ 研究写真帳」「京都高層建築の低層階 研究写真帳」「街の縁側——カフェのある住宅」。</p> <p>各ゼミ員がレジュメを用意し、それを題材に討議するのを基本とします。各ゼミ員のテーマにかかわる見学、あるいは共通するイベントなどによっては学外に出ることもあります。金曜日の午後を基本とするが、流動的な日程を組むことがあります。</p> <p>ゼミ旅行や研究のまとめのための合宿なども条件があればします。ちなみに2011年度はゼミ旅行として直島に行きました。2012年は福岡に行きました。</p> <p>研究写真帳という形式の卒業研究を勧めている。「研究写真帳」というのは、次のように考えました。①基本は自分で撮った写真を使う。家族などが撮った古い写真を使う場合もある。また指導教官の撮った写真は共同研究者として使う。インターネットや本からとった写真は、引用先を示して使う。②分量はA4で、裏表印刷20枚、40ページほどとする。③芸術写真集としての性格ももつが、テーマを設定して解説や分析の文章のあるものとする。</p> <p>次のようなことも考えてみよう。「昼・夜は気分がそれなりに高揚しているの、あすからがんばろうと思うけれど、つぎの朝になるとその気分がしぼんでいる。その朝に奮起できるかどうか。</p> <p>大きな課題は分けて、小さい課題はまとめていっしょにこなす。いやな課題は好きにするか、どうしてもいやなら捨てる」。</p> <p>これは小学校からの勉強の集大成です。すぐに満足感が得られる場合もあるでしょうが、がんばった分いつか30歳・40歳になったとき役立つでしょう。</p>
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に応えることができる。
授業計画	<p>ゼミの「計画」を述べますが、ゼミの性格からして、ゼミ員の討論によって変わりますし、ある意味ではゼミは成り行きに任せるのも重要なことです。学問において成り行きは美しいことでもあります。成り行きのなかに高度な思考が宿ります。一回一回の計画を具体的に書くなどというのは、けっして美しくないもので、以下のようにシンプルにします。ゼミ員が各自のテーマにしたがって発表と討議をくりかえします。</p> <p>1 発表と討議1回め 2 発表と討議2回め 3 発表と討議3回め 4 発表と討議4回め 5 発表と討議5回め 6 発表と討議6回め 7 発表と討議7回め 8 発表と討議8回め 9 発表と討議9回め 10 発表と討議10回め 11 発表と討議11回め 12 発表と討議12回め 13 発表と討議13回め 14 発表と討議14回め 15 発表と討議15回め 16 発表と討議16回め 17 発表と討議17回め 18 発表と討議18回め 19 発表と討議19回め 20 発表と討議20回め 21 発表と討議21回め</p>



科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバ-	F04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	ハウジングデザイン領域の建築設計、インテリアデザイン等の卒業制作						
授業の概要	デザイン特別演習を通じ、各自が考えた住空間デザインへの問題提起をテーマとし、提案的な卒業研究／制作に取り組む。 ゼミ形式で、各自のテーマに応じて必要な調査を行ない、随時発表・討論を行ないながら制作をすすめ、様々な住空間の計画・設計、インテリアデザイン等の作品にまとめる。 またそのプロセスについては、制作ノートにまとめる。 図面、模型、スライド等に表現し、プレゼンテーションを行なう。 キーワード：住空間、卒業制作、プレゼンテーション						
到達目標	各自興味のあるテーマについての理解、問題意識を深め、独自の有意義な提案ができるようになる。 表現力を高めながら、まとまった建築設計またはインテリアデザイン作品に仕上げ、トータルなプレゼンテーションができるようになる。						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、第1段階 「卒業制作のテーマに関する基礎研究」 敷地設定、参考作品など資料の収集と前提条件の整理</p> <p>第2回 第1段階 敷地図、既存図の作成、 参考作品研究（図面トレース、スタディ模型制作等）、ヒアリング等</p> <p>第3回 第1段階 参考作品、ヒアリング結果等の分析</p> <p>第4回 第1段階 基礎研究のまとめ</p> <p>第5回 第1段階 基礎研究の発表用パワーポイントの作成</p> <p>第6回 第1段階 基礎研究の発表、第2段階の準備</p> <p>第7回 第2段階 「基本計画」 エスキース</p> <p>第8回 第2段階 エスキースチェック、修正</p> <p>第9回 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成</p> <p>第10回 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成</p> <p>第11回 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成</p> <p>第12回 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成</p> <p>第13回 第2段階 まとめ、中間発表用パワーポイントの制作</p> <p>第14回 第2段階 パワーポイントのチェック、修正</p> <p>第15回 第2段階 中間発表と講評、夏休みの宿題計画</p> <p>第16回 第3段階 夏休みの宿題のまとめ、第3段階の計画</p> <p>第17回 第3段階 夏休みの宿題発表、第3段階「詳細設計」準備</p> <p>第18回 第3段階 詳細図、パース、模型などの制作</p> <p>第19回 第3段階 詳細図、パース、模型などの制作</p> <p>第20回 第3段階のまとめ、中間発表用プレゼンテーションボードの制作</p> <p>第21回 第3段階 中間発表、講評。追加修正事項の指導</p> <p>第22回 最終段階 追加修正図面の作成</p> <p>第23回 最終段階 プレゼンテーションボードの制作</p> <p>第24回 最終段階 プレゼンテーションボードの制作</p> <p>第25回 最終段階 プレゼンテーションボードのチェック</p> <p>第26回 最終段階 制作ノートの整理、まとめ</p>						

授業計画	第27回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートのプリントアウト、学科提出 第28回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートのチェック、修正 第29回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートの完成、最終提出。概要集用原稿の作成 第30回 最終段階 発表用パワーポイント、原稿の作成
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	興味のあるテーマについて、各自で文献検索、資料収集につとめ、学習を深めること。 テーマ関連の建築や展覧会等の見学を積極的に行うのが望ましい。
授業方法	ハウジングデザイン領域の卒業作品制作を中心としたゼミナール。
評価基準と評価方法	評価比率は、最終作品の評価50%、中間段階の提出物20%、平常点30%とする。
履修上の注意	卒業作品の制作には、多大な時間とエネルギーが必要である。 自己責任でしっかりとスケジュール管理を行ない、十分な制作時間を確保すること。 各自のテーマ関連で、リサーチのための見学を指示する。 見学及び制作に要する費用は自己負担とする（各ゼミ共通）。
教科書	
参考書	各自のテーマに応じて紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	地域貢献デザイン演習						
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	F0202A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	地域イベントへの参加・情報発信など、学生の立場からの貢献方法を模索するため、地域の実態について理解しそれらについてのマップ・ダイアグラム・リーフレットなどの情報発信のためのグラフィック表現をデザインする。						
授業の概要	従来、課外活動として実施してきた兵庫県の県民ふれあいの祭典、神戸市の神戸ビエンナーレ、神戸ファッションウィークなどの関連イベントへの参加実績を振り返り、地域貢献活動への第一歩として、身近な地域情報発信のためにグラフィックソフトを活用したデザイン演習を行う。						
到達目標	1) 学生らしい視点から居住地域の実態に注目できる 2) 地域の現況・イベント・観光資源などに関して情報収集ができる。 3) 地域情報発信のための簡単な情報媒体の制作ができる。						
授業計画	1) 04/10 オリエンテーション -従来イベント参加例- 2) 04/17 神戸市・兵庫県の地域イベントについて 3) 04/24 居住地域の再発見 -1- 興味をもった対象の画像収集 4) 05/01 " -2- 居住地域概要紹介プレゼン 5) 05/08 地域情報表現 -1- マップ 6) 05/15 " -2- ダイアグラム 7) 05/22 " -3- リーフレット 8) 05/29 神戸市内の情報発信対象の調査 -1- グループ編成・調査計画 9) 06/05 " -2- 調査資料編集 10) 06/12 " -3- デザイン表現制作 11) 06/19 地域情報発信のためのデザイン提案 -1- 冊子概要 12) 06/26 " -2- 内容構成・レイアウト 13) 07/03 " -3- 完成 14) 07/10 プレゼンテーション 15) 07/17 講評						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	地域に対する関心を高め、イベントなどを積極的に見学する。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点30%、最終課題(冊子・プレゼンテーション)70%で評価する。 平常点は途中課題の理解度・提出状況とデザインスキルの上達度を評価する。						
履修上の注意	デザイン提案はグループ課題とする場合がある。また、必要に応じて学外見学を実施する場合がある。						
教科書	特になし。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	テキスタイルデザイン演習Ⅰ(基礎) / テキスタイルデザイン演習						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	F72140
学期	後期 / 2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	テキスタイルデザインの基礎的な知識と技術を学ぶ						
授業の概要	テキスタイルに施す装飾技術としてクラフトワークを学び、手仕事の奥深さや美しさを知る。反射材系によるテキスタイルデザインおよびそれを用いた作品を製作し、(一社)日本反射材普及協会主催「反射材エキシビジョン」へ出展する。テキスタイルデザインを通じた社会貢献意識とデザイン発想への新たな視座の形成を目指す。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスタイルに関連する技法を習得することができる。</li> <li>・テキスタイルデザインを通じた社会貢献意識を深めることができる。</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 刺繍の技法 1 ランニングステッチ、バックステッチ、アウトラインステッチ</li> <li>3. 刺繍の技法 2 レゼーデージーステッチ、サテンステッチ、フレンチナッツ</li> <li>4. 作品制作</li> <li>5. 糸、布のデザイン</li> <li>6. 反射材系 1 デザイン</li> <li>7. 反射材系 2 布地選定</li> <li>8. 反射材系 3 布地デザイン</li> <li>9. 反射材系 4 作品制作①型紙作成</li> <li>10. 反射材系 5 作品制作②布地裁断</li> <li>11. 反射材系 6 作品制作③装飾</li> <li>12. 反射材系 7 作品制作④仮縫い</li> <li>13. 反射材系 8 作品制作⑤縫製</li> <li>14. 反射材系 9 効果の確認</li> <li>15. 作品発表</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実習科目のため、原則として授業時間内で計画内容にそったすべての学習を行う。授業時間内で到達できない場合は、次回までに到達させておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品50%、授業への参加度(積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか) 50%						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習授業のため、原則として欠席や遅刻は認めない(やむを得ない場合は、10回以上の出席とする)。作業に遅れが生じた場合は、次週までに必ず進めておくこと。</li> <li>・課題作品は期限内に必ず提出すること。</li> <li>・材料費は自己負担とする。</li> </ul>						
教科書	とくに定めない。						
参考書	必要に応じて紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	テキスタイルデザイン演習II (CAD) / ファッションプレゼンテーション演習II						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバー	F73290
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	テキスタイルデザインに挑戦する						
授業の概要	衣服の素材としてのテキスタイルの基礎知識（組織、構造、性質、生産、染色、加工技法など）を学ぶ。この知識に基づき、テキスタイル専門CADソフトを用いて受講生各自がオリジナルのプリント柄や織物のデザイン作品を制作する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスタイルに関する理解を深める。</li> <li>・デザインソフト4Dboxを用いてテキスタイルデザインを行うことができる。</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 使ってみようテキスタイルCAD (4DBox)</li> <li>3. テキスタイルCAD (4DBox) の基礎</li> <li>4. 先染めデザイン1 ドット</li> <li>5. 先染めデザイン2 ストライプ、ボーダー</li> <li>6. 先染めデザイン3 チェック</li> <li>7. 糸のデザイン</li> <li>8. プリンティング 花柄</li> <li>9. 刺繍のデザイン</li> <li>10. ニットデザイン1 編み</li> <li>11. ニットデザイン2 透かし</li> <li>12. テキスタイル柄の3Dマッピング</li> <li>13. 作品制作1 デザイン</li> <li>14. 作品制作2 配色</li> <li>15. 作品発表</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：各回、授業で行う当該箇所の予習（詳細は授業内で指示）（学習時間：90分）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容の操作方法を復習（学習時間：90分）</p>						
授業方法	演習。プリントを活用する。						
評価基準と評価方法	作品50%、発表30%、授業への参加度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）20%						
履修上の注意	演習授業のため、原則として欠席や遅刻は認めない（やむを得ない場合は、10回以上の出席とする）。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン企画論						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	F14050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションとデザインを考える						
授業の概要	ファッションを企画する際のアイデア・ソース（発想の源泉）となる文化的知識を身につける。トップモードに影響を与えた伝統的技術について染織を中心に概観し、伝統が新しさを生み出してきた事実を確認する。また、布地や衣服の生産、流通の歴史をひも解き、産業としてのファッションの未来について考える。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッションを多面的に捉えることができる。</li> <li>・人と環境と生活とファッションの関係について理解できる。</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ</li> <li>3. テキスタイルにみる日本の文様</li> <li>4. KATAGAMIとデザイン</li> <li>5. 染織の美1 染めの歴史</li> <li>6. 染織の美2 染めの技法</li> <li>7. 染織の美3 織りの歴史</li> <li>8. 染織の美4 織りの技法</li> <li>9. 染色の美</li> <li>10. ファッション産業の歴史とグローバル化</li> <li>11. ラグジュアリーブランドの社会貢献と文化貢献</li> <li>12. エシカルファッション</li> <li>13. ファッションにおけるデザインの力</li> <li>14. 発表</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回、授業で行う当該箇所の予習（詳細は授業内で指示）（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容を整理、復習（学習時間：90分）						
授業方法	講義。資料（プリント）や視聴覚教材（DVDやパワーポイント）を活用する。						
評価基準と評価方法	発表20%、授業中の小レポート20%、課題40%、授業への参加度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）20%						
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席を必要とする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	『デザインの力』（晃洋書房、永井隆則 編著）						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン心理学						
担当教員	高田 敏代					科目ナンバ-	F13100
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	デザイン（ファッション）と心理（コミュニケーション・伝達）を解析します。						
授業の概要	デザイン（ファッション）は、時代を映し出す社会の鏡であり、その時代を生きる人々の心を映し出す鏡である。この授業では、社会を映し出すデザイン（ファッション）と個人の心理を映し出すファッションについて学びます。日常生活の中にある具体的な事例をもとに、デザイン（ファッション）と社会、ファッションと人の心理的な関わりについての理解を深めることが目標です。						
到達目標	「社会環境とデザイン（ファッション）」、「人とファッション」の密接な関係について理解できる。社会や人はデザイン（ファッション）でコミュニケーション（情報伝達）できることを理解できる。						
授業計画	1回 授業の概要と進め方、評価の方法について説明する。 ファッションってなに？人はファッションでコミュニケーションしているってどんなこと？の解説 2回 社会心理とデザイン（ファッション） 戦後の歴史とファッション（デザインやカラーなど）の解説 3回 社会心理とデザイン（ファッション） 社会心理が生み出したファッショントレンドについての解説 4回 人の心理とファッション 人はファッションを通してコミュニケーションしていることを知る 5回 人の心理とファッション 自己分析を通して自分を知る 自分はどのように人に見られたいのかを知る 6回 色彩の心理 色の機能や配色効果と対比、年代別の色の嗜好、色形反応などを学ぶ 7回 色彩の心理 ファッションや生活への応用 マインドカラーとパーソナルカラー（似合う色）の解説 8回 デザインの心理 デザインの心理的な見え方（錯視＝視覚に関する錯覚）について学ぶ 9回 デザインの心理 環境や住空間、ファッション（服の着方）にどのように応用されているのかを知る 10回 ブランドに対する心理 ブランドとはなにか、ブランドのデザインやブランドの心理戦略について学ぶ 11回 ブランドに対する心理 ファストファッション（ユニクロなど）ブランド戦略とデザインについて学ぶ 12回 ファッションで分析する 調査資料に基づき年代別の嗜好色やデザイン、服の着こなしの違いを解説する 13回 生活シーンで分析する 生活シーン別スタイリングマップ（カラー、デザイン、コーディネート）の作成 14回 デザイン（ファッション）心理学 全体まとめ 各自学んできたことを応用したデザインや事例を探す 15回 各自の研究レポートの発表会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	デザイン（ファッション）と心理学をテーマにしたレポート						
授業方法	オリジナルテキストを使用 参考文献の案内						
評価基準と評価方法	授業内容に積極的に取り組めたか。 課題やレポート、授業ノートで採点します。						
履修上の注意	授業を通して知り得た個人情報について授業外で他者に他言してはいけません。 ①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は、欠席扱いとする。 ③指定する課題を必ず提出する。						
教科書	オリジナルテキスト ファッションコミュニケーション 東方出版 著者高田敏代（講師の著書） 1日目から使いますので事前に購入してください。						
参考書	授業を進める中で紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン実習IA/ハウジングデザイン実習IA						
担当教員	榊原 節子					科目ナンバ-	F7246A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	ハウジング設計の基礎知識の習得						
授業の概要	低層住宅の単体について、2~3の課題を設定し、企画から基本設計および一部の詳細設計までを行う。一年次に学習した住居の基礎知識あるいは2年前期での「ハウジングデザインIB」で習得するスキルを使いながら、立地・環境あるいは場所性を読み取り、自らイメージした低層住宅についてスケッチしたうえで、CADにより平面、断面、立面の一般図とパースを作成し模型などを作る。各々の課題について、クラス全員の参加で講評会を行い、自らを考えたことを他人に伝えるプレゼンテーション能力も涵養する。						
到達目標	住宅設計のコンセプトづくりから、図面作成・模型製作・写真撮影・プレゼンテーションと建築設計の一連の行程を実践することにより、建築設計の方法論を習得できます。						
授業計画	第1回 : 設計製図の基礎 第2回 : 実習課題1 「小住宅(平屋)のトレース」の課題発表 第3回 : 実習課題1 平面図のトレース 第4回 : 実習課題1 断面図のトレース 第5回 : 実習課題1 立面図のトレース、及び提出 第6回 : 実習課題2 「小住宅(2階建)の模型制作」の課題発表 第7回 : 実習課題2 模型制作 その1 (模型の作り方) 第8回 : 実習課題2 模型制作 その2 (小住宅の模型づくり) 第9回 : 実習課題2 模型完成、及び提出 第10回 : 実習課題3 「六甲の小住宅(2階建)の設計」の課題発表 第11回 : 実習課題3 エスキス 第12回 : 実習課題3 CAD図面制作 第13回 : 実習課題3 模型制作 第14回 : 実習課題3 模型、及びプレゼンテーション図面完成 第15回 : 実習課題3 プレゼンテーション、及び講評会						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業内容が高度なため、なるべく授業時間内に課題を完了させるための十分な準備が必要。 授業前学習: 授業計画に従い、授業までに教科書の該当箇所を読んでください。 授業後学習: 学んだことを整理し、ノートにまとめておきましょう。次々に新しい知識を習得しなければならないため、1回1回十分に知識を習得しましょう。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点15%、第1課題の成績10%、第2課題の成績15%、第3課題の成績20%、最終課題の成績40%とする。						
履修上の注意	建築設計の初めての実践的な授業であり、建築製図の基礎を学ぶ実習です。限られた授業時間の中での課題制作は時間との戦いです。毎回出席し時間厳守で授業に望んでください。 また、課題制作上必要なものとして以下の道具を購入する必要があります。大学での実習では、教室備え付けの備品がある程度利用できますが、自宅での制作や他のハウジング系実習授業、更には卒業後の二級建築士受験の際にも必要です。詳細については授業中に説明します。 ■製図に必要な道具 平行定規簡易式A2版 or T定規、三角定規30cm型、勾配定規22cm型、三角スケール(15cm及び30cm)、 テンプレート(建築士受験用)、製図用シャープペンシル0.5・0.3各1本、字消板、消しゴム、 製図用ブラシ、ドラフティングテープ、ケント紙A2版、トレーシングペーパー、 キャリングケース(A3ノビサイズ)、コンベックス等 ■模型制作に必要な道具と材料 カッターナイフ、カッティングボード、スチール定規、スチール曲尺、ヒートカッター、 スチレンボード、両面ケント1mm、バルサ、スプレーのり、 貼ってはがせるスプレーのり、スチのり、木工用ボンド、軟粘着両面テープ、マスキングテープ等 ■授業内容に関する質問を受けるための連絡先 info[at]setsuko-sakakibara.com 「メールをする場合は[at]を@に置き換えること」						
教科書							

参考書	新しい建築の製図(出版：株式会社 学芸出版社)
-----	-------------------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン実習IB/ハウジングデザイン実習IB						
担当教員	蔵田 優美					科目ナンバ-	F7246B
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	2次元CADの習得と住宅設計の考え方・表現法の習得						
授業の概要	ハウジングデザインの主要な表現方法である建築CADの基本を学ぶ。CADソフトには、VectorWorksを用いて、住宅の平面図や家具図等の2次元的作図を行うための図面表現と操作方法を修得する。図形描画と画像取り込みによるデザイン構成の課題や主要な建築家やデザイナーの作品を題材にしたトレース課題に取り組み、デザインについての理解を深めながら、各自のデザインに応用し、住宅の設計図を描いていく方法を身につける。(主に建築物を対象。) キーワード：住宅設計、2次元CAD						
到達目標	住宅・家具図面のトレース、基本的な住宅設計課題を通じて、2次元CADによる製図・表現ができる住宅建築の設計の進め方、考え方についての基礎を理解する						
授業計画	第1回 : ガイダンスと基本操作演習A 第2回 : 基本操作演習Bと第1課題「木造住宅“箱の家” (設計：難波和彦)のトレース」課題発表・手順1~3 第3回 : 基本操作演習Cと第1課題 手順4~5 第4回 : 基本操作演習Dと第1課題 完成まで 第5回 : 第2課題「家具“ソラリス”(設計：倉俣史朗)のトレース」 第6回 : 第3課題「RC住宅“Y-House”(設計：妹島和世)のトレース」手順1~7 第7回 : 第3課題 手順8~完成まで 第8回 : 第3課題「RC住宅“Y-House”(設計：妹島和世)のトレース」立面図 第9回 : 第4課題 (合同課題)「六甲の小住宅(2階建)の設計」の課題発表と敷地分析 第10回 : 第4課題 エスキス 第11回 : 第4課題 エスキス、CAD図面制作 第12回 : 第4課題 CAD図面制作 第13回 : 第4課題 模型制作 第14回 : 第4課題 模型、及びプレゼンテーション図面完成 第15回 : 第4課題 プレゼンテーション及び講評会						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各課題は各回の授業計画に沿って解説を行い、課題制作を進めるため、授業時間内にその回に到達すべき点に達することができなかった場合は、次回までに教室の空き時間を利用して作業を進めておく必要がある。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点15%、第1課題の成績15%、第2課題の成績10%、第3課題の成績20%、最終課題の成績40%とする。						
履修上の注意	10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 また、欠席した場合は、次回までに自習しておかないと継続できなくなるので注意のこと。 授業中にできなかった分については宿題になるので、期限内に提出できるよう、CAD教室の空き時間を利用して課題を進めること。 自宅でも進められるよう、VectorWorksの学生向けソフトを購入するのが望ましい。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	書名：第2版 コンパクト建築設計資料集成 住居 著者：日本建築学会 出版：丸善 ISBN：4621035894						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン実習Ⅱ/ファッションデザイン実習Ⅰ						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバ-	F72230
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服構成の理解、製作技法の習得						
授業の概要	ファッションデザイン実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは、テーマ設定、デザイン、設計、製図というファッションデザインの一連のプロセスをふまえた上で、設計、製作に関わる技法の習得を目的とする。具体的には、平面製図と立体裁断、デザイン展開、型紙作製、裁断・印しつけ、縫製、補正、仕上げなどの技法について学ぶ。ファッションデザイン実習Ⅰでは、衣服製作に必要な用具の名称や使用方法、素材の扱い方、アイロンやミシンの使い方などの基礎知識を学び、平面製図法で各自の体型に合わせたセミタイトスカートとオリジナルスカート、ブラウスを製作し、衣服製作における基本的な縫製技法を習得する。						
到達目標	1. 認知的領域:知識・理解 ①衣服製作に必要な用具の名称を理解し、それらを正しく使うことができる。 ②アイロンを用いて布の地直しができ、ミシンやロックミシンを使いこなすことができる。 ③衣服製作における一連の工程を理解し、セミタイトスカートとブラウスを説明通りに設計、製作できる。						
授業計画	1. オリエンテーション、人体計測：授業内容、用具の使い方、部分縫いについて説明。必要な項目について採寸し、各自の採寸表を作成。 2. セミタイトスカート「製図」：平面製図法で前スカートを作図。 3. セミタイトスカート「裁断・印付け」：トワルを裁断し、印をつける 4. セミタイトスカート「縫製①」：ダーツ、脇の縫製。 5. セミタイトスカート「縫製②」：コンシールファスナーつけ。 6. セミタイトスカート「縫製③」：ベルトつけ。裾上げ。 7. オリジナルスカート「デザイン」：テーマ設定。資料収集。デザイン。 8. オリジナルスカート「製図①」：前スカート製図。 9. オリジナルスカート「製図②」：後ろスカート製図。 10. オリジナルスカート「裁断・印付け」：本布裁断、印つけ。 11. オリジナルスカート「縫製①」：ダーツ、脇線縫製 12. オリジナルスカート「縫製②」：ファスナー、ウエストの縫製 13. オリジナルスカート「縫製③」：裾上げ、仕上げ。 14. ブラウス「製図・裁断・印しつけ」：原型からのブラウス製図。トワルの裁断、印つけ。 15. ブラウス「縫製」：ブラウスの縫製。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：次の授業までに課題を仕上げること。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品提出（スカート70%・ブラウス30%）						
履修上の注意	1. 実習のため、原則、欠席・遅刻を認めない(やむをえない場合は、10回以上の出席とする)。 2. 材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。 3. 卒業研究で衣服製作を希望する学生は、履修することが望ましい。 オフィスアワー：本館6階 火曜10:40~12:10						

教科書	
参考書	文化出版局、「誌上・パターン塾 vol.2スカート編」ISBN978-4-579-07345-0

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン実習IIA/ハウジングデザイン実習IIA						
担当教員	長瀬 りか					科目ナンバー	F7247A
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	住空間のインテリア計画とその表現 —ライフスタイルや美意識に応じたインテリアデザインを考える—						
授業の概要	インテリアCAD実習Iで学んだCADによる作図表現を発展させ、3次元の図面表現を習得する。まず柱状体や回転体など、3Dの作図法の基本を学ぶ。次に簡単な家具などのモデリングを行い、シンボル図形等も利用しながら、練習課題としてマンション住戸のリノベーションに取り組む。次にテクスチャやライティングなど、質感や光の表現手法を習得し、よりリアルで詳細なレベルでの、インテリアの空間表現力を養う。またインテリアデザイン実習IIで制作する課題の図面表現にも応用する。 キーワード：インテリアデザイン、コーディネイト、3D-CAD						
到達目標	インテリアデザインの基本となる計画手法、表現手法およびCADの3Dによるインテリア表現を習得することができる。						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、住宅のインテリアデザインの考え方と表現（全般の解説） 第1課題 「マンション住戸のリノベーション」課題説明、参考事例の紹介。 家族像・生活像設定、住戸平面図に家具シンボルを配置（CAD/2D）。</p> <p>第2回 第1課題 参考事例の紹介、解説。CAD/3D基本操作解説と演習。</p> <p>第3回 第1課題 レイアウト調整、平面図作成。3Dスケルトンモデルに家具シンボル、壁など3Dインテリアエレメントを配置。</p> <p>第4回 第1課題 簡易な3Dシンボルの作成、3Dモデルの着色（カラーコーディネイト）、3Dパースの作成。</p> <p>第5回 第1課題 3Dモデルから展開図の作成。</p> <p>第6回 第1課題 インテリアエレメントの仕上げ選択。画像取り込み、キャプションの作成。</p> <p>第7回 第1課題 プレゼンテーションボード（平面図、展開図、パース、画像、説明文等）のレイアウト、まとめ</p> <p>第8回 第2課題 「店舗併用住宅のインテリアコーディネイト」課題説明。 平面図から主要室の3Dスケルトンモデル作成、開口部の表現。</p> <p>第9回 第2課題 インテリアエレメントの選択、3Dシンボルの作成と配置。</p> <p>第10回 第2課題 仕上げ材の選択、レンダリングによるテクスチャとライティングの表現</p> <p>第11回 第2課題 3Dパースの作成、数面の取り出し</p> <p>第12回 第2課題 テクスチャ、ライティング等調整、添景の作成</p> <p>第13回 第2課題 プレゼンテーションボード（平面図、展開図、パース、画像、説明文等）のレイアウト、まとめ</p> <p>第14回 第2課題 発表と講評。手直し・追加事項のチェックおよび図面追加・修正、提出。</p> <p>第15回 第2課題 他クラスと合同の発表講評会</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	専門誌やインターネットの検索等、資料収集を各自行なうこと。 家具、建材のショールームなど、課題に関連する見学を各自積極的に行なうこと。						
授業方法	実習（CADも使用）＋ミニ講義						
評価基準と評価方法	平常点30%、第1課題の成績30%、第2課題の成績40%とする。						

履修上の注意	課題に関連する見学を指示する場合がある。 受講希望者は「デザイン実習ⅠA」と「デザイン実習ⅠB」を履修していることが望ましい。
教科書	図解 インテリア設計の実際 第1版 著者：小宮 容一 出版社：株式会社オーム社 ISBN：4-274-10095-2  その他、プリントを配布。
参考書	インテリアデザイン・コース—インテリアデザインの基本から実践まで 著者：トムリス タンガズ 出版社：グラフィック社 ISBN-10：4766117557  コンパクト建築設計資料集成「住居」 (日本建築学会編、丸善第2版)  その他、授業中に紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン実習IIB/ハウジングデザイン実習IIB						
担当教員	荒谷 省午					科目ナンバー	F7247B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	住まいのプレゼンテーションとそのプレゼンテーションを学ぶ						
授業の概要	併用住宅を課題とする(300㎡程度のボリュームとする) 具体的な計画地を見学し、場所を設定したのちにコンセプト計画・プランニングを行い図面表現(平面・立面・断面)またはパースや模型などを作成してA1サイズ2枚程度にまとめて完成させる。						
到達目標	コンセプト計画やプランニングの力をつけることができる。 パース・模型作成などのプレゼンテーション能力や相手にわかりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につけることができる。						
授業計画	第01回 オリエンテーション (課題説明とすすめ方) 第02回 現場見学会 (敷地の見方、読み方、計画地の選定) 第03回 プランニング (エスキースチェック) 第04回 プランニング 第05回 プランニング 第06回 プランニング 第07回 課題作成 (図面作成・模型作成) 第08回 課題作成 第09回 課題作成 第10回 課題作成 第11回 課題作成 第12回 プレゼンテーション (最終チェック・パネル作成) 第13回 プレゼンテーション 第14回 プレゼンテーション 第15回 発表 (提出)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	課題作成の為に各自で専門誌やインターネット検索など、調査や資料収集を行うこと。 家具、建材のショールームなど、課題に関連する見学を各自積極的に行うこと。						
授業方法	PPT(パワーポイント)でプロジェクターを使用した講義および実習(CAD使用)						
評価基準と評価方法	出席回数と作品の完成度との総合評価とする。 作品提出期限も厳守すること(減点対象) 総合点が59点以下の場合には単位を取得できない。						
履修上の注意	遅刻は2回を1回の欠席とし、1時間以上の遅刻は欠席とする。出席が9回以下の者は原則として単位は認めない。 欠席した場合は次回までに遅れを取り戻し、実習に支障のないようにすること。 見学1回あり(KHギャラリー他、敷地、芦屋方面)。 見学に要する交通費、入館料は自己負担とする。 受講希望者は「デザイン実習IA」と「デザイン実習IB」を履修していることが望ましい。						
教科書	授業中に資料配布						
参考書	授業中に紹介						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン実習IIF／ファッションデザイン実習II						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバー	F72240
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4～5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服構成の理解、製作技法の習得						
授業の概要	ファッションデザイン実習IIでは、平面製図を用いたワンピースの製図法と縫製方法について学ぶ。パターンメイキングの基礎とデザインに応じたパターンの展開法を学び、ファッションデザイン実習IIIで学ぶ内容に繋げる。設定されたテーマに応じ、各自でデザインをおこない、オリジナルデザインのワンピースの制作をおこなう。						
到達目標	1. 認知的領域:知識・理解 ①デザインに応じたワンピースの平面製図法で設計できる。 ②ワンピースのデザイン、設計、型紙作成、裁断、縫製、仕上げの一連の工程を理解し、自分の体型に合ったワンピースを製作できる。 ③作成したワンピースのコンセプト、デザインについて、写真、文章を用いて説明できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、ワンピースのデザイン解説、テーマ設定</li> <li>2. 「デザイン①」：資料集め。ワンピースのデザイン。</li> <li>3. 「デザイン②」：ワンピースのデザイン決定。</li> <li>4. 「製図①」：前後身頃の製図。</li> <li>5. 「製図②」：袖、衿の製図。</li> <li>6. 「製図③」：見返し等、製図仕上げ。</li> <li>7. 「トワル①」：トワルの裁断、印つけ。</li> <li>8. 「トワル②」：トワル縫製。</li> <li>9. 「トワル③」：トワル縫製仕上げ。試着。</li> <li>10. 「裁断、印つけ」：本布の裁断、印つけ。</li> <li>11. 「縫製①」：本布、前後身頃縫製。</li> <li>12. 「縫製②」：本布、裏地前後身頃縫製。</li> <li>13. 「縫製③」：本布、ファスナー、袖縫製。</li> <li>14. 「縫製④」：本布、衿縫製。裾上げ。仕上げ。</li> <li>15. 発表、まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：次の授業までに課題を仕上げること。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品提出（ワンピース）100%						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習のため、原則、欠席・遅刻を認めない(やむをえない場合は、10回以上の出席とする)。</li> <li>2. 材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。</li> <li>3. 卒業研究で衣服製作を希望する学生は、履修することが望ましい。</li> <li>4. 受講希望者は「デザイン実習IIF」を履修していることが望ましい。</li> </ol> ・オフィスアワー：本館6階 水曜10:40～12:10						
教科書	○ファッションデザイン実習II 文化出版局、「誌上・パターン塾 vol.1トップ編」ISBN978-4-579-07342-9						

参考書	佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.2 ブラウス&ワンピース編』 文化出版局 2006年
-----	---

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習A						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバー	F0306A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	コンセプト・文献調査に基づいた衣服造デザインの習得						
授業の概要	ファッション分野の基礎科目、ファッションデザイン実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで習得した知識やスキルを総合し、文化、社会、流行、生活、身体などあらゆる側面からファッションについて分析考察し、それらを衣服造形として表現する。 デザイン特別演習Aでは、各自でテーマを設定し、そのテーマについての資料、文献を主とした調査方法や考察の仕方を学び、自分の考えを論として展開していく。そして調査結果を基に衣服デザインを考案し、プレゼンテーションをおこなう。						
到達目標	1. 認知的領域：知識・理解 ①テーマにそった文献・ビジュアル資料を収集できる。 ②文献・ビジュアル資料を読み解き、その内容をパワーポイントで発表できる。 2. 認知的領域：思考・判断 ①文献・ビジュアル資料調査の結果を基に、情報の本質を見極め、衣装デザインにつながる自らの考えを述べる事ができる。 ②イメージボード、スタイルマップを作成し、イメージをデザイン画で表現することができる。 3. 情意的領域：関心・意欲 ①図書館、美術館、講演会、インタビュー、ファッションショー等に積極的に出向き、情報を集めることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション：文献収集法の説明、テーマ設定 2. テーマ設定①：テーマの設定とキーワードの抽出 3. テーマ設定②：文献収集 4. テーマ設定③：文献の読解と情報の収集 5. テーマ設定④：「研究目的」をまとめる 6. テーマ設定⑤：「研究方法」を決める 7. 発表①：発表準備 8. 発表②：研究目的・研究方法、テーマ内容について発表する 9. 製作①：デザイン構想1 10. 製作②：デザイン構想2 11. 製作③：デザイン画作成法と実践 12. 製作④：デザイン画作成 13. 製作⑤：デザイン画決定 14. 発表②：発表原稿とパワーポイント作成 15. 発表③：発表・講評会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。						
授業方法	演習形式（個人指導を含む）						
評価基準と評価方法	課題発表（50%）、課題提出（50%）で評価する。						
履修上の注意	1. 2/3以上の出席がないと受講資格を失う。 2. 卒業研究で衣服製作を希望する学生は、必ず履修すること。 3. 材料費（布、副資材、ファイル、ボード等）、調査や資料収集にかかる費用は自己負担とする。 ・オフィスアワー：本館6階 火曜10:40～12:10						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習A						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F0306A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「着る・装う」という行為を様々な方法から学び、プレゼンテーションを演習する。						
授業の概要	2年次までに学んだ生活文化概論、ライフスタイル論、ボディーファッション論、カラーデザイン論等の広範囲な知識を基礎に、時代、社会、地域等の背景を踏まえながら、「着る・装う」という行為に対する人間の心の動きまでを読み解ける力を養う。 「着る・装う」ことは、ヒトとモノの複合的な関係性から成り立ち、どのような側面を扱うかによって文化的にも科学的にもアプローチが可能になる。そのため複数ある実験や調査方法、官能検査、統計解析、資料・文献収集、図像学的分析等の方法から目的にあった手法を選択できるよう演習を通じて学ぶ。						
到達目標	1) 研究テーマを決めることができる。 2) 文献を収集し、説明することができる。 3) インタビューの内容をまとめることができる。 4) 研究内容を説明することができる。 5) 研究論文をまとめることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 研究テーマの決め方①：「着る・装う」をキーワードにして、疑問に思うことを抽出する。 3. 研究テーマの決め方②：疑問に思ったことを図式化して、テーマを決定 4. 研究の進め方①：図書館の利用の仕方と文献収集 5. 研究の進め方②：文献収集のまとめと発表 6. 研究の進め方③：論文の書き方の説明、練習 7. 研究の進め方④：発表、添削 8. 研究方法①：実験方法と文献調査の違いを説明する 9. 研究方法②：テーマに沿って研究方法を実施する 10. 研究方法③：研究を発表 11. 研究方法③：インタビューの練習 12. 研究方法④：インタビュー調査の発表 13. まとめ①：論文のロジックを作る 14. まとめ②：論文をまとめる 15. まとめ③：論文を発表する						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間90分） 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中内にできなかった課題は完成させる。（学習時間90分）						
授業方法	①プリントを配布する。そのプリントに添って演習する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ②研究した内容を発表し、グループ討議への参加を求める。 ③研究内容によっては、個人指導する。						
評価基準と評価方法	発表70%：研究した内容を発表する。到達目標（1）～（5）に関する到達度の確認。 提出物30%：レポートは、研究内容を論文形式でまとめているかどうかを評価する。到達目標（1）～（5）に関する到達度の確認。 レポートは、添削して返却する。その時に個人指導する。卒業論文に繋げる。						
履修上の注意	①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②指定する課題を締切までに必ず提出する。						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習A						
担当教員	中林 浩					科目ナンバ-	F0306A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>都市計画・まちづくり・地域計画に関するゼミです。都市計画の歴史や都市のあり方の新しい理論を学習しつつ、具体的な地域の調査を行います。オリジナリティのある研究・制作ができるような準備をすることがいちばん重要なことです。文献購読、話しあい、調査、調査のまとめをします。自分の設定したテーマをどうプレゼンテーションするのも重視します。</p> <p>各ゼミ員がレジュメを用意し、それを題材に討議するのが基本とします。各ゼミ員のテーマにかかわる見学、あるいは共通するイベントなどによっては学外に出ることもあります。木曜日の午後を基本とするが、流動的な日程を組むことがあります。次のようなことも考えてみよう。「昼・夜は気分がそれなりに高揚しているのに、あすからがんばろうと思うけれど、つぎの朝になるとその気分がしぼんでいる。その朝に奮起できるかどうか。大きな課題は分けて、小さい課題はまとめていっしょにこなす。いやな課題は好きにするか、どうしてもいやなら捨てる」。</p>						
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。						
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に応えることができる。						
授業計画	<p>ゼミの「計画」を述べますが、ゼミの性格からして、ゼミ員の討論によって変わりますし、ある意味ではゼミは成り行きに任せるのも重要なことです。学問において「成り行き」は美しいこともあります。一回一回の計画を具体的に書くなどというのは、けっして美しくないもので、以下のようにシンプルにします。</p> <p>1 ゼミ1回め 2 ゼミ2回め 3 ゼミ3回め 4 ゼミ4回め 5 ゼミ5回め 6 ゼミ6回め 7 ゼミ7回め 8 ゼミ8回め 9 ゼミ9回め 10 ゼミ10回め 11 ゼミ11回め 12 ゼミ12回め 13 ゼミ13回め 14 ゼミ14回め 15 ゼミ15回め</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。						
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの演習です。						
評価基準と評価方法	ほとんどを提出物で採点します。参加の積極性を加味することがあります。「ほとんど」というのは9割程度ということです。						
履修上の注意	<p>学外に出ることもあります。調査は土曜日や日曜日に振り替えられることも多い。</p> <p>履修ガイドにあるEメールで連絡いただくのが望ましいのですが、facebook や LINE でもかまいません。オフィスアワーは金曜日12:10-13:10に641で。金曜日は午前中3年生のゼミ、午後4年生のゼミなのでその間、またその前後も641あたりにいることが多い。</p>						
教科書	新書を2冊ほど選定します（講義が始まってから）。						

参考書	授業中にたくさん紹介します。
-----	----------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習A						
担当教員	中村 茂					科目ナンバー	F0306A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究に向けたテーマ設定とエディトリアル（編集）・デザインへの入門						
授業の概要	3年次までのデザイン基礎科目やイメージリテラシー科目の学習を基盤に、例えばブランドから消費者への情報発信、ファッションリーダーの影響など、ファッション領域を中心とするコミュニケーションの現状に注目する。カタログ、HPなどのメディアを活用したファッションのコミュニケーションへの関心を高め、またそれらの情報の編集プロセス・取材・内容構成の方法について理解する。						
到達目標	各自のテーマの確立とエディトリアル・デザイン・プロセスと手法に関する基礎的理解とスキルを習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. テーマ設定（1）従来の履修内容・関心事項、将来の進路などの検討</li> <li>3. テーマ設定（2）キーワードの整理と抽出</li> <li>4. テーマ設定（3）研究目的・対象・方法・成果物の検討</li> <li>5. 調査資料の収集・検索方法、調査計画・スケジュール</li> <li>6. 資料収集（1）文献の種類・引用・出典情報</li> <li>7. 資料収集（2）画像情報・解像度・整理保存方法</li> <li>8. 資料収集（3）一覧リスト・アーカイブの設定</li> <li>9. 編集方法（1）収集資料の要約・整理</li> <li>10. 編集方法（2）ストーリー構成・項目・目次の検討</li> <li>11. 編集方法（3）パンフレット・レイアウト</li> <li>12. 写真撮影方法</li> <li>13. ポスター・パネルデザイン</li> <li>14. パワーポイント制作</li> <li>15. プレゼンテーションと講評</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各自のテーマを踏まえて関連資料の収集や取材を自主的に進めること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点（授業への積極的な参加、欠席の場合は減点）20%、プレゼン20%、レポート・成果物60%						
履修上の注意	このデザイン特別演習は卒業研究へ直接つながる重要な演習であることを自覚して、積極的な発言や自律的な演習への参加が望まれます。またグループによる課題を実施する場合は協調性や責任感の有無を重視します。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習A						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバ-	F0306A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究につながる基礎研究と制作						
授業の概要	<p>ポートフォリオやプロジェクト課題（学外のコンペやイベントなどに参加）の制作により、デザイン力、表現力を高めながら、住空間のデザインについてのこれまでの学びを振り返り、各自興味のあるテーマについて、学びを深める。</p> <p>近現代の建築家やデザイナーの作品を社会的、文化・芸術的視点から読み解き、また身近な地域に着目しながら問題意識を深めていく。</p> <p>関連する作品集や著書等を読み、また可能な限り見学して、思想や手法を学び、パワーポイントにまとめる。発表、ディスカッションを積み重ね、後期のデザイン特別演習Bにつなげていく。</p> <p>キーワード：住空間、問題意識、デザイン表現</p>						
到達目標	<p>ポートフォリオ制作、プロジェクト課題の制作等を通して、デザイン力、表現力を高め、より適切な図面表現ができるようになる。</p> <p>各自興味のあるテーマについて、理解や問題意識を深め、卒業研究/制作のテーマについて方向性を考えることができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、第1課題 ポートフォリオの作り方解説</p> <p>第2回 第1課題 ポートフォリオ制作 これまでの作品の見直し</p> <p>第3回 第1課題 ポートフォリオ制作 作品の手直し</p> <p>第4回 第1課題 ポートフォリオ制作 ページ構成、レイアウト</p> <p>第5回 第1課題 ポートフォリオの仕上げ、提出 チェック、追加修正の指示</p> <p>第6回 第2課題 デザイナー/テーマ研究 課題説明</p> <p>第7回 第2課題 参考資料検索、まとめ</p> <p>第8回 第2課題 中間発表とディスカッション、第3課題（小課題）について説明</p> <p>第9回 第3課題 課題設定</p> <p>第10回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第11回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第12回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第13回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第14回 各課題のまとめ、発表講評、追加修正の指示</p> <p>第15回 各課題の修正後、提出</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>興味のあるテーマについて、各自で文献検索、資料収集につとめ、学習を深めること。</p> <p>テーマ関連の建築や展覧会等の見学を積極的に行うのが望ましい。</p>						
授業方法	演習および実習（CADも使用）						
評価基準と評価方法	<p>平常の小課題と最終課題作品の成績に出席状況・受講態度等の平常点を加味し、総合的に評価する。</p> <p>（評価比率：第1課題20%、第2課題20%、第3課題30%、平常点30%）</p>						
履修上の注意	<p>履修者は、2年次に「ハウジングデザイン実習IA, 1B」を履修済の人に限る。</p> <p>「ハウジングデザイン実習IIA, IIB」および3年前期の「ハウジングデザイン実習IIIA, IIIB」もあわせて履修することがのぞましい。</p> <p>課題および各自のテーマに関する見学を適宜指示する。（交通費自己負担）</p>						

教科書	プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習B/デザイン特別演習						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバ-	F0306B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	コンセプト・文献調査に基づいた衣服造形法の習得						
授業の概要	ファッション分野の基礎科目、ファッションデザイン実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで習得した知識やスキルを総合し、文化、社会、流行、生活、身体などあらゆる側面からファッションについて分析考察し、それらを衣服造形として表現する。 デザイン特別演習Bでは、デザイン特別演習Aで考案したデザインを基に、平面製図法や立体的断法によるパターン作成をおこない、デザインを衣服として立体化していく。またテーマに対する調査も継続しておこない、ポートフォリオへと順次まとめていき、卒業研究のための基盤づくりをおこなう。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知的領域：知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>①デザイン画を基に、衣装の設計ができる。</li> <li>②デザインに適した衣装製作の資材を選択できる。</li> </ol> </li> <li>2. 認知的領域：思考・判断 文献・ビジュアル資料調査の結果を、立体としての衣服に効果的に反映できる。</li> <li>3. 情意的領域：関心・意欲 <ol style="list-style-type: none"> <li>①図書館、美術館、講演会、インタビュー、ファッションショー等に積極的に出向き、情報を集めることができる。</li> </ol> </li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：テーマ調査の進捗状況確認</li> <li>2. 製作①：ポートフォリオ作成法</li> <li>3. 製作②：ポートフォリオ作成</li> <li>4. 製作③：パターン理論の説明とパターン作成の検討</li> <li>5. 製作④：パターン作成1</li> <li>6. 製作⑤：パターン作成2</li> <li>7. 製作⑥：パターン作成3</li> <li>8. 製作⑦：トワルによる試作1</li> <li>9. 製作⑧：トワルによる試作2</li> <li>10. 製作⑨：トワルによる試作3</li> <li>11. 製作⑩：トワルによる試作4</li> <li>12. 製作⑪：素材等、必要資材の検討</li> <li>13. 発表①：発表原稿とパワーポイント作成1</li> <li>14. 発表②：発表原稿とパワーポイント作成2</li> <li>15. 発表③：発表・講演会</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。						
授業方法	演習形式（個人指導を含む）						
評価基準と評価方法	課題発表（30%）、課題提出（70%）で評価する。						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2/3以上の出席がないと受講資格を失う。</li> <li>2. 卒業研究で衣服製作を希望する学生は、必ず履修すること。</li> <li>3. 材料費（布、副資材、ファイル、ボード等）、調査や資料収集にかかる費用は自己負担とする。 ・オフィスアワー：本館6階 水曜10:40～12:10</li> </ol>						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習B/デザイン特別演習						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F0306B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究の先行研究をまとめる。						
授業の概要	3年前期までに学んだ知識を基礎に、研究テーマを考え、論文の読み解く力を養う。文化的なアプローチとしては、生活文化領域を中心に生活に身近なモノのデザインをテーマに、人間の精神的あるいは知的行為がどのように介在しているかを資料・文献収集、図像学的分析によって明らかにする。また、科学的なアプローチとしては、感性デザイン領域を中心に色や形をテーマとして、それらに対する心の動きを官能検査や統計解析によって科学的に解明する。さらに、学んだ知識をもとに、これらの卒業研究から、ヒトの心がどのようにモノのデザインに作用しているかを理解する。						
到達目標	1) 研究テーマを決めることができる。 2) 先行研究を説明することができる。 3) 研究方法を列挙することができる。 4) 研究テーマに基づき目次を作ることができる。 5) 研究内容を発表することができる。						
授業計画	1. オリエンテーション(課題テーマ、方針・進め方の説明) 2. テーマと研究方法の説明 3. 各自の先行研究について発表Ⅰ 4. 各自の先行研究について発表Ⅱ 5. 各自の先行研究について発表Ⅲ 6. 各自の研究方法について指導Ⅰ 7. 各自の研究方法について指導Ⅱ 8. 各自の研究方法について指導Ⅲ 9. 各自の研究方法について指導Ⅳ 10. 各自の発表について指導Ⅰ 11. 各自の発表について指導Ⅱ 12. 各自の発表について指導Ⅲ 13. 各自の発表について指導Ⅳ 14. 発表のプレゼンテーションⅠ 15. 発表のプレゼンテーションⅡ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 授業内で説明する。(学習時間90分) 授業後学習: 学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。(学習時間90分)						
授業方法	①プリントを配布する。そのプリントに添って演習する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ②研究した内容を発表し、グループ討議への参加を求める。 ③研究内容によっては、個人指導する。						
評価基準と評価方法	発表70%: 研究した内容を発表する。到達目標(1)~(5)に関する到達度の確認。 提出物30%: レポートは、研究内容を論文形式でまとめているかどうかを評価する。到達目標(1)~(5)に関する到達度の確認。 レポートは、添削して返却する。その時に個人指導する。卒業論文に繋げる。						
履修上の注意	①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②指定する課題を締切までに必ず提出する。						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習B/デザイン特別演習						
担当教員	中林 浩					科目ナンバ-	F0306B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>4年生での卒業研究へと続く都市計画・まちづくり・地域計画に関するゼミです。都市計画の歴史や都市のあり方の新しい理論を学習しつつ、具体的な地域の調査を行います。オリジナリティのある研究・制作ができるような準備をすることがいちばん重要なことです。文献購読、話しあい、調査、調査のまとめをします。「3年生論文」というようなかたちで、卒業論文にむけたものを作成します。パワーポイントで20枚でいどとします。</p> <p>各ゼミ員がレジュメを用意し、それを題材に討議するのを基本とします。各ゼミ員のテーマにかかわる見学、あるいは共通するイベントなどによっては学外に出ることもあります。木曜日の午後を基本とするが、流動的な日程を組むことがあります。次のようなことも考えてみよう。「昼・夜は気分がそれなりに高揚しているので、あすからがんばろうと思うけれど、つぎの朝になるとその気分がしぼんでいる。その朝に奮起できるかどうか。大きな課題は分けて、小さい課題はまとめていっきにこなす。いやな課題は好きにするか、どうしてもいやなら捨てる」。</p>						
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。						
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか3歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に応えることができる。						
授業計画	<p>ゼミの「計画」を述べますが、ゼミの性格からして、ゼミ員の討論によって変わりますし、ある意味ではゼミは成り行きに任せるのも重要なことです。学問において「成り行き」は美しいこともあります。一回一回の計画を具体的に書くなどというのは、けっして美しくないもので、以下のようにシンプルにします。</p> <p>1 ゼミ1回め 2 ゼミ2回め 3 ゼミ3回め 4 ゼミ4回め 5 ゼミ5回め 6 ゼミ6回め 7 ゼミ7回め 8 ゼミ8回め 9 ゼミ9回め 10 ゼミ10回め 11 ゼミ11回め 12 ゼミ12回め 13 ゼミ13回め 14 ゼミ14回め 15 ゼミ15回め</p> <p>「ゼミ」以外のものが2つ隠れています。なにとなににしよう。このゼミでは言葉の遊びも大歓迎。 ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。						
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの演習です。						
評価基準と評価方法	かなりの部分を提出物で採点し、授業への参加の積極性を加味することもあります。かなりの部分というのは6割から8割でいどといったような意味です。「参加の積極性」とは議論をいっしょうけんめいやるかどうかです。あるいはテーマをほんとうに興味をもって設定しているかどうかということです。						

履修上の注意	学外に出ることもあります。調査は土曜日や日曜日に振り替えられることも多い。 履修ガイドにあるEメールで連絡いただくのが望ましいのですが、facebook や LINE でもかまいません。オフィスアワーは金曜日12:10-13:10に641で。金曜日は午前中3年生のゼミ、午後4年生のゼミなのでその間、またその前後も641あたりにいることが多い。
教科書	新書を2冊ほど選定します（講義が始まってから）。
参考書	授業中にたくさん紹介します。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習B/デザイン特別演習						
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	F0306B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション現象への関心とコミュニケーション・デザイン						
授業の概要	デザイン特別演習Aのテーマ設定とエディトリアル・デザインの理解を踏まえて、テーマに関する理解を深め、新たな視点からその分析や考察を試み、その結果を分かり易い視覚表現に編集することでパンフレットなどのメディアデザインを通じたコミュニケーションの実現を目標とする。他方で創造的かつ魅力的なイメージ表現手法やメディア・ソフト・機器操作技法の習得も試みる。さらに卒業研究の前段階として各自の問題意識の深化とテーマを具体化したパンフレット・ブックレットデザインを試みる。						
到達目標	各自のテーマの確立と卒業研究制作の予備的作品制作。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. テーマ説明 (1) 質疑応答</li> <li>3. テーマ説明 (2) 質疑応答</li> <li>4. テーマ説明 (3) 質疑応答</li> <li>5. 資料収集の成果・選択</li> <li>6. 冊子形式の設定：判型・ページ数</li> <li>7. レイアウト・デザインの検討</li> <li>8. 印刷・製本方法の検討</li> <li>9. グラフィックソフトの機能</li> <li>10. プリンターの使用法</li> <li>12. 従来卒研作品の調査</li> <li>13. 提出物制作 (1)</li> <li>14. 提出物制作 (2)</li> <li>15. プレゼンテーションと講評</li> </ol>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	各自のテーマを踏まえて関連資料の収集や取材を自主的に進めること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点 (授業への積極的な参加、欠席の場合は減点) 20%、プレゼン20%、レポート・成果物60%						
履修上の注意	このデザイン特別演習は卒業研究へ直接つながる重要な演習であることを自覚して、積極的な発言や自律的な演習への参加が望まれます。またグループによる課題を実施する場合は協調性や責任感の有無を重視します。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習B/デザイン特別演習						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバ-	F0306B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究/制作につながる基礎研究とテーマ設定						
授業の概要	<p>デザイン特別演習Aに引き続き、住空間のデザインについてのこれまでの学びを振り返り、各自興味のあるテーマについて、学びを深める。          近現代の建築家やデザイナーの作品を社会的、文化・芸術的視点から読み解き、またコンペや学外イベントなど様々なプロジェクトに参加したり、身近な地域に着目しながら問題意識を深めていく。          関連する作品集や著書等を読み、また可能な限り見学して、思想や手法を学び、パワーポイントにまとめる。          またポートフォリオや小課題の制作により、表現力を高める。          発表、デモスカッションを積み重ね、最終的に住空間デザインへの問題提起につなげ、卒業研究/制作のテーマ設定を行なっていく。          キーワード：住空間、問題意識、テーマ設定</p>						
到達目標	各自興味のあるテーマについて、理解や問題意識を深め、卒業研究/制作のテーマを設定することができる。 ポートフォリオ制作、パワーポイントによるプレゼンテーション等を通して、表現力を高め、より適切な図面表現ができるようになる。						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、卒業制作のテーマ設定について、ポートフォリオの作り方          第2回 第1課題 ポートフォリオの追加、再構成          第3回 第2課題 デザイナー/テーマ研究 課題説明          第4回 第2課題 参考資料検索、質疑応答          第5回 第1課題 ポートフォリオ(再構成)の提出、チェック、追加修正の指示          第6回 第2課題 参考作品資料の作成          第7回 第2課題 中間発表と討論、第3課題(小課題)について説明          第8回 第1課題 ポートフォリオ(再構成)の仕上げ、提出          第9回 第3課題 小課題の制作          第10回 卒業制作のテーマ設定 中間発表と討論          第11回 第3課題 小課題の制作、卒業制作のテーマについて 個別相談          第12回 第3課題 小課題の制作、卒業制作のテーマについて 個別相談          第13回 卒業制作のテーマについて 発表用パワーポイントの制作          第14回 パワーポイントによる発表(ゼミ内)、講評          第15回 パワーポイントの追加、修正</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	興味のあるテーマについて、各自で文献検索、資料収集につとめ、学習を深めること。 テーマ関連の建築や展覧会等の見学を積極的に行うのが望ましい。						
授業方法	演習および実習(CADも使用)						
評価基準と評価方法	平常の小課題と最終課題作品の成績に出席状況・受講態度等の平常点を加味し、総合的に評価する。 (評価比率：第1課題20%、第2課題30%、第3課題20%、平常点30%)						
履修上の注意	課題および各自のテーマに関する見学を適宜指示する。(交通費自己負担)						

教科書	プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザインリサーチ演習						
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	F32100
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションブランドのコミュニケーション・デザインについて						
授業の概要	ファッション企業は様々なメディアを通じて情報を発信し、消費者に対してブランドイメージを伝えようと努力している。この授業では従来の紙媒体であるファッション雑誌、それに変わろうとする勢いのネットメディア、そして実店舗のVMD（ビジュアルマーチャンダイジング）の3つの側面から、ファッションにおけるコミュニケーション・デザインの実態をリサーチする。						
到達目標	1) ファッション雑誌の現状とブランド広告の位置付けに関して分析できる。 2) ネットメディアで進行しているブランドの情報発信の変化に関心を持てる。 3) 店舗空間のメディア性をVMDの観点から理解できる。						
授業計画	1) 09/27 オリエンテーションーファッション雑誌、ネット環境、実店舗ー 2) 10/04 ファッション雑誌の現状 3) 10/11 " イメージと特徴 4) 10/18 " ブランド広告 5) 10/25 " タイアップ特集 6) 11/01 ネット環境とファッション 7) 11/08 ブランドとECサイト 8) 11/15 " SNS 9) 11/22 " インスタグラム、Wear 10) 11/29 " の実店舗とネット環境 11) 12/06 VMDとは 12) 12/13 " の構成・仕組み 13) 12/20 " とブランドの特徴 14) 01/10 " 業態による差異 15) 01/17 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常的に体験している雑誌、ネット、店舗などでの体験について改めて客観的に観察する努力が求められる。必要に応じて学外において店舗のリサーチなどを授業前に行う（詳細は授業時に指示）（60分程度）。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点（40%）：授業への積極的な参加とレポートの内容で評価する。 期末テスト（60%）：演習で学習した内容に対する理解度について評価する。						
履修上の注意	演習形式の授業であり、積極的な発言や議論への参加が必須となる。 また、人数に応じてグループ作業も取り入れる予定。役割を自覚して協調的にチームワークを発揮して欲しい。 店舗へのリサーチはクラス全体では実施できないので、授業外で個人またはグループで行う。その際の交通費は各自の負担となる。						
教科書	特に無し。						
参考書	授業内で指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン論Ⅰ/ハウジングデザイン論Ⅰ						
担当教員	蔵田 優美					科目ナンバ-	F72440
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	住宅は、それぞれの時代と深く結びつきながら変化してきました。また、住宅は単に雨露をしのぐような生命を維持するというレベルから、個人の生活スタイルや住み手の個性の表出といった文化的なレベルにまで広がりをもっているといえます。このような住宅の中で、「集合住宅」は人が集まって住む住宅として都市の中で大きな部分を占めています。本授業では、多様な集合住宅の現代的な意味を解きほぐすことをテーマとして、学生の皆さんの集合住宅理解の導入部と位置づけ、解説していきます。						
授業の概要	授業は可能な限りパワーポイントを使用して進めます。住宅は学生の皆さんにとって一番身近な建築空間であり、最もイメージしやすい建築です。さまざまなライフステージ（人生の段階）に応じて住みたい、憧れる集合住宅を考えるため、演習などにより自ら集合住宅のデザインを行います。						
到達目標	集合住宅がどのような要素で成り立っているのかを理解する。 集合住宅の役割や機能について学ぶ。 様々な集合住宅の作品事例を知っている。 様々な集合住宅の形成パターンを知っている。						
授業計画	<p>第1回：ガイダンス (講義内容と授業の進め方)</p> <p>第2回：まちづくりと建築 (まちづくりにおける建築の果たす役割や建築家・コンサルタントの役割について考えます。また、住宅をはじめとして建築デザインやまちづくりに市民が参加する手法について事例を紹介します。)</p> <p>第3回：集合住宅を巡る定義について (集合住宅の分類や、集合住宅が生まれた歴史的背景、海外と日本における集合住宅の意味など、集合住宅の定義について解説します。住宅のプラン(平面)がどんな要素で成り立ち、住宅のデザインとどんな関わりをもっているか考えます。)</p> <p>第4回：集合住宅のプロトタイプ1 (集合住宅を構成する要素を具体的に解説します。テーマは「住棟・住戸の型」)</p> <p>第5回：集合住宅のプロトタイプ2 (テーマは「集合住宅のディテール」)</p> <p>第6回：集合住宅の事例1 (集合住宅の要素をもちあわせたプリミティブな集合住宅例を紹介します。)</p> <p>第7回：集合住宅の事例2 (講師が実際に設計した集合受託をとりあげ、そのコンセプトや設計内容を解説します。)</p> <p>第8回：演習1 (トピックなテーマをとりあげ、レポートを作成します。)</p> <p>第9回：多様な住宅と住宅の価値意識 (戸建住宅と集合住宅の価値の違いとライフステージにおける住宅の選択について考えます。)</p> <p>第10回：少子化と高齢化 (住まいを規定する少子化と高齢化について考えます。)</p> <p>第11回：集まって住むことと防災 (地震などの大災害時に発生する火災から住宅を守るためには町全体としての防火・防災の考えかたが必要。この講義では集まって住むことと防災について考えます。)</p> <p>第12回：集合住宅の事例3 (有名建築家の集合住宅を紹介します。)</p> <p>第13回：海外の集合住宅 (海外の特徴的な集合住宅を紹介します。また、集合住宅設計の演習課題について説明します。)</p> <p>第14回：演習2 (集合住宅設計の課題に即して、各自が住んでみたいあるいは理想と考える集合住宅のプラン(平面)を教室で検討します。「エスキース」)</p> <p>第15回：演習課題発表会 (各自の設計した集合住宅のプラン(平面)と設計の考え方を発表します。)</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実際に集合住宅のプラン(平面)を作成する演習を行いますので、集合住宅のプランについて図書館などの資料や建築の雑誌などを研究してイメージを膨らませてください。						
授業方法	講義、一部演習						
評価基準と評価方法	平常点(出席点)50%、レポート及び演習作品提出50%						

履修上の注意	10回以上の出席がないと、受講資格を失います。
教科書	
参考書	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン論II／ハウジングデザイン論II						
担当教員	中林 浩					科目ナンバ-	F72450
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>演習的な内容を含む講義とします。いくつかの空間表現の小課題と、20枚ほどの写真の分析をパワーポイントでしあげる大課題をします。</p> <p>住宅・建築単体よりも広い範囲の空間のデザイン論です。日本や世界にはどんな町、居住地があるのかからあらためて考え、都市デザインの理論を学びます。といってもなかなか都市デザインの理論というのは定番がないのです。そこでK.リンチとC.アレグザンダーのデザイン論を詳しく学びます。リンチはわかりやすいことを都市のあり方の原則にしました。そして大課題と関連するのが、アレグザンダーの『パターン・ランゲージ』ですね。よい空間の言語化を試み253のキーワードを辞典のようにした本です。わたしが好きなのは「7000人のコミュニティ」「4階建の制限」「どこにも老人」「人前の居眠り」「9パーセントの駐車場」「仕事コミュニティ」「店先学校」「市場のような大学」「つる植物」などです。このキーワードをもとに20まいほどの写真に解説を加える課題です。オリジナルなキーワードも創出してほしい。またNHKの「フォト575」という番組のような俳句をつける写真も試みてほしい。</p> <p>場合によっては学外に出ることがあります。</p>						
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。						
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていたらと願いますという教員に応えることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 近年のアーバンデザイン論</li> <li>2 リンチのアーバンデザイン論</li> <li>3 都市のわかりやすさ</li> <li>4 小課題1の案</li> <li>5 小課題1の完成</li> <li>6 アレグザンダーのアーバンデザイン論</li> <li>7 「7000人のコミュニティ」</li> <li>8 「人前の居眠り」——電車のなかの居眠りの写真を撮ってもダメです</li> <li>9 「どこにも老人」</li> <li>10 「四階建ての制限」——アレグザンダーの名言、高い建物が建つと地域が発展していると思っているひとがいる、バカだね</li> <li>11 小課題2の案</li> <li>12 小課題2の完成</li> <li>13 欧米のアーバンデザイン最前線</li> <li>14 小課題3の案</li> <li>15 小課題3の完成</li> </ol> <p>景観を表現する俳句なども勉強します。俳句つき写真、フォト575というかはやっています。また、言葉遊びも重要です。こういうのをしていますか。「素晴らしいシラバス」（すばらしいしらす）（回文、上から読んで下から読んで……）。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。マーフィーの法則「しっかり教材研究した授業は思いどおりに進まない」。						
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの講義です。						
評価基準と評価方法	おおむね9割を提出物で採点する。授業への参加の積極性を加味することもある。積極性の加点0点なら提出物100点満点で、積極性の加点5点なら提出物95点満点で、積極性の加点10点なら提出物90点満点で、積極性の加点15点なら提出物85点満点で、積極性の加点20点なら提出物80点満点で採点するということです						
履修上の注意	<p>都市のあり方や景観に興味をもっていること。</p> <p>学外に出ることもあります。調査は土曜日や日曜日に振り替えられることも多い。</p> <p>履修ガイドにあるEメールで連絡いただくのが望ましいのですが、facebook や LINE でもかまいません。オフィスアワーは金曜日12:10-13:10に641で。金曜日は午前中3年生のゼミ、午後4年生のゼミなのでその間、またその前後も641あたりにいることが多い。</p>						

教科書	
参考書	授業中に紹介します。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デジタルデザイン実習						
担当教員	坂田 岳彦					科目ナンバ-	F73300
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	美しいウェブデザインを制作する						
授業の概要	ウェブデザイン制作ソフト「Adobe Dreamweaver」を使用して、ウェブデザインの基本を習得します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Dreamweaverの基本操作の習得</li> <li>・ Adobe Illustratorを使ったデザイン制作とウェブページのための適切な画像変換</li> <li>・ Adobe Photoshopを使った画像処理とウェブページのための適切な画像変換</li> <li>・ 情報の整理とわかりやすい情報伝達の考察</li> <li>・ ウェブページの効率的な編集方法</li> <li>・ ユーザビリティとアクセシビリティに配慮したレイアウトデザイン</li> </ul>						
到達目標	HTMLとCSSを理解し、美しく、また分かりやすいウェブデザインを制作することができます。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 HTMLの基本、文字入力と文字設定、リンク設定 第3回 GIFファイルとJPEGファイルの作成、リンクボタンの作成 第4回 ページのレイアウト、別ウィンドウの作成 第5回 ロールオーバーイメージの作成、サイトの再構築 第6回 課題1：デザイン計画と文字入力 第7回 課題1：色彩計画と画像処理 第8回 課題1：レイアウト処理、講評 第9回 HTMLとCSSの作成 第10回 ページの編集 第11回 課題2：デザイン計画と文字入力 第12回 課題2：色彩計画と画像処理 第13回 課題2：レイアウト処理 第14回 課題2：ページの編集 第15回 講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	普段から目に留まるウェブサイトを注意深く観察し、どのような表現上の工夫が見られるかを読み取るように努力してください。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点50% 提出物50%						
履修上の注意	USBメモリを準備しておいてください（詳しくは授業内で説明します）。						
教科書							
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デジタルデザイン論						
担当教員	坂田 岳彦					科目ナンバ-	F72280
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	デジタル技術とウェブデザインについて						
授業の概要	前半：デジタル技術の発達により私たちの生活がどのように変革したのか、身の回りの生活用品からネットワーク環境、ロボット技術まで幅広く取り上げ、その功罪を含めて考察します。また、著作権の問題についても深く考察します。 後半：インターネットの仕組みを知り、ウェブデザインがどのような仕組みで作られているのかを学びます。美しく読みやすいページレイアウト、ユーザビリティ、アクセシビリティについて考察し、また、これからのウェブマーケティングの方策について考えます。						
到達目標	デジタル技術およびウェブデザインの仕組みを理解できるようになります。また、それらが私たちの生活にもたらす影響について理解できるようになります。						
授業計画	第1回 ガイダンス～デザインの定義と領域 第2回 アナログ技術とデジタル技術の違いについて学ぶ 第3回 アナログからデジタルへ～メディア技術の歴史について学ぶ 第4回 身の回りのデジタル技術とその功罪について考察する 第5回 デジタル技術と著作権の問題について考察する 第6回 コンピュータの仕組みを学び、これからのデジタル社会を考察する 第7回 前半のまとめと試験 第8回 ウェブサイトについての基本知識を学ぶ 第9回 ウェブデザインについて学ぶ (1) 文字のデザイン 第10回 ウェブデザインについて学ぶ (2) 画像と著作物利用について 第11回 ウェブデザインについて学ぶ (3) 色の持つ意味 第12回 ウェブデザインについて学ぶ (4) 美しいページレイアウト 第13回 ウェブデザインについて学ぶ (5) ユーザビリティとアクセシビリティについて考察する 第14回 これからのウェブマーケティングについて考察する 第15回 後半のまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	普段から目に留まるウェブサイトを注意深く観察し、どのような表現上の工夫が見られるかを読み取るように努力してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点50% 試験50%						
履修上の注意	前半と後半に1回ずつテストを実施しますので、復習に努めてください。						
教科書							
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングインターンシップ						
担当教員	単位認定者：中林 浩					科目ナンバー	F73590
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	インターンシップにより建築設計実務の実態を知る。						
授業の概要	兵庫県建築設計監理協会などが実施する夏期インターンシップ（ワークスタディ）に参加して、10日間程度建築設計事務所にて実務研修を受ける実習科目である。そのことにより、社会現場から実践的かつ実務の仕事実態と設計スキルを学び、かつ、事務所所属員などと人的交流することで、自分のキャリアイメージ形成にも役立たせる。						
到達目標	建築設計の実務実態を大まかに把握し、その内容を自分なりに自分の言葉で語れるようにする。						
授業計画	<p>設計事務所での10日間実習内容（モデル）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所長による設計事務所の業務内容の説明、10日間のガイダンス</li> <li>・着工前現場説明と現地見学・・・着工前のマンション（A）</li> <li>・工事中現場説明と現地見学・・・工事中の戸建住宅（B）</li> <li>・（A）についての設計図面類の解説</li> <li>・（A）戸建住宅注文主との打ち合わせ同席</li> <li>・（B）についての設計図面類の解説</li> <li>・（B）戸建住宅注文主との打ち合わせ同席</li> <li>・（A）についての模型制作</li> <li>・（B）についての仕上げ部材色彩計画</li> </ul> <p>前後の説明会・報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学内での担当教員からのインターンシップ内容説明と実習後の報告会の2回の事前と事後の授業には必ず参加すること</li> <li>・10日間の実習まとめと事務所内会議での成果発表</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	インターンシップ先の企業について、事前によく調べておくこと。						
授業方法	上のとおり。						
評価基準と評価方法	<p>成績評価の基準：研修日報とレポート提出（10月上旬）</p> <p>成績評価者：FHDのハウジング領域担当教員</p>						
履修上の注意	<p>設計事務所側の受け入れ人数が少ない場合、人数制限することもある。このことから、履修できないこともある。</p> <p>履修者は、受け入れ先設計事務所との間で契約書を個別に締結する。</p> <p>履修者は、本学学生全員加入の「学生教育研究災害傷害保険」（学研災）の他に、「学研災付帯賠償責任保険Bコース」に加入すること。</p> <p>オフィスアワーは金曜日12:10-13:10に641で。金曜日は午前中3年生のゼミ、午後4年生のゼミなのでその間、またその前後も641あたりにいることが多い。</p> <p>教員の連絡先：baya[at]js6.so-net</p>						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習ⅢA						
担当教員	植田 道則					科目ナンバ-	F7348A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	住まいの設計を、ライフスタイルの一部としてとらえる商業デザインとともに学んでいく。						
授業の概要	<p>デザインの感性を豊かにする題材として、商業施設を取り上げます。</p> <p>①日常生活の中から、好きなショップを数例レポートしその店が街を魅力的にしている部分について考えます。 商業デザインの基礎を学びます。</p> <p>②①で学んだことを展開し、課題敷地の中で店舗付き住宅のデザインを行います。</p>						
到達目標	<p>第一目標：コンセプト立案（自分でデザインする楽しさを実感できる。）</p> <p>第二目標：デザインの展開（デザインの基礎知識を習得することができる。）</p> <p>第三目標：プレゼンテーション（相手に自分のイメージを伝えることの手ごたえを実感できる。）</p>						
授業計画	<p>第1回【課題発表とオリエンテーション】</p> <p>◆課題発表・課題敷地見学 六甲八幡神社付近で、具体的な敷地を設定し、店舗付き住宅（約100~150㎡）の設計を行う。 住宅をメインにします。サブとしての店舗は雑貨屋、服屋、カフェ、レストランを想定しています。</p> <p>◆ライフスタイルを豊かにする商業建築紹介 海外の先端商業施設事例を音と映像により紹介</p> <p>第2回【「ボリューム把握」】 課題敷地を見てその特性について考え、コンセプトを醸成します。</p> <p>第3回【部分と全体】ユニットプランと配置計画</p> <p>第4回【平面エスキース1】平面プランの骨格を考えます。</p> <p>第5回【平面エスキース2】平面プランの骨格を考えます。</p> <p>第6回前半のまとめ</p> <p>第7回【中間チェック】平面プランを中心に、作品作りの中間レビューを行います。</p> <p>第8回【断面計画1】断面計画をステップを踏みながら書いていきます。</p> <p>第9回【断面計画2】断面計画の骨格を考えます。</p> <p>第10回【断面計画3】平面・断面計画から空間や立体の構成を考えます。</p> <p>第11回【学外研修（フィールドワーク2）：重森三玲美術館「住居と庭の関係」】 住居と庭の関係について、実作を見て考える。</p> <p>第12回【模型作製1】これまでの平面断面から模型をつくっていきます。</p> <p>第13回【模型作製2】これまでの平面断面から模型をつくっていきます。</p> <p>第14回【模型作製2】模型に対して、色や光の演出を行います。</p> <p>第15回【まとめ】プレゼンテーション講評会</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	イメージを伝えるのは図面だけではありません。言葉、模型、スケッチ、イメージ写真等、自分にあった表現方法を、授業以外でも模索し、この機会を通して身につけるようにしてください。						
授業方法	<p>第1回：データスライド等を用いた講義</p> <p>第1回、第11回：フィールドワーク</p> <p>第3回：グループ学習他</p> <p>第4-14回：実技演習、プレゼ資料作成（パワーポイント資料作成）</p> <p>第15回：全体デザインレビュー+プレゼ指導</p>						
評価基準と評価方法	授業の出席率75%（レポート有）、成果物評価15%、最終発表10%として、一旦評価をし授業の取り組みを加えて、総合評価する。						
履修上の注意	<p>学外研修を行う。</p> <p>第1回【学外研修（フィールドワーク）：課題敷地見学】 六甲八幡宮、阪急六甲近く</p> <p>第11回【学外研修（フィールドワーク）：「重森三玲庭園美術館」】 前庭や茶庭、坪庭がつくられている新旧融合の特殊な場所として文化的価値も高い重森三玲庭園美術館を見て、住居と庭の関係を実作を通して学ぶ。 （交通費等自己負担）</p> <p>※質問は授業の前で受け付けます。 受講希望者は「ハウジングデザイン実習ⅡA」と「ハウジングデザイン実習ⅡB」を履修していることが望ましい。</p>						

教科書	特になし
参考書	特になし（授業の中でプリントを配ります。）

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習ⅡB						
担当教員	村上 隆行					科目ナンバ-	F7348B
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4～5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	「集まって住む」～小規模集合住宅のデザイン 家族構成・社会生活の多様化を背景とし「住まい」のあり方が大きく変化している今日において、「集まって住む」ことの課題や意義を学び、そこにどのような空間が必要であるのかを考察し、提案する。						
授業の概要	一つの住戸に一つの家族が住むだけではない、多様な「集まって住む」かたちを学ぶ。 身近に実在する敷地に、どのような人がどのように「集まって住む」か、を自ら設定し、そのための建築をデザインする。自分の考えたことを適切に人に伝えられるよう、図面と模型やCGなどによって、プレゼンテーションする。 キーワード：家族、建築、地域、空間、デザイン、図面、模型、CG、プレゼンテーション						
到達目標	人や社会との関わりを熟考した空間の提案が出来る。 計画を図面やCGで的確に表現できる。 模型を早く美しく製作できる。						
授業計画	第1回 授業の説明、課題の説明 事例説明 第2回 敷地調査（六甲八幡神社周辺） 第3回 コンセプトレポート作成、発表、講評 ～どのような人がどのように「集まって住む」か～ 第4回 エスキスチェック（1） ※規模・配置 第5回 エスキスチェック（2） ※住棟のデザイン 第6回 エスキスチェック（3） ※住戸プラン 第7回 中間発表会（エスキス発表、講評） 第8回 最終エスキスチェック、製図レイアウト検討 第9回 製図（1） ※配置図が仕上ること 第10回 製図（2） ※平面図が仕上ること 第11回 製図（3） ※立面図・断面図が仕上ること 第12回 模型制作（1） パーツの製図、切り出し 第13回 模型制作（2） 組み立て、仕上げ 第14回 プレゼンテーション仕上げ 第15回 作品発表会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	インターネットや専門誌などから、できるだけ多くの事例に触れること。 授業の時間内だけで考えるのではなく、授業外でもコンセプトやエスキスを練り、授業中に先生のチェックを受けられるように準備しておく。 図面・模型制作も授業外に積極的に取り組み、完成度を高めるよう努めること。						
授業方法	実習形式						
評価基準と評価方法	平常点30%、中間発表時エスキスの評価20%、提出作品の評価50%とする。						
履修上の注意	学外見学（第2回時）六甲八幡宮、阪急六甲近く 受講希望者は「ハウジングデザイン実習ⅡA」と「ハウジングデザイン実習ⅡB」を履修していることが望ましい。						
教科書	特になし						
参考書	現代集合住宅のり・デザイン 事例で読む“ひと・時間・空間”の計画 / 日本建築学会編/彰国社/ 978-4-395-00809-4 眼を養い手を練れ(2) 集まって住もう / 居住空間デザイン講師室編著/彰国社/ 978-4-395-00891-9 建築設計テキスト集合住宅/建築設計テキスト編集委員会編/彰国社/978-4-395-21132-6						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	阪神デザイン論						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F72010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	郊外住宅地の形成、阪神間の建築、ライフスタイル、美術、文学、娯楽などあらゆる角度から「阪神間モダニズム」をとらえる。						
授業の概要	江戸時代に商都として栄えた大阪、明治以降に西洋文化の玄関口となった神戸に挟まれた阪神間は歴史的にも特有の文化が形成された地域であり、「具体」に見られるように近代美術の歴史にも深い影響を与えている。こうした阪神地域から輩出したファッション、ハウジング領域を中心とするデザイナー達の活躍を紹介し、地域に固有な文化的・経済的背景を基礎とするデザインの特質を理解することで、地域に根差した生活文化・ライフスタイルを形成するデザインの可能性を探る。						
到達目標	1) 大阪から神戸の特徴を地図に描くことができる。 2) 阪神間の衣、食、住、芸術の一つを取り上げ、述べることができる。 3) 神戸のファッション文化を説明することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）</li> <li>2. 阪神間とは</li> <li>3. 阪神間を築いた交通と郊外住宅地</li> <li>4. 阪神および神戸のライフスタイル</li> <li>5. 阪神間に生きた建築家とその作品</li> <li>6. 阪神間の食文化</li> <li>7. 雑誌「ファッション」から阪神間ファッションの紹介</li> <li>8. 阪神間のファッションデザイナーやグラフィックデザイナーたち</li> <li>9. 阪神間の芸術家たち（美術家、音楽家、写真家）</li> <li>10. 神戸の環境とは</li> <li>11. ホテル文化のさきがけ</li> <li>12. 神戸の飲料水</li> <li>13. 神戸のファッション</li> <li>14. 神戸と化粧品</li> <li>15. 宝塚歌劇と神戸・阪神間の関係性について</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間60分） 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。（学習時間60分）						
授業方法	①各回設定のテーマでレジュメを配布する。レジュメに沿って講義するため、授業前準備学習と授業後学習に使用する。 ②資料はプリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	レポート70%：阪神間の衣、食、住、芸術の一つを取り上げ、授業で学習した方法で研究しまとめる。到達目標（1）～（3）に関する到達度の確認。 課題30%：阪神間の地図を描く課題とレジュメを評価する。レジュメは、授業内容の確認と授業後学習を評価する。到達目標（1）～（3）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	①10回以上の出席がないと、受講資格を失う。 ②遅刻は、欠席扱いとする。 ③指定する課題は締切までに必ず提出する。						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントを配布する。						
参考書	毎日新聞社編『阪神観』（東方出版）						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ビジネスリサーチ演習						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	F73190
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	消費者心理を数字で分析する。						
授業の概要	消費者調査の方法を理解し、消費者調査法の知識と技術を習得する。具体的な課題に対して、アンケート形式を中心とした消費者調査の演習をグループ単位で実施する。任意に設定したテーマを基に、企画、実施、集計、分析というプロセスを経て、成果をまとめる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者調査を正しく行う方法を習得することができる。</li> <li>・消費者の行動の実態や意識を把握する知識を身につけることができる。</li> <li>・調査データを読み解くことができる。</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 消費者調査の必要性と目的</li> <li>3. 調査の種類と方法</li> <li>4. 調査用紙の作成方法</li> <li>5. 調査テーマの検討</li> <li>6. 調査計画の作成</li> <li>7. 予備調査（プリテスト）の作成</li> <li>8. 予備調査（プリテスト）の集計と分析</li> <li>9. 調査票（アンケート）の作成 ①対象者の選定</li> <li>10. 調査票（アンケート）の作成 ②質問項目の設定</li> <li>11. アンケート集計 単純集計</li> <li>12. アンケート集計 クロス集計</li> <li>13. 調査結果の分析</li> <li>14. 報告書の作成</li> <li>15. まとめと発表</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：各回、授業で行う当該箇所の予習（詳細は授業内で指示）（学習時間：90分）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容の操作方法を復習（学習時間：90分）</p>						
授業方法	演習。プリントを活用する。						
評価基準と評価方法	提出物50%、発表30%、授業への参加度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）20%						
履修上の注意	演習授業のため、原則として欠席や遅刻は認めない（やむを得ない場合は、10回以上の出席とする）。						
教科書	（社）日本衣料管理協会／新版消費者調査法／（社）日本衣料管理協会						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCAD実習						
担当教員	足立 ともみ					科目ナンバ-	F72260
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	アパレルCADの活用						
授業の概要	ファッション業界の中でも、流行の変化が著しく多様なデザインが要求されるアパレル業界では生産の効率化を図るためアパレルCADシステムが広く利用されています。実習Ⅰでは衣服の型紙を作成するパターンメイキングを中心に、実際にアパレルCADソフトを使用しながら、衣服生産のためのCAD技術の習得と活用の有効性を考えます。						
到達目標	アパレル生産に有効なCADの活用を理解して実際に作品の制作に少しでも役立てるように習得する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション ファッション産業でのCADの活用、Pattern Magicの操作 第2回 原型、ポケット作成、実寸出力 第3回 スカート原型のデザイン展開 第4回 スカート工業用パターン作成 第5回 ブラウスパターン実寸入力 第6回 ブラウス工業用パターン作成、マーキング 第7回 パンツ実寸入力 第8回 パンツパターン工業用パターン作成、マーキング 第9回 ワンピース実寸入力 第10回 ワンピース工業用パターン作成、マーキング 第11回 新文化原型のデザイン展開 第12回 自由作品レポートの説明、作品選び 第13回 自由作品>Pattern Magicで型紙作成 第14回 自由作品>Pattern Magicで型紙作成、マーキング 第15回 レポート作成 提出、講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：日頃より身の回りの衣服構成や縫製部位を観察し型紙作成のための視野を広げてください。 授業後学習：CAD操作で不明な所は質問し、他授業やファッションショー等でCADを活用しましょう。						
授業方法	コンピューターを使用しての演習形式						
評価基準と評価方法	平常点(50点) 配点内訳:課題と授業への積極的参加度 自由作品・レポート(50点)						
履修上の注意	履修上の注意:10回以上の出席がないと受講資格を失います(遅刻厳禁) データ保存のため、各自でUSBメモリを購入し毎回持参してください。 (他教科との兼用可)						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCAD実習I						
担当教員	足立 ともみ					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	アパレルCADの活用「企画・設計」						
授業の概要	ファッション業界の中でも、流行の変化が著しく多様なデザインが要求されるアパレル業界では生産の効率化を図るためアパレルCADシステムが広く利用されています。 実習Iでは衣服の型紙を作成するパターンメイキングを中心に、実際にアパレルCADソフトを使用しながら、衣服生産のためのCAD技術の習得と活用の有効性を考えます。 その他CG技術による生地柄の作成またパターン・ボディ・テキスタイルのデータから仮想衣服としてシルエットを生成し、画面上であらゆる方向からの着装状態、柄、色のマッチングなどの検証を行い、ファッションコーディネートを実験します。						
到達目標	型紙制作から仮縫い（仮想縫製）までをパソコンで出来るようになり、アパレル生産に有効なCADの活用を理解する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 使用ソフトの紹介、服の色や形が人に与える印象 第2回 生地柄作成>ストライプ・水玉・変形・描画・色変え 第3回 マッピング 第4回 パターンメイキングツールの基本操作、ワンピース製図 後身頃 第5回 ワンピース製図 前身頃、仮想縫製 第6回 ダーツ展開 プリンセスラインとパネルライン 第7回 仮想縫製でのデザイン線の追加と平面製図への適用 第8回 仮想縫製での柄のマッチング、錯視による着装効果 第9回 ブラウス製図実寸入力 第10回 ブラウス工業用パターン作成 第11回 マーキング 第12回 原型、ポケットの作成、実寸出力、自由作品レポートの説明 第13回 自由作品>CG Magicでの生地柄作成 第14回 自由作品>i-Designerでの着装シミュレーション、マッピング 第15回 レポート作成・提出、講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：衣服の構成やシルエット、生地の風合いや柄合わせなど、衣服を更に広い視野で観察してください。 授業後学習：CAD操作で不明な所は質問し納得いくまで練習・復習をしましょう。						
授業方法	コンピューターを使用しての演習形式						
評価基準と評価方法	平常点(50点) 配点内訳：課題と授業への積極的参加度 自由作品・レポート(50点)						
履修上の注意	1. 履修の対象者：ファッションCAD実習IIを履修する人はこのファッションCAD実習Iを履修することが望ましい。 2. 履修上の注意：10回以上の出席がないと受講資格を失います（遅刻厳禁） データ保存のため、各自でUSBメモリを購入し毎回持参してください。（他教科との兼用可）						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCAD実習II						
担当教員	足立 ともみ					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	アパレルCADの活用「設計～応用技術」						
授業の概要	実習 I で習得したパターンメイキング技術と簡単なバーチャルガーメント（仮想衣服）の技術を基に実習 II では、難度なデザイン展開をCADの利用で迅速かつ確実にできる力を養います。						
到達目標	複雑な型紙を効率良く製図し、仮想衣服上で補正やデザイン変更を行える。実際に製作する服のデータ化やコストを理解できるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション ファッション産業でのCADの活用、Pattern Magicの操作復習 第2回 子供用タンクトップ製図 第3回 カットソー工業用パターン作成 プリント図案の配置 実寸印刷 第4回 スカートのパターン製作・デザイン展開 第5回 スカート仮想縫製 第6回 ブラウスのパターン作成 身頃 第7回 ブラウスのパターン作成 袖、衿 第8回 ブラウスの工業用パターン作成、マーキング 第9回 ワンピースパターン実寸入力 第10回 ワンピース工業用パターン作成、マーキング 第11回 原型のデザイン展開 第12回 自由作品レポートの説明、作品選び 第13回 自由作品>Pattern Magicで型紙作成 第14回 自由作品>Pattern Magicで型紙作成、マーキング 第15回 レポート作成 提出、講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：日頃より身の回りの衣服構成や縫製部位を観察し型紙作成のための視野を広げてください。 授業後学習：CAD操作で不明な所は質問し、他授業やファッションショー等でCADを活用しましょう。						
授業方法	コンピューターを使用しての演習形式						
評価基準と評価方法	平常点(50点) 配点内訳:課題と授業への積極的参加度 自由作品・レポート(50点)						
履修上の注意	1. 履修の対象者:ファッションCAD実習 I を履修していることが望ましい。 2. 履修上の注意:10回以上の出席がないと受講資格を失います(遅刻厳禁) データ保存のため、各自でUSBメモリを購入し毎回持参してください。 (他教科との兼用可)						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCAD実習III / (検定3級対応)						
担当教員	足立 ともみ					科目ナンバ-	
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	アパレルCAD検定 (操作基礎編)						
授業の概要	アパレル企業では新入社員教育に多くの時間を費やすことが難しくなっています。即戦力が求められる中で目に見える形として検定に合格できるCAD技術の習得を実習します。						
到達目標	アパレルCAD (東レCREA COMPO) のツールを理解しパターンを効率良く作成。CAD検定試験問題に柔軟、迅速に対応できるスキルを身に付ける。						
授業計画	第1回 オリエンテーション ファッション業界でのCADの活用 CAD検定の紹介 第2回 CADのツール、ショートカットキーの解説 第3回 スカート原型作成 第4回 スカートデザイン展開 第5回 スカート工業用パターン作成 第6回 筆記、実技試験問題の演習 (スカート) 第7回 ブラウスパターン作成 第8回 ブラウスデザイン展開 第9回 ブラウス工業用パターン作成 第10回 パンツパターン作成 第11回 パンツデザイン展開 第12回 パンツ工業用パターン作成 第13回 筆記、実技試験問題の演習 第14回 筆記、実技試験 第15回 試験の解説、講評						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前学習: CADのツールを理解しショートカットキーを覚える。 授業後学習: CAD操作で不明な所は質問し、パターン作成の時間短縮の工程を考えてください。						
授業方法	コンピューターを使用しての演習形式						
評価基準と評価方法	平常点 (50点) 配点内訳: 課題と授業への積極的参加度 試験 (50点)						
履修上の注意	1. 履修の対象者: ファッションCAD実習 I、II を履修していることが望ましい。 2. 履修上の注意: 10回以上の出席がないと受講資格を失います (遅刻厳禁) データ保存のため、各自でUSBメモリを購入し毎回持参してください。 (他教科との兼用可)						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCG演習／ファッションCGスタイル画演習						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	F72270
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	・コンピューターデザインソフトを使ってファッションデザイン画を描く。						
授業の概要	デザインアイディアの展開方法を学び、フォトフォリオの制作技法とファッションデザイン画を描く際のテクニックを習得する。 コンピューターのデザインソフト（IllustratorやPhotoshop）の使い方を学び、コンピューターグラフィックでファッションデザイン画を完成させる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォトフォリオを制作することができる。</li> <li>・IllustratorやPhotoshopを操作できる。</li> <li>・コンピューターデザインソフトを用いてファッションデザイン画を描くことができる。</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. フォトフォリオ制作とは</li> <li>3. ファッションデザイン画</li> <li>4. ハンガーイラスト</li> <li>5. Illustrator CSの使い方とペンツールの基本操作</li> <li>6. Illustrator CS 3パスや色の編集</li> <li>7. Illustrator CS テキスタイル（柄）の作成と合成（クリッピングマスク方法）</li> <li>8. Illustrator CS レイヤー</li> <li>9. Illustrator CS 作品制作 1</li> <li>10. Photoshop 基本操作説明</li> <li>11. Photoshop テキスタイル（柄）の合成</li> <li>12. Photoshop レイヤーマスク、画像モードを使った合成</li> <li>13. Photoshop 素材感の描き方</li> <li>14. Photoshop 作品製作 2</li> <li>15. 作品発表、評価</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：各回、授業で取り上げる該当箇所の予習（詳細は授業内に指示）（学習時間：90分）</p> <p>授業後学習：授業で行ったIllustrator CS またはPhotoshopの操作方法を復習する。（学習時間：90分）</p>						
授業方法	パソコンを使用した演習。						
評価基準と評価方法	作品70%、授業への参加度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）30%						
履修上の注意	演習授業のため、原則として欠席や遅刻は認めない（やむを得ない場合は、10回以上の出席とする）。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションイメージ論						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバー	F14110
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダーの視点からみるファッション						
授業の概要	ファッションはジェンダーとどのようにかかわってきたのか、についてメディア（新聞・雑誌、映画、テレビ、写真、インターネットなど）をはじめ視覚資料を多用して歴史的に跡づける。						
到達目標	ジェンダーの概要をファッションとのかかわりを通じて考えることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ジェンダーとは</li> <li>3. 『ボーイスカート』を読む</li> <li>4. 発表</li> <li>5. ファッションにあらわれたジェンダー</li> <li>6. スカートの表象</li> <li>7. ズボンと表象</li> <li>8. ジェンダーと色</li> <li>9. ジェンダーと制服</li> <li>10. 発表</li> <li>11. ファッションにみるジェンダー ココ・シャネル</li> <li>12. ファッションにみるジェンダー ピエール・カルダン</li> <li>13. ファッションにみるジェンダー イヴ・サンローラン</li> <li>14. ジェンダーフリーファッション</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：メディア（新聞、雑誌、映像、インターネット）などを通じ、ジェンダーやファッションイメージに意識的に触れ、日常にある「らしさ」を見つける。（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認と整理。（学習時間：90分）						
授業方法	講義。視覚教材（パワーポイントやDVD）を活用する。						
評価基準と評価方法	発表30%、課題50%、授業への参加度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）20%						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない場合は、受講資格を失う。						
教科書	とくに定めない。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションカルチャー論						
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	F24110
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションは私たちの日常に多大な影響力を持っている。ファッションのさまざまなトピックを取り上げながら、現代社会におけるファッションの文化的役割について考える。						
授業の概要	私たちの身体を覆う衣服は実用品であると同時に装飾品であり、これまで民族固有の服飾文化が形成されてきた。しかしファッションのグローバル化に伴い、世界各地の人々の装いは均質化の傾向を見せつつある。このように多大な影響力をもつ西洋発のファッションを、神戸・メディア・アート・色彩・身体といったキーワードに基づき、多角的な視点から考察することによって、現代のファッション文化に対する理解を深める。						
到達目標	1) 広い視野からファッション現象に関する理解ができる。 2) ファッションと密接に関連する様々なカルチャーとの相互作用に関心を深める。 3) ファッションの文化的意味に対する多様で複合的な観点を獲得している。						
授業計画	1) 04/11 オリエンテーション（授業の目的、概要、進行に関する説明） 2) 04/18 ファッションとカルチャー、「ビジュアルカルチャー」とは 3) 04/25 神戸とファッション KOBE FASHIONの推進 4) 05/02 ファッションとメディア（1）流行を伝えること 5) 05/09 ファッションとメディア（2）ファッション雑誌 6) 05/16 ファッションとメディア（3）雑誌ができるまで 7) 05/23 ファッションとアート（1）商品か作品か 8) 05/30 ファッションとアート（2）美術館との関わり 9) 06/06 ファッションとアート（3）ファッション展 10) 06/13 ファッションと色彩（1）スーツと黒 11) 06/20 ファッションと色彩（2）ウエディングドレスと白 12) 06/27 ファッションと色彩（3）日本と西洋 13) 07/04 ファッションと身体（1）身体加工と素材加工 14) 07/11 ファッションと身体（2）男らしさと女らしさ 15) 07/18 講義の振り返りとまとめテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業ノート、配布プリントを用いて復習し、学習の定着をはかること。 授業中に紹介する参考書を用いて、授業内容に対する見識を広めること。						
授業方法	講義。毎回DVDやスライド資料を使用する。						
評価基準と評価方法	授業中の小レポート（50%）とまとめテスト（50%）を実施する。 欠席は減点とする。						
履修上の注意	私語には厳しく対処する。※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	教科書は特に指定しないが、適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション構想実習A/ファッション構想実習						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバ-	F7117A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	ファッションデザインに必要なリサーチ、デザイン画作成の手法を学ぶ						
授業の概要	本科目ではA・Bを通して、ファッションデザインにおけるデザイン構想の方法からその表現方法までを実習形式で修得していく。Aでは、インスピレーションを探す所から開始し、インスピレーションを具体化するために必要なリサーチ、リサーチブック作成をおこない、デザイン画として表現する。その中で、アイデアをファッションデザインとして表現するために必要となる形態、素材、色彩に関する知識や、それをデザイン画として表現する技術を養っていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な視点からファッションデザインのインスピレーションを収集することができる。</li> <li>・収集したインスピレーションについてリサーチし、リサーチブックとしてまとめることができる。</li> <li>・アイデアをファッション画として表現する基礎的なスキルを修得する。</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション ファッションをデザインすること</li> <li>2. ファッションデザインの手順</li> <li>3. デザイン画の基礎① 人体の描き方</li> <li>4. デザイン画の基礎② 衣服の描き方</li> <li>5. ファッションデザインリサーチ 目的、手順、手法</li> <li>6. 線によるデザイン① テーマ設定、リサーチ</li> <li>7. 線によるデザイン② リサーチブックの作成</li> <li>8. 線によるデザイン③ デザイン画作成</li> <li>9. 自然からのデザイン① テーマ設定、リサーチ、リサーチブック作成</li> <li>10. 自然からのデザイン② デザイン画作成</li> <li>11. テクスチャーのデザイン① テーマ設定、リサーチ、リサーチブック作成</li> <li>12. テクスチャーのデザイン② デザイン画作成</li> <li>13. オリジナルデザイン① テーマ設定、リサーチ</li> <li>14. オリジナルデザイン② リサーチブック作成</li> <li>15. オリジナルデザイン③ デザイン画作成</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	身の周りのものをよく観察し、ファッションデザインのインスピレーションとして捉えるよう努める。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品提出(最終課題50%、その他50%)						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習のため、欠席・遅刻に注意する。</li> <li>2. 材料費等は自己負担とする。(クロッキー帳、鉛筆は必ず準備する。詳細は初回に説明。)</li> </ol>						
教科書	必要に応じて資料を配布						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション構想実習B/デザイン基礎実習F						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバ-	F7117B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	人体と素材の関係を理解し、立体的なファッションデザインとして表現する手法を学ぶ						
授業の概要	本科目では、形態と素材という点に着目し立体での表現をおこなうことで、ファッション構想実習Aとは違った視点からの構想方法を学ぶ。具体的にはAで修得したリサーチ、リサーチブック作成の手法を用い、衣服デザインとしてデザインを考案し、実際に衣服制作までをおこなう。ファッションデザインにおける様々な素材や形態に関する知識を習得し、ファッションを、身体を中心とした空間デザインとして表現する自由な発想を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッションデザインにおける素材と形態の関係性を理解する。</li> <li>・与えられる課題に対して、適切なりサーチ、リサーチブック作成を経てデザインを考案できる。</li> <li>・衣服制作に必要な基礎的な技術、手法を修得する。</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 布と人体① ダーツの役割：人体に布を沿わす</li> <li>3. 布と人体② 様々なボリュームで人体を包む</li> <li>4. 分割線のデザイン① 人体と分割線</li> <li>5. 分割線のデザイン② 分割線のデザインと平面化</li> <li>6. 図形によるデザイン① 人体と平面図形</li> <li>7. 図形によるデザイン② リサーチブック作成、デザイン考案</li> <li>8. 図形によるデザイン③ 1/2サイズで作品制作</li> <li>9. 異素材のデザイン① ファッションデザインにおける異素材</li> <li>10. 異素材のデザイン② プチプチ衣服制作</li> <li>11. オリジナルデザイン① テーマ設定、リサーチブック作成</li> <li>12. オリジナルデザイン② デザイン考案、作品制作</li> <li>13. オリジナルデザイン③ 作品制作</li> <li>14. オリジナルデザイン④ 作品制作、写真撮影計画</li> <li>15. オリジナルデザイン⑤ 写真撮影</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	身の周りにあるものをよく観察し、ファッションデザインのインスピレーションとして捉えるよう努める。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品提出(最終作品50%、その他50%)						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習のため、欠席・遅刻に気をつける。</li> <li>2. 材料費等は自己負担とする。</li> </ol>						
教科書	必要に応じて資料を配布						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション史						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	F11060
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	古代から現代までの服飾の変遷を社会背景とともに学び、衣服に対する理解を深める。						
授業の概要	ファッションと社会や芸術との関係にふれながら、人びとがファッションに何を求め、あらわしてきたのかについて考察する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古代から現代までの服飾の成立ちや変遷を理解することができる。</li> <li>・服飾について、専門用語を用いて説明することができる。</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 古代・中世の服飾</li> <li>3. 16世紀の服飾</li> <li>4. 17世紀の服飾</li> <li>5. 18世紀の服飾</li> <li>6. 19世紀の服飾 ①女性の服飾を中心に</li> <li>7. 19世紀の服飾 ②服飾の多様化</li> <li>8. ファッションとジャポニスム (日本趣味) ①小袖とドレス</li> <li>9. ファッションとジャポニスム (日本趣味) ②キモノのイメージ</li> <li>10. 20世紀前半の服飾</li> <li>11. 20世紀後半の服飾</li> <li>12. ファッションとジーンズ</li> <li>13. 日本人デザイナーと洋服 ①高田賢三、三宅一生</li> <li>14. 日本人デザイナーと洋服 ②川久保玲、山本耀司</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習：各回、授業で行う当該箇所の予習(詳細は授業内で指示)(学習時間：90分)</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容を整理、復習(学習時間：90分)</p> <p>実物資料を見ることは、ファッションの理解に役立つ。授業内容と関連する展覧会やイベントを随時、紹介するので、見学すること。</p>						
授業方法	講義。視聴覚教材(DVDやパワーポイント)を活用する。						
評価基準と評価方法	授業中の課題(40%)、レポート(40%)、授業への参加度(積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか)20%						
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席を必要とする。						
教科書	『ファッションの歴史 - 西洋服飾史 - 』(朝倉書店、佐々井啓編著)						
参考書	『京都服飾文化財団コレクション ファッション 18世紀から現代まで』(タッシェン、監修 深井晃子) 『世界服飾史』(美術出版社、監修 深井晃子)						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン概論/デザイン概論F						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F01050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	色・形・素材などからデザインの基礎を学ぶ。						
授業の概要	他のデザイン分野とは異なる独自性をもって発展してきたファッションデザインの近代以降の歴史的意味を振り返り、現代ファッションの範囲、他分野への拡がりや融合について理解する。また、新しさへの欲求、国境を越えた流行、スタイルと風俗などのファッションの性質、および生活文化としてのファッションを踏まえ、ファッションデザインの意味、形態、色彩、質感と美的性質、発想と表現、ファッション産業の仕組みなどについての基礎的知識を習得する。						
到達目標	1) ファッションデザインを分析することができる。 2) デザイン美を列挙することができる。 3) フォーム、カラー、素材の専門用語が説明できる。 4) ファッションイメージを説明することができる。						
授業計画	1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）服飾デザイン：ファッションとは何か 2. ファッションデザインと形態（形態の基礎理論） 3. ファッションデザインと造形要素①：点・線・形など 4. ファッションデザインと造形要素②：面と立体など 5. カラー①：色彩の基礎 6. カラー②：マンセル表色系 7. カラー③：イメージによる色の表現 8. カラー④：配色とカラーバランス 9. デザイン美①：ファッションの美的統一とは（プロポーション） 10. デザイン美②：秩序の理論（統一と変化）、アクセントとポイント、ハーモニーとコントラスト、バランスとシンメトリー、リズムとプロポーションなど 11. マテリアル①：材質の表情、材質とデザイン 12. マテリアル②：イメージによる素材の表現 13. フォーム①：ディテールとバリエーション 14. フォーム②：イメージによる形態の表現 15. 体型とファッションイメージの関係性、試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間60分） 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。（学習時間60分）						
授業方法	①プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ②各回授業のテーマに沿った練習問題や課題をする。						
評価基準と評価方法	試験70%：ファッションデザインの理解度を評価する。到達目標（1）および（4）に関する到達度の確認。 提出物30%：各回設定のテーマの課題を評価する。到達目標（1）および（4）に関する到達度の確認。 課題（練習問題）に対するフィードバックの方法：採点して返却する。満点になるまでやり直し提出する。						
履修上の注意	①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は、欠席扱いとする。 ③指定する課題を締切までに必ず提出する。						
教科書	『新配色カード199b』（日本色研事業株式会社） プリントを配布する。 尚、『新配色カード199b』は、授業科目「カラーデザイン論」「ライフカラーコーディネート演習」に使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習III						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバー	F73250
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	デザインから衣服設計、縫製までの衣服製作工程の理解と製作技法の習得						
授業の概要	ファッションデザイン実習IIIでは、ジャケット制作、パンツの縫製、写真から製図をおこすデザインコピー、立体裁断の基本的な手法を学び、ファッションデザイン実習I・IIを総括し、「デザイン特別演習」や「卒業研究」へ繋がる衣装製作の土台作りを行う。						
到達目標	<p>1. 認知的領域：知識・理解</p> <p>①ジャケットを平面製図法で設計し、縫製までおこなえる。</p> <p>②パンツの縫製手法を理解できる。</p> <p>③衣服の写真からデザインを理解し、製図におこすことができる。</p> <p>④立体裁断を用いて、シャツワンピースの制作ができる。</p>						
授業計画	<p>1. オリエンテーション、ジャケット製図「身頃①」：前後身頃の製図。</p> <p>2. ジャケット製図「身頃②」：衿、袖の製図。</p> <p>3. ジャケット「裁断、印つけ①」：本布の裁断、印つけ。</p> <p>4. ジャケット「裁断、印つけ②」：裏布の裁断、印つけ。</p> <p>5. ジャケット「縫製①」：身頃の縫製。</p> <p>6. ジャケット「縫製②」：衿ぐりの縫製。</p> <p>7. ジャケット「縫製③」：裏身頃の縫製。</p> <p>8. ジャケット「縫製④」：袖の縫製。</p> <p>9. ジャケット「縫製⑤」：袖つけ。仕上げ。</p> <p>10. パンツ：パンツの縫製。</p> <p>11. デザインコピー①：製図。</p> <p>12. デザインコピー②：タオル（半身）の制作。</p> <p>13. 立体裁断法①：シャツワンピース、前身頃の制作。</p> <p>14. 立体裁断法②：シャツワンピース、後ろ身頃、袖の制作。</p> <p>15. 立体裁断法③：シャツワンピース、衿の制作、まとめ。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：次の授業までに課題を仕上げること。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品提出（ジャケット50%、デザインコピー20%、立体裁断30%）						
履修上の注意	<p>1. 実習のため、原則、欠席・遅刻を認めない(やむをえない場合は、10回以上の出席とする)。</p> <p>2. 材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。</p> <p>3. 卒業研究で衣服製作を希望する学生は、履修することが望ましい。</p> <p>オフィスアワー：本館6階 火曜10:40~12:10</p>						
教科書							

参考書	
-----	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習I						
担当教員	高田 敏代					科目ナンバ-	F22010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション市場の調査分析						
授業の概要	ファッションビジネス演習I、II、IIIでは、ファッション産業における商品企画・生産・販売の流れについて、関連する具体的な職種や実務を想定した演習を通じて理解を深める。演習Iでは消費者や市場の動向を的確に捉える「マーケティング」手法について、市場調査や情報収集の具体的な事例を体験する。またそれらの調査結果や情報、および「ライフスタイル」などの要因を基礎に、消費者のターゲットを定めたファッション予測や分析を行いマップ表現を制作することで、的確な販売戦略、商品企画に結びつけることを目的とする。主としてマーケティング。						
到達目標	ファッション市場の状況を調査し分析する事によってその特徴を知ることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファッション業界の構造 生産から流通小売りまでの仕組みや構造とそこに関わる専門家について解説します</li> <li>2. アパレル業界の最新市場（春夏） 小売市場全般とレディース・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します</li> <li>3. アパレル業界の最新市場（春夏） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル市場の動向を解説します</li> <li>4. 日本市場の顧客世代分析 現代女性の世代分析を基にその生活スタイルと消費志向の特徴を分析し解説します</li> <li>5. 百貨店のブランド分析I 百貨店の売り場をリサーチしブランドが狙う年代と商品テイストの違いを調査する</li> <li>6. 百貨店のブランド分析II 調査した内容をマトリックスに分析しブランドのポジショニングマップを作成する</li> <li>7. 百貨店のブランド分析III I IIの調査結果を分かりやすくマップに仕上げ、グループごとにその内容を発表する</li> <li>8. ファッション着装調査I グループに分かれて着装調査のテーマを決め、どのように実施するか計画を立てる</li> <li>9. ファッション着装調査II 設定したテーマ（色、素材、スタイル、デザイン等）で今シーズンの着装を調査する</li> <li>10. ファッション着装調査III IIで調査したファッション着装のデータを基に結果を分析しマップにまとめる</li> <li>11. ファッション着装調査IV IIIで分析しまとめたファッション着装調査の内容結果をグループごとに発表する</li> <li>12. ライフスタイル調査I 生活スタイルを調査する方法（アンケート、面談調査）決め調査シートを作成する</li> <li>13. ライフスタイル調査II グループに分かれて調査世代を絞り込み生活スタイルの特徴を知る調査を実施する</li> <li>14. ライフスタイル調査III Iの調査シートと面談で行ったIIの調査結果を基に生活スタイルの特徴を分析する</li> <li>15. ライフスタイル調査IV グループごとに生活スタイル調査の分析結果を発表する。前期の演習内容のまとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ファッション市場（百貨店、専門店、量販店）の顧客や取り扱い商品の調査						
授業方法	テキストや具体的な参考事例を基に学び、グループに分かれてマーケットリサーチを実際に体験する（学外実習）。そしてマーケットリサーチによって得た情報を基に商品開発のベースとなるコンセプトマップを作成する。						
評価基準と評価方法	消費者や市場の調査報告書および商品開発のためのコンセプトマップ（レポート、成果物）で評価します。						
履修上の注意	<p>前半は、グループワーク、後半は個人でレポートや成果物に取り組んで頂きます。</p> <p>※質問は授業の前後で受け付けます。</p> <p>①10回以上の出席がないと、受講資格失う。</p> <p>②遅刻は、欠席扱いとする。</p> <p>③指定する課題を必ず提出する。</p>						

履修上の注意	
教科書	オリジナルテキスト
参考書	織研新聞、様々なファッション雑誌

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習I						
担当教員	高田 敏代					科目ナンバ-	F22010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション市場の調査分析						
授業の概要	ファッションビジネス演習I、II、IIIでは、ファッション産業における商品企画・生産・販売の流れについて、関連する具体的な職種や実務を想定した演習を通じて理解を深める。演習Iでは消費者や市場の動向を的確に捉える「マーケティング」手法について、市場調査や情報収集の具体的な事例を体験する。またそれらの調査結果や情報、および「ライフスタイル」などの要因を基礎に、消費者のターゲットを定めたファッション予測や分析を行いマップ表現を制作することで、的確な販売戦略、商品企画に結びつけることを目的とする。主としてマーケティング。						
到達目標	ファッション市場の状況を調査し分析する事によってその特徴を知ることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファッション業界の構造 生産から流通小売りまでの仕組みや構造とそこに関わる専門家について解説します</li> <li>2. アパレル業界の最新市場（春夏） 小売市場全般とレディース・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します</li> <li>3. アパレル業界の最新市場（春夏） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル市場の動向を解説します</li> <li>4. 日本市場の顧客世代分析 現代女性の世代分析を基にその生活スタイルと消費志向の特徴を分析し解説します</li> <li>5. 百貨店のブランド分析I 百貨店の売り場をリサーチしブランドが狙う年代と商品テイストの違いを調査する</li> <li>6. 百貨店のブランド分析II 調査した内容をマトリックスに分析しブランドのポジショニングマップを作成する</li> <li>7. 百貨店のブランド分析III I IIの調査結果を分かりやすくマップに仕上げ、グループごとにその内容を発表する</li> <li>8. ファッション着装調査I グループに分かれて着装調査のテーマを決め、どのように実施するか計画を立てる</li> <li>9. ファッション着装調査II 設定したテーマ（色、素材、スタイル、デザイン等）で今シーズンの着装を調査する</li> <li>10. ファッション着装調査III IIで調査したファッション着装のデータを基に結果を分析しマップにまとめる</li> <li>11. ファッション着装調査IV IIIで分析しまとめたファッション着装調査の内容結果をグループごとに発表する</li> <li>12. ライフスタイル調査I 生活スタイルを調査する方法（アンケート、面談調査）決め調査シートを作成する</li> <li>13. ライフスタイル調査II グループに分かれて調査世代を絞り込み生活スタイルの特徴を知る調査を実施する</li> <li>14. ライフスタイル調査III Iの調査シートと面談で行ったIIの調査結果を基に生活スタイルの特徴を分析する</li> <li>15. ライフスタイル調査IV グループごとに生活スタイル調査の分析結果を発表する。前期の演習内容のまとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ファッション市場（百貨店、専門店、量販店）の顧客や取り扱い商品の調査						
授業方法	テキストや具体的な参考事例を基に学び、グループに分かれてマーケットリサーチを実際に体験する（学外実習）。そしてマーケットリサーチによって得た情報を基に商品開発のベースとなるコンセプトマップを作成する。						
評価基準と評価方法	消費者や市場の調査報告書および商品開発のためのコンセプトマップ（レポート、成果物）で評価します。						
履修上の注意	<p>前半は、グループワーク、後半は個人でレポートや成果物に取り組んで頂きます。</p> <p>※質問は授業の前後で受け付けます。</p> <p>①10回以上の出席がないと、受講資格失う。</p> <p>②遅刻は、欠席扱いとする。</p> <p>③指定する課題を必ず提出する。</p>						

履修上の注意	
教科書	オリジナルテキスト
参考書	織研新聞、様々なファッション雑誌

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習II						
担当教員	高田 敏代					科目ナンバ-	F22020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	商品開発及び商品販売の為のコンセプト立案（ブランディング）						
授業の概要	ファッションビジネス演習II 演習IIでは演習Iの分析・予測から、具体的な商品企画のステップであるターゲット、情報、コンセプト、コーディネート、デザイン、プロモーションなどの各企画段階をシュミレーションすることで、「マーチャンダイジング」の役割と方法について理解する。また、それに伴うライフステージ・サイクル、シーズンサイクル、ファッションマインド、テストレベルなどの要因についても理解しながら、変化の速いファッション業界に置いて、如何に消費者に的確に訴求できる商品を生産できるかという手法を修得することを目的とする。主としてマーチャンダイジング。						
到達目標	対象マーケットを設定し、ブランドの構築をすることでターゲット及びライフスタイル分析と商品企画コンセプトの立案をすることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アパレル業界の最新市場（秋冬） 小売市場全般とレディース・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します</li> <li>2. アパレル業界の最新市場（秋冬） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル等の動向を解説します</li> <li>3. 商品企画Ⅰ ターゲットの設定 誰のための商品企画をするのかを設定する（性別、年齢、ライフスタイル、価値観等）</li> <li>4. 商品企画Ⅱ ライフスタイル分析 ターゲットが365日どのような生活スタイルを持っているのかを分析する</li> <li>5. 商品企画Ⅲ ライフスタイル分析 ターゲットの365日のライフスタイルを雑誌切り抜きでマップに表現する</li> <li>6. 商品企画Ⅳ 商品イメージの分析 商品化したい商品（ファッション関連商品）の市場や商品の情報を集める</li> <li>7. 商品企画Ⅴ 商品イメージの分析 商品化したい商品のイメージを具体的に雑誌切り抜きでマップに表現する</li> <li>8. 商品企画Ⅵ 商品展開計画の作成 どのチャンネルでどのように販売するのか（価格、サイズ等）を決める</li> <li>9. マップ作成Ⅰ コンセプトマップ コンセプトマップを作成する基本テクニック（画面づくり、構成、文字）</li> <li>10. マップ作成Ⅱ コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（マップをつくるパソコンの基本操作）</li> <li>11. マップ作成Ⅲ コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（スキャン、切り抜き、張付け、文字）</li> <li>12. マップ作成Ⅳ コンセプトマップ I～Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる</li> <li>13. マップ作成Ⅴ コンセプトマップ I～Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる</li> <li>14. プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの仕方の解説（分りやすく話して伝える、マップを活用する）</li> <li>15. プレゼンテーションⅡ 各自、作成した商品企画マップを使ってプレゼンテーションする（企画書提出）</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	対象ターゲット（アンケート）及びファッション市場の調査（マーケットリサーチ）						
授業方法	様々な事例を参考にブランドコンセプトマップを個別に作成する。（マンツーマン対応）						
評価基準と評価方法	最終成果物（オリジナルマップ）で評価する。						
履修上の注意	<p>パソコンスキルがある方は活かして下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①10回以上の出席がないと、受講資格失う。</li> <li>②遅刻は、欠席扱いとする。</li> <li>③指定する課題を必ず提出する。</li> </ol>						

履修上の注意	
教科書	オリジナルテキスト
参考書	織研新聞、様々なファッション雑誌

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習II						
担当教員	高田 敏代					科目ナンバ-	F22020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	商品開発及び商品販売の為のコンセプト立案（ブランディング）						
授業の概要	ファッションビジネス演習II 演習IIでは演習Iの分析・予測から、具体的な商品企画のステップであるターゲット、情報、コンセプト、コーディネート、デザイン、プロモーションなどの各企画段階をシュミレーションすることで、「マーチャンダイジング」の役割と方法について理解する。また、それに伴うライフステージ・サイクル、シーズンサイクル、ファッションマインド、テストレベルなどの要因についても理解しながら、変化の速いファッション業界に置いて、如何に消費者に的確に訴求できる商品を生産できるかという手法を修得することを目的とする。主としてマーチャンダイジング。						
到達目標	対象マーケットを設定し、ブランドの構築をすることでターゲット及びライフスタイル分析と商品企画コンセプトの立案をすることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アパレル業界の最新市場（秋冬） 小売市場全般とレディース・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します</li> <li>2. アパレル業界の最新市場（秋冬） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル等の動向を解説します</li> <li>3. 商品企画Ⅰ ターゲットの設定 誰のための商品企画をするのかを設定する（性別、年齢、ライフスタイル、価値観等）</li> <li>4. 商品企画Ⅱ ライフスタイル分析 ターゲットが365日どのような生活スタイルを持っているのかを分析する</li> <li>5. 商品企画Ⅲ ライフスタイル分析 ターゲットの365日のライフスタイルを雑誌切り抜きでマップに表現する</li> <li>6. 商品企画Ⅳ 商品イメージの分析 商品化したい商品（ファッション関連商品）の市場や商品の情報を集める</li> <li>7. 商品企画Ⅴ 商品イメージの分析 商品化したい商品のイメージを具体的に雑誌切り抜きでマップに表現する</li> <li>8. 商品企画Ⅵ 商品展開計画の作成 どのチャンネルでどのように販売するのか（価格、サイズ等）を決める</li> <li>9. マップ作成Ⅰ コンセプトマップ コンセプトマップを作成する基本テクニック（画面づくり、構成、文字）</li> <li>10. マップ作成Ⅱ コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（マップをつくるパソコンの基本操作）</li> <li>11. マップ作成Ⅲ コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（スキャン、切り抜き、張付け、文字）</li> <li>12. マップ作成Ⅳ コンセプトマップ I～Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる</li> <li>13. マップ作成Ⅴ コンセプトマップ I～Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる</li> <li>14. プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの仕方の解説（分りやすく話して伝える、マップを活用する）</li> <li>15. プレゼンテーションⅡ 各自、作成した商品企画マップを使ってプレゼンテーションする（企画書提出）</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	対象ターゲット（アンケート）及びファッション市場の調査（マーケットリサーチ）						
授業方法	様々な事例を参考にブランドコンセプトマップを個別に作成する。（マンツーマン対応）						
評価基準と評価方法	最終成果物（オリジナルマップ）で評価する。						
履修上の注意	<p>パソコンスキルがある方は活かして下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①10回以上の出席がないと、受講資格失う。</li> <li>②遅刻は、欠席扱いとする。</li> <li>③指定する課題を必ず提出する。</li> </ol>						

履修上の注意	
教科書	オリジナルテキスト
参考書	織研新聞、様々なファッション雑誌

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習III						
担当教員	高田 敏代					科目ナンバ-	F73180
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション商品を販売する小売業における知識とスキルの習得						
授業の概要	演習Ⅲでは演習Ⅰ、Ⅱの商品企画までのプロセスを踏まえ、ファッション商品が店頭でどのように販売されるか、その販売促進の手法であるヴィジュアル・プレゼンテーション (VP)、ヴィジュアルマーチャンダイジング (VMD) の事例を具体的に学ぶ。売り場におけるPOP広告、顧客管理とダイレクトメール、売り場のレイアウトと演出、サイン・ディスプレイ企画と立案などの演習を通じて、商品企画・構成、コンセプトに応じたファッション商品のための魅力的な売り場づくりの手法を習得することを目的とする。コーディネートとスタイリングディスプレイ。						
到達目標	①ファッショントレンド分析 ②ファッション商品販売 売り場作り (陳列と演出) ③小売業のマーチャンダイジングの知識 ファッションコーディネーターとしてのスキルを身につけることができる。						
授業計画	<p>1～3 ファッション市場の現状を知る 最新ファッション市場のトレンドを分析する          インターナショナルデザイナーコレクションをもとにトレンド分析をする</p> <p>4～6 12ヶ月のマーチャンダイジング計画に着手して学び、シーズン計画書を作成する          小売業における品揃え計画書の作成 52週MD (マーチャンダイジング)</p> <p>7～8 DM、カタログ作成の知識を学び、設定した小売業のDM、POPを作成する</p> <p>9 ヴィジュアルプレゼンテーションⅠ 商品陳列の手法 (商品の並べ方の基本とカラー陳列)</p> <p>10 ヴィジュアルプレゼンテーションⅡ 商品演出の手法 (ボディを使ったコーディネート提案)</p> <p>11 ヴィジュアルプレゼンテーションⅢ 売り場作りと売り場運営の基本、販売促進のための知識          什器のレイアウトと導線、照明、サイン計画など</p> <p>12 ファッション商品の販売知識Ⅰ パーソナルアドバイス コンサルテーション販売          販売テクニック・個人に似合う色とデザインを知る</p> <p>13 ファッション商品の販売知識Ⅱ ファッションコミュニケーション (ファッション心理を学ぶ)          パーソナリティを支援する服、パーソナリティを映し出す服</p> <p>14 ファッション販売実習 接客コミュニケーション 販売用語とコミュニケーションスキル</p> <p>15 ファッション販売実習 ロールプレイ 接客実習 いい接客と悪い接客の実践と評価</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	ファッション市場の調査 (トレンド、売り場作り)						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	課題レポートと最終課題作品の評価						
履修上の注意	ファッションビジネス演習Ⅰ、Ⅱを履修者したものに限り。 Ⅰ、Ⅱの履修者の方がより理解しやすい内容になっている。 ※質問は授業の前で受け付けます。 ①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は、欠席扱いとする。 ③指定する課題を必ず提出する。						
教科書	オリジナルテキスト (各項目でプリントして渡します) ファッションコミュニケーション 東方出版 著者 高田敏代 ※デザイン心理学でも同じ教科書を使用します。						
参考書	各自で事前に買購入して頂く書籍は特になし、随時適切な資料や書籍を紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス論Ⅰ						
担当教員	石田原 弘					科目ナンバ-	F22030
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション産業、アパレル産業の研究						
授業の概要	アパレル産業を中心とするファッション産業をハウジングやレジャー産業などまで視野に入れた広い意味での生活産業と位置づけ、その現状を、繊維素材、流通販売、企画広告宣伝などの関連業界の動向を含め、広い角度から概観する。 また、ブランド、マーケティング、マーチャンダイジングなどの基本概念から、企画・生産・流通・消費のプロセスまでを理解し、消費生活における流行、ファッション性の意味を位置づける。 本論はファッションビジネス論Ⅱと併せて同演習ⅠⅡⅢにおける実践的なビジネス体験への導入とする。						
到達目標	ファッションという市場を消費者という立場ではなく、生産者・販売者の立場から見るができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファッションビジネスとは</li> <li>2. ファッションビジネスのマーケティング① 「3C4P」</li> <li>3. ファッションビジネスのマーケティング② 「AIDMAの法則」</li> <li>4. アパレル産業、繊維産業の構造</li> <li>5. アパレル産業の流通</li> <li>6. アパレルメーカーの変遷と現状①「垂直統合」</li> <li>7. アパレルメーカーの変遷と現状②「百貨店との関係」</li> <li>8. SPAの変遷と現状</li> <li>9. ファストファッションの変遷と現状</li> <li>10. ファッション小売り産業の変遷と現状</li> <li>11. 百貨店の変遷と現状① 「日本初のデパートメントストア」</li> <li>12. 百貨店の変遷と現状② 「勝ち組と負け組の経営統合」</li> <li>13. 量販店、SCの変遷と現状</li> <li>14. 専門店の変遷と現状</li> <li>15. アウトレットの変遷と現状</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前は特に準備の必要はないが、授業後には、学習した内容を実際の市場で検証してみることに。						
授業方法	主として講義、						
評価基準と評価方法	課題レポートの提出（60%）および、出席状況（40%）						
履修上の注意	ファッションビジネスは座学ではないので、日々の消費行動において、売り手側の販売促進や販売方法をよく観察することが、本科目の理解を深めることになる。						
教科書	特になし。 必要であればプリントを配布。						
参考書	特になし。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス論II						
担当教員	石田原 弘					科目ナンバ-	F72040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション産業、アパレル産業の研究						
授業の概要	ファッションビジネス論 I に続き、デザイナーをはじめとする専門職種の業務の実際、マーケティングやライフスタイル情報の収集、マーチャンダイジングの企画方法、ファッションコーディネートとスタイリング、ディスプレイなどファッションビジネスを支える実務に関する知識を体系的に習得する。また、デザインの果たす役割、消費社会とライフスタイル、技術革新や環境問題などの要因も考慮し、消費者、生活者の視点から創造的なライフスタイルを提案できるファッションビジネスの在り方を探る。						
到達目標	ファッションという市場を消費者という立場ではなく、生産者・販売者の立場から見ることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 昨今のファッションビジネス① 「人口ピラミッド」</li> <li>2. 昨今のファッションビジネス② 「プロダクトアウトとマーケットイン」</li> <li>3. 昨今のファッションビジネス③ 「トップ・オブ・ザ・ピラミッドとノームコア」</li> <li>4. 昨今のファッションビジネス④ 「ファッションの空間的な拡がり」</li> <li>5. 昨今のファッションビジネス⑤ 「垂直統合と水平統合」</li> <li>6. 昨今のファッションビジネス⑥ 「平等と公平」</li> <li>7. ファッションビジネスの計数知識 ① 「Plan Do See Check」</li> <li>8. ファッションビジネスの計数知識 ② 「売上、仕入、粗利益」</li> <li>9. ファッションビジネスの計数知識 ③ 「在庫」</li> <li>10. ファッションビジネスの計数知識 ④ 「経費、営業利益」</li> <li>11. ファッションビジネスの計数知識 ⑤ 「店の計数管理」</li> <li>12. ファッションビジネスの広告宣伝 ① 「マスメディア」</li> <li>13. ファッションビジネスの広告宣伝 ② 「マーケティングコミュニケーション」</li> <li>14. 質疑応答及び試験</li> <li>15. ファッションビジネスの変遷と現状</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前は特に準備の必要はないが、授業後には、学習した内容を実際の市場で検証してみることに。						
授業方法	主として講義、また、学外研修としてアパレルメーカー、物流会社、ファッション美術館等の見学を実施する可能性もあります。また、週末に学外でのファッションショー等の実施の可能性もあります。この場合、モデルやスタッフとして全員参加とし、次回の講義との振替となります。（実施会場での現地集合、現地解散、交通費は学生負担）						
評価基準と評価方法	試験（1回）60%および、出席状況 40%						
履修上の注意	ファッションビジネスは座学ではないので、日々の消費行動において、売り手側の販売促進や販売方法をよく観察することが、本科目の理解を深めることになる。週末に学外でのファッションショー等の実施の可能性もある。この場合、モデルやスタッフとして全員参加とし、次回の講義との振替となる。（実施会場での現地集合、現地解散）						
教科書	特になし。 必要であればプリントを配布。						
参考書	特になし。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションブランド論						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	F73220
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションブランドの歴史とその文化的役割について学ぶ						
授業の概要	ラグジュアリーブランドとファストファッションを代表するブランドを取り上げ、ブランドの成立ちや歴史、ブランディング（商品企画、メディア戦略、ブランドイメージ）について学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッションブランドの歴史に関する知識を習得することができる。</li> <li>・ファッションブランドの特性や成立過程について説明することができる。</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ファッションブランドとは</li> <li>3. モードの帝王ポールポワレ</li> <li>4. シャネル1 歴史①ガブリエル・シャネルの生涯</li> <li>5. シャネル2 歴史②ブランドとしてのシャネル</li> <li>6. シャネル3 ブランディング</li> <li>7. エルメス1 歴史</li> <li>8. エルメス2 ブランディング</li> <li>9. ルイ・ヴィトン 1 歴史</li> <li>10. ルイ・ヴィトン 2 ブランディング</li> <li>11. ラグジュアリーブランドとは</li> <li>12. ファストファッションとは</li> <li>13. ユニクロ、無印良品の戦略</li> <li>14. ZARAの戦略</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回、授業で行う当該箇所の予習（詳細は授業内で指示）（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容を整理、復習（学習時間：90分）						
授業方法	講義。資料（プリント）や視聴覚教材（DVDやパワーポイント）を活用する。						
評価基準と評価方法	課題50%、授業中の小レポート30%、授業への参加度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）20%						
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席を必要とする。						
教科書	とくに定めない。						
参考書	『ブランドの世紀』（マガジンハウス、山田登世子） 必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションメディア演習						
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	F73200
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「ファッション・コミュニケーションのための基本的エディトリアル・デザイン」						
授業の概要	商品自体とは別に、ファッション企業は消費者に対して様々なメディアを通じてコミュニケーションを行っている。この演習では主に印刷媒体である紙メディアにおけるコミュニケーションの実例として、基本的なエディトリアルデザインに必要な知識と技能を習得する。また、グラフィックソフトを利用し、PC上で基本的なレイアウト・デザインの技法を基に、履修者各自がセンスを活かしてブランドイメージを伝えられることを目標とする。						
到達目標	1) ブランドイメージを伝えるグラフィック・デザインの必要性と特徴が理解できる。 2) ファッション関連テーマの冊子構成手法の基礎を理解している。 3) バランスのとれたページレイアウト、読みやすいタイポグラフィなどのエディトリアル・デザインのルールを踏まえたデザインができる。						
授業計画	1) 10/02 オリエンテーション - 「ファッションメディア」の分類と現状- 2) 10/09 ブランドプロモーションツールの種類 (カタログ、DM、ショップカードなど) とデザイン 3) 10/16 1ブランドロゴとタイポグラフィ- 4) 10/23 仮想ブランドのロゴ制作 5) 10/30 エディトリアルデザインの基礎 - ページレイアウトとタイポグラフィ- 6) 11/06 イラストレータによる冊子 (リーフレット・パンフレット) 制作の基礎 7) 11/13 雑誌スタイルの見開きページレイアウトパターン 8) 11/20 コレクション・レビューページのデザイン 9) 11/27 ブランドプロモーションツール制作 (1) 対象ブランド選択・情報収集 10) 12/04 " (2) 3つ折りリーフレット (A4縦) 構成プラン 11) 12/11 " (3) レイアウト詳細デザイン 12) 12/18 個人別テーマ設定とパンフレット企画 13) 01/08 パンフレット (10頁B5サイズ) 制作 (1) 素材収集・ページ構成 14) 01/15 " (2) 見開きページレイアウト 15) 01/22 " (3) 表紙デザイン・印刷製本						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	ファッション雑誌、カタログなどの媒体における魅力的なブランドイメージのデザインを普段から注意深く観察する。						
授業方法	演習・実技						
評価基準と評価方法	平常点 (段階的なスキル習得には出席が前提。欠席の場合は減点) 30%、成果物70%						
履修上の注意	分析・検討の対象となる既成のイメージ表現や、制作・企画対象となる映像やデザインは各自の関心により自由に選択できるものとする。従って、自身の興味や感性を明確に限定できることが望まれる。						
教科書	特に無し。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ボディファッション論						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F12090
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	身体装飾、身体変形の領域を社会現象とともに学び、現代ファッションの意味を考える。						
授業の概要	現代のファッションは、衣服やアクセサリーを含む服飾という範囲を超え、スポーツウエアや下着などはもちろん、より身体に密着した領域であるヘアスタイル、化粧などの美容、ピアス、タトゥーなどの身体装飾・身体変形の領域にまで拡張し、様々な社会現象として注目を集めている。身体そのものを基盤とするようなこうした現象をボディファッションと捉え、その歴史を多様な民俗的な習慣にまでさかのぼり、その精神的・文化的な背景とともに現代ファッションに及ぼす意味について考える。						
到達目標	1) 人間はなぜ衣服を着るのかについて説明できる。 2) 身体加工の意味を述べることができる。 3) 身体装飾の意味を説明することができる。 4) 衣服の社会性を列挙することができる。						
授業計画	1. オリエンテーション(課題テーマ、方針・進め方の説明) 2. 人間はなぜ衣服を着るのか? 3. 「ファッションドリーム①」のビデオを見て、衣服の意味を考える。 4. 衣服の始まりと役割 5. 身体加工①なぜピアスをつけるのか、現象を考える。 6. 身体加工②「ファッションドリーム②」のビデオを見て、身体加工の現象を読み解く。 7. 身体加工③頭、体の部位の加工についてコルセットを例に説明する。 8. 身体加工④「ブランド・フェラガモ」のビデオを見て、足の加工を纏足などの例に解説する。 9. 身体装飾①化粧をする意味を説明する。 10. 身体装飾②ボディーペインティング、TATOOをする意味を説明する。 11. 身体装飾③身体を飾る現象を読み解く 12. 衣服の社会性①制服の意味を考える 13. 衣服の社会性②モード化する社会を流行から読み解く 14. ジャポニズムを例に洋服と着物の違いから体型を説明する 15. 究極の身体美とは何かをまとめる						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 授業内で説明する。(学習時間60分) 授業後学習: 学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。(学習時間60分)						
授業方法	①各回設定のテーマでレジュメを配布する。レジュメに沿って講義するため、授業前準備学習と授業後学習に使用する。 ②資料はプリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	レポート80%: 身体加工および身体装飾の歴史的背景に沿って分析し、解説する。授業で学習した方法で研究しまとめる。到達目標(1)~(4)に関する到達度の確認。 課題20%: レジュメを評価する。レジュメは、授業内容の確認と授業後学習を評価する。到達目標(1)~(4)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	①10回以上の出席がないと、受講資格を失う。 ②遅刻は、欠席扱いとする。 ③指定する課題は締切までに必ず提出する。						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。						
参考書	バーナード・ルドフスキー著『みっともない人体』(鹿島出版会) 鷺田清一著『ファッションという装置』(河合ブックレット17) ジョアン・フィンケルシュライン著、成実弘全訳『ファッションの文化社会学』(せりか書房)						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	モダンアート実習						
担当教員	川嶋 守彦					科目ナンバ-	F31050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	アートから学ぶ、イメージング方法の研究とその実践。						
授業の概要	<p>アートやデザインは言葉や言語を介さずにイメージの持つ力で他者とのコミュニケーションの可能性を示すものであり、日々の会話やジェスチャーと同じ表現の一形態であり、極私的表現が普遍性や社会性を持ち、我々に対する強いメッセージにも成りうるものでもある。とりわけ、モダンアートや現代美術と呼ばれるものはその名とおり、現代社会に対してイメージーションによる変化を促すものである。</p> <p>では、それら現代のアートやデザインはどのような思考によって表現されているのか。その表現の核となる概念を見出すこと。それは決して難解なものではなく、具体的な表現方法を実制作を通して学びます。簡単なデッサンから始め、基礎的な絵画技法を各テーマの中で習得してゆき、最終課題の自由制作へ向けて授業は進んでいきます。</p> <p>当授業は主に絵画制作基本としているが、着想の仕方や構想の展開は絵画だけで成されるものではなく、履修者それぞれに合った素材や表現形態の可能性を模索します。各回に設定されたテーマはそのための補助線となります。なにより、実際に楽しみながら手をうごかし、素材の中で思考することが重要である。</p>						
到達目標	<p>基礎的なデッサンや着彩技法を習得することが出来る。</p> <p>また、実制作を通じた独自の発想力や着想の視点確立はそれぞれの履修者にとって、今後の多彩な表現におけるヒントとなり、イメージングの基礎力を育成することが出来る。</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（授業内容の説明）</p> <p>第2回 石膏デッサン（簡単な幾何模型がモチーフの鉛筆デッサン）</p> <p>第3回 石膏デッサン</p> <p>第4回 石膏をモチーフとした着彩（アクリル絵の具による着彩）</p> <p>第5回 静物をモチーフとした着彩（身の回りの物をモチーフとした絵画制作）</p> <p>第6回 タッチと色彩によるイメージの変化（色彩とタッチによる絵画制作）</p> <p>第7回 10のイメージカード制作（一つのモチーフで10パターン異なるイメージを）</p> <p>第8回 アートを観賞する（学外美術施設へのアート見学）</p> <p>第9回 ことばから（4つの名詞をイメージの核にしたスケッチ制作）</p> <p>第10回 身体性の表現、くりかえす行為（身体を意識した表現を試みる）</p> <p>第11回 カメラによるイメージハンティング（カメラを使用しテーマに沿った被写体の撮影と構成）</p> <p>第12回 空想家具（テーマに基づいたデザイン画制作）</p> <p>第13回 自由制作の構想（各自がテーマを見つけ出し具体化の構想スケッチ制作）</p> <p>第14回 自由制作（自らが構想したテーマと素材で制作）</p> <p>第15回 自由制作（自らが構想したテーマと素材で制作とその講評）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>実習科目であるため、各テーマに基づく作品を授業時間内に完成すること。</p> <p>もし、未完の場合は次回授業までには提出すること。</p>						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	<p>出題テーマに対する理解、応用、技術、発想力、熱心さ（受講姿勢）、提出物を期限内提出ができていないか、出席日数（10回以上の出席）をトータルで判断。</p>						
履修上の注意	<p>画材や材料（絵の具やスケッチブック他）は各自で用意すること。（詳しい用具は第一回のガイダンスで説明）</p> <p>第8回 アートを観賞する（美術施設へのアート見学）については美術展の営業時間内に見学できない場合や雨天（野外展）、県外への美術展には授業日以外の日や授業テーマの入れ替えを行う場合があります（施設観賞料金、交通費は各自の負担となる）</p>						
教科書	なし						

参考書	なし
-----	----

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ライフカラーコーディネート演習／イメージリテラシーⅣ（カラーコーディネート演習）						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F72030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	色彩の知識から演習を通じ幅広く理解する。						
授業の概要	カラーデザイン論の応用演習科目として位置付ける。カラーを通じてウェブデザインを表現し、ウェブサイト制作のカラー配色法を学ぶ。カラーの応用力を養うために常識的な内容から順序を踏み、体系的に学ぶ。「色とは何か」から色の性格を理解し、色の表し方や色の調和、色の知覚的效果、色の感情効果、色の美的効果を中心に演習を通じ理解する。次に、色の基礎的知識を得た上で応用編としてウェブサイトの配色計画を、演習をとおして習得する。						
到達目標	1) 配色が分類できる。 2) テーブルカラーコーディネートが出来る。 3) 好きな色を活かしながら快適な空間を演出するインテリアカラーコーディネートが出来る。 4) パソコンを使ってファッションカラーコーディネートができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：色の本質を説明</li> <li>2. 配色①：色相、トーンをもとにした配色を演習</li> <li>3. 配色②：ナチュラルハーモニー・コンプレックスハーモニーの配色を演習</li> <li>4. 配色③：ドミナント、トーンオントーン、トーンイントーンの配色を演習</li> <li>5. 配色④：トータル、カマイユ、フォカマイユの配色を演習</li> <li>6. 配色⑤：トリコロール、ビコロール、マルチカラーの配色を演習</li> <li>7. 配色⑥：セパレーション、グラデーションの配色を演習</li> <li>8. Work paperで復習しよう</li> <li>9. テーブルカラーコーディネート1：色とテーブルコーディネートとの関係の配色を演習</li> <li>10. テーブルカラーコーディネート2：テーマに合わせたテーブルコーディネートに挑戦</li> <li>11. インテリア1：個人や家族の空間と快適な色との関係の配色を演習</li> <li>12. インテリア2：好きな色が主役の理想の部屋づくりに挑戦</li> <li>13. 色の見やすさを重視したウェブサイトのコーディネート</li> <li>14. パソコンを使ってファッションカラーコーディネート</li> <li>15. パソコンを使ってテーブル・コーディネートとインテリア・コーディネート</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間60分） 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。（学習時間60分）						
授業方法	①毎回、演習形式で行う。配色を演習する。 ②教科書を中心に進める。						
評価基準と評価方法	課題（練習問題も含む）100%：各回設定のテーマの課題を評価する。課題はその日に提出する。提出やり直しが遅れるごとに減点していく。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法：採点して返却する。満点になるまでやり直し提出する。						
履修上の注意	① 10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ② 遅刻は欠席扱いとする。 ③ 指定する課題を締切までに必ず提出する。 ④ 毎時間、配色カード、のり、はさみを持参する。 ⑤ 教科書は、必ず購入する。						
教科書	財団法人日本色彩研究所監修『fashion color co-ordinate work paper 配色実習台紙』（日本色研事業株式会社） 財団法人日本色彩研究所監修『カラーコーディネートの基本』（日本色研事業株式会社） 財団法人日本色彩研究所監修『新配色カード199b』（日本色研事業株式会社） 尚、『新配色カード199b』を1年で購入した学生は、購入しなくてよい。						
参考書	授業内にて紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ライフスタイル入門／ライフスタイル論						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F01030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生活文化を軸としてライフスタイルを考える。						
授業の概要	ファッションおよびハウジングデザインは個人や家族の生活様式、ライフスタイルと密接な関係にある。戦後、経済発展するとともにライフスタイルの多様化・個性化、モノからこころへの価値観の変化などが見られる。そこで、自分のライフスタイルを分析し、ファミリーライフサイクルを理解する。社会背景から少子化・高齢化時代のライフスタイル、健康福祉とライフスタイルの観点からライフスタイルについて考える。最後にライフスタイルに合わせたファッションコーディネート提案する。						
到達目標	1) 私のライフスタイルが説明できる。 2) 図表を読み取り、ファミリーライフサイクルの図が作れる。 3) ライフスタイルのファッション計画が作れる。 4) ライフスタイルに合わせたコーディネートが説明できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 課題テーマ、方針・進め方の説明</li> <li>2. ライフスタイルとは何か?</li> <li>3. ライフスタイル①: TPOと購買行動</li> <li>4. ライフスタイル②: パーソナルカラー</li> <li>5. ライフスタイル③: ワードローブチェック</li> <li>6. 家族周期と私のライフスタイル</li> <li>7. 家庭生活と家族Ⅰ ー家庭と家族のあり方の変化ー</li> <li>8. 家庭生活と家族Ⅱ ー女性のライフスタイルの変化ー</li> <li>9. 世代によって異なるライフデザイン(生活設計)とその考え方</li> <li>10. 生活時間の管理・労働・余暇</li> <li>11. 世代別ライフスタイル分析</li> <li>12. 雑誌から読み取るライフスタイル</li> <li>13. ライフスタイルとファッション計画</li> <li>14. ライフスタイルとファッションイメージ</li> <li>15. ライフスタイルに合わせたコーディネート、最後に試験</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 授業内で説明する。(学習時間60分) 授業後学習: 学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。(学習時間60分)						
授業方法	①資料はプリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ②各回授業の内容に沿った課題をする。						
評価基準と評価方法	試験50%: ライフスタイルの理解度を評価する。到達目標(1)および(4)に関する到達度の確認。 提出物50%: 各回設定のテーマの課題を評価する。到達目標(1)および(4)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は、欠席扱いとなる。 ③指定する課題を締切までに必ず提出する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						